

博士前期課程

シラバス

(令和7年度)

2025

日本大学大学院総合社会情報研究科

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- ・ **日本の特質を理解し伝える力**
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- ・ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- ・ **社会に貢献する姿勢**
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- ・ **問題発見・解決力**
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- ・ **コミュニケーション力**
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- ・ **リーダーシップ・協働力**
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- ・ **省察力**
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： Basic		中上級領域： Intermediate and Advanced		
		1	2	3	4	
		自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。
A-2：世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。			世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力		仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。
	A-4：問題発見・解決力		事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。	創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力または他者と協働して問題を解決することができる。
	A-5：挑戦力		新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て、準備することができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
自ら道をひらく	A-6：コミュニケーション力		親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い、他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
	A-7：リーダーシップ・協働力		集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者として他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
	A-8：省察力		自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況を自己分析し、その成果を評価することができる。	学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。

必修科目

人間科学特講	田中堅一郎・釋 文雄	1
--------	------------	---

哲学コース

社会哲学特講	中澤 瞳	4
哲学史特講	齋藤 宜之	7
宗教哲学特講	宗教 石浜 弘道	10
科学哲学特講	青木 滋之	13
生命倫理学特講	吉田一史美	16
社会思想史特講	岡山 敬二	19

心理学コース

心理学史特講	荒川 歩	22
心理学研究法特講	眞邊 一近	25
認知心理学特講	山本 真菜	28
認知心理学特講	望月 正哉	31
社会心理学特講	和田 万紀	34
産業・組織心理学特講	田中堅一郎	37
臨床心理学特講	菊島 勝也	40
臨床心理学特講	北村 世都	43
医療心理学特講	鎌倉やよい	46
行動分析学特講	杉本 任士	49
コミュニケーション心理学特講	眞邊 一近	52

教育学コース

生涯学習論特講	古賀 徹	55
学校教育学特講	黒田 友紀	58
教育心理学特講	時田 学	61
教育臨床学特講	井上 雅彦	64
生徒指導論特講	田中 謙	68
教育評価論特講	藤田 主一	71

医療・健康科学コース

健康科学特講	釋 文雄	74
健康科学特講	丹羽 秀夫	77
安全学特講	河野龍太郎	80
人間工学特講	河野龍太郎	83
環境生理学特講	泉 龍太郎	86
環境生理学特講	釋 文雄	89

スポーツ科学コース

スポーツ運動学特講	森長 正樹	92
スポーツ医学特講	秦 光賢	95
スポーツ心理学特講	橋口 泰一	98
コーチング学特講	山本 大	101

専攻共通科目

調査分析特講	田中堅一郎	104
統計基礎Ⅰ	佐藤 友彦	107
統計基礎Ⅱ	佐藤 友彦	110
ゲーム理論	米田 紘康	113

人間科学専攻

(シラバス)

シラバス

シラバスには、教材の概要・参考図書・履修上のポイント・レポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

レポートの提出期限は、9月・1月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	人間科学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
			田中 堅一郎						

【科目概要】

目的	<p>これから人間科学を学び、人間科学の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシー、具体的には研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法等について理解してもらうことを目的とする。各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことについては、特別研究指導教員が説明する。</p> <p>I. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。</p> <p>II. 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。</p> <p>III. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。</p>								
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 人間科学で研究・論文作成する上で「常識」とされる知識を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ・人間科学を学び、修士論文を作成するまでに必要なリテラシーを理解することができる。具体的には、 a) 研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件を理解できる、b) 自分の研究課題に関する先行研究を文献検索することができる、c) 研究倫理について、研究を進める上でやってはいけないことを理解でき、修士論文作成に反映できる。 ・自分の研究領域において研究を進める上で必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。</p>								
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 【学修方略(LS)】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、manaba folioを通して適宜科目担当者に質疑をする(レポート作成)。 ・2025年5月3日～5月5日に実質3日間実施されるスクーリング(集中対面授業)に出席することが、単位取得の要件となる。また、レポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までにmanaba folioに提出する(ディベート、自主研究)。</p> <p>【学修時間】 在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)レポート執筆；10時間、3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)；15時間。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・レポートの推敲過程において、manaba folioの全受講者用の掲示板機能(「スレッド」)に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材(OER)を基本教材の補助として視聴する。</p>								
スケジュール	<p>この講義は、人間科学専攻において研究を進める上で欠かせない内容であり、初年度教育に相当するので、スケジュールの調整がつかざり、初年度に履修すること。</p> <p><通信授業(在宅学習)2単位分：基本教材1> できるかぎりスクーリング前までに基本教材1および参考文献を通読し、スクーリングに備える。基本教材1についてレポート課題を作成し、9月中旬の学事歴で定められた提出日までに最終稿を提出する。</p> <p><スクーリング 2単位分> 2025年5月3日～5月5日(必要に応じ、オンラインを併用する) 1) 研究、及び論文作成に必要なリテラシー(三専攻合同講義、担当：島田めぐみ、加藤孝治、田中堅一郎、釋文雄) 2) 人間科学専攻分野における研究基盤としての知識(担当：田中堅一郎、釋文雄) 3) 人間科学専攻分野における様々な課題(担当：特別研究担当教員) レポート提出の目安は、以下の通りです： (1)スクーリング・レポート課題1；5月第2週(初稿) (2)スクーリング・レポート課題2；9月末(初稿)</p>								
成績評価	種別	評価基準						割合	
	通信授業 (在宅学習)	<p>・最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)ゼロ点となります。 ・草稿を一度も出さず、提出期限間際いきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。</p>						50%	
	スクーリング	スクーリングの参加状況(ディスカッションを含む；10%)及びレポート課題1(10%)及びレポート課題2(30%)により評価。						50%	
履修者への要望	<p>・レポート作成にあたっては、教材の引き写しは評価の対象外とします。 ・スクーリング受講前に、基本教材1に必ず目を通して下さい。 ・いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。 ・レポート課題については、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねるのではなく、論文の体裁で書いて下さい。</p>								

【レポート課題】

基本教材 1(通信授業/在宅学習用)	
教材の概要	<p>著者名：高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(編著) 教材名：『人間科学研究法ハンドブック(第2版)』(ナカニシヤ出版, 2011年) ISBN:978-4-77-950419-8 2,800円+税</p> <p>心理学を中心とした人間科学の研究法について、様々な視点から解説されている。章立ては以下の通り：第1章(研究とは何か)、第2章(データの収集)、第3章(研究の設計と管理)、第4章(人間科学における研究倫理について)、第5章(文献調査の方法)、第6章(メッセージ分析)、第7章(観察法)、第8章(調査的面接法)、第9章(フィールド研究におけるインタビュー)、第10章(質問紙調査法)、第11章(実験法)、第12章(研究論文の書き方1)、第13章(研究論文の書き方2)</p>
参考図書	<p>・トゥラビアン, K. 沼口隆・沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』(慶應義塾大学出版会, 2012年) ISBN 978-4766419771 8,000円+税 ・三浦麻子『なるほど! 心理学研究法(心理学ベーシック第1巻)』(北大路書房, 2017年) ISBN978-4-7628-2966-6 2,200円+税 ・新堀 聡『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』(同文館出版, 2002年) ISBN 978-4-4958-6511-5 1,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>・参考図書などをもとに、馴染みのない専門用語を確認することが望ましい。 ・スクーリングの講義で、基本教材1についての話題を中心とする予定である。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章を要約し、レポートの最後に全体についてのコメントを述べること。</p> <p>留意点：各章を800字程度を目安に要約し、全体についてのコメントを付記すること(合計7,000字~8,000字程度を目安にすること)。教材の引き写しは評価の対象外とする。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章の中から1つの章を選び、その章の内容を自分の興味・関心の高いことごとをを中心に、3,000字~4,000字でまとめること。</p> <p>留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います。</p>

基本教材 2(スクーリング)	
教材の概要	<p>著者名：各推薦図書参照 教材名：スクーリングで提示された推薦図書</p> <p>スクーリング時の各担当から紹介・推薦された図書を適宜使用してください。</p>
参考図書	<p>・坂口典弘・山本健太郎『心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで』(講談社, 2017年) ISBN 978-4-06-154809-1 1,900円+税 ・山崎茂明『科学者の発表倫理 不正のない論文発表を考える』(丸善, 2013年) ISBN 978-4-621-08654-4 2,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>スクーリング前半においては、①研究及び論文の最低条件を理解し、②研究を進めるための基本的なスキルを身に付けるとともに、③研究及び論文作成のモチベーションを高めるようにする。また、後半においては、各分野に共通する基礎的な課題を学際的に考察して、研究基盤となる知識・教養の習得に努めるようにする。</p> <p>いずれにおいても、事前の準備と講義中の発言及び質問など積極的な姿勢がポイントとなる。</p>
レポート課題1	<p>スクーリングの概要を要約し、それについて意見をまとめる。特定の講義を取り上げても構わないが、その場合は先に講義担当教員のレビューを受けること(1,000字~1,500字)。</p> <p>留意点：意見のまとめを充実させて記載してください。</p>
レポート課題2	<p>各分野の研究手法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、研究計画書(3,000字~4,000字)をまとめ、特別研究指導担当教員のレビューを受けた上で提出してください。</p> <p>留意点：現段階での研究計画書ですので、結果等が出ていない場合は研究の背景、目的、方法を主に記載してください。方法は具体的に記載してください。</p>

基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的に理解する：人間科学における研究とは何か（第1章）
第2回	データの収集（第2章）、研究の設計と管理（第3章）
第3回	人間科学における研究倫理（第4章）
第4回	文献調査の方法（第5章）
第5回	メッセージ分析を理解する（第6章）
第6回	観察法を学ぶ（第7章）
第7回	調査的面接法とはなにか（第8章）
第8回	フィールド研究で用いられる研究方法（第9章）
第9回	質問紙調査法（第10章）
第10回	実験法（第11章）
第11回	研究論文の書き方（第12章、13章）
第12回	レポート課題の作成(1)：レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第13回	レポート課題の作成(2)：レポート課題1の最終レポート作成
第14回	レポート課題の作成(3)：レポート課題2の課題内容を選択し草稿を作成する。さらに教員からの指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題の作成(4)：レポート課題2の最終レポート作成

基本教材2

第1回	三専攻合同講義 専攻主任が 分担して担当	研究及び論文作成に求められるもの（担当者：加藤孝治・釋文雄）
第2回		論文作成の基礎と先行研究のレビュー（担当者：島田めぐみ）
第3回		研究倫理1（担当者：田中堅一郎）
第4回		研究倫理2（担当者：田中堅一郎）
第5回		主な研究スタイルと論文の構成－研究目的の決め方と論証・検証の方法」（担当者：神井弘之・島田めぐみ・釋文雄）
第6回		大学院で何を研究するか、研究テーマの紹介・意見交換（担当者：神井弘之・島田めぐみ・釋文雄）
第7回		修士論文を完成させるための工夫・努力（担当者：神井弘之・島田めぐみ・釋文雄）
第8回	人間科学専攻 講義の順番は 変更される 可能性がある	人間科学Ⅰ（担当者：田中堅一郎）
第9回		人間科学Ⅱ（担当者：田中堅一郎）
第10回		人間科学Ⅲ（担当者：田中堅一郎）
第11回		人間科学Ⅳ（担当者：田中堅一郎）
第12回		哲学（担当者：中澤瞳）
第13回		教育学（担当者：黒田友紀）
第14回		スポーツ科学（担当者：秦光賢）
第15回		医療・健康科学（担当者：釋文雄）

科目名	社会哲学特講	担当者	ナカザワ ヒトミ 中澤 瞳	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	--------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>社会哲学特講は、哲学の文献の精読と解釈を通して、自明のものとなっている社会規範を捉えなおし、哲学的な視点から批判的に、論理的に考察することを目的とする講座である。この講座を通して、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(1) 文献の読解、要約、解釈、説明を行い、それをもとに論述することができる。</p> <p>(2) 身の回りの出来事の中から問題を発見し、分析し、批判的な思索を行うことができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 基本教材である文献の内容を正確に読み取ることができる。(思考/知識・解釈) 文献の内容を前提として、関連する問題を考察することができる。(思考/知識・問題解決)</p> <p>【行動目標(SBOs)】 (1) 「実存主義はヒューマニズムである」の主張を理解し、説明することができる。(知識・解釈) (2) テーマに即した問題を身の回りの中に発見し、考察することができる。(知識・問題解決) (3) 問題を立て、その問題を通して自らの見解を論拠と一緒に提示することができる。(技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 レポートの作成。(レポートの作成のためには、文献収集、文献読解、問題と主張と論拠の設定、アウトラインの作成、レポートの執筆、推敲、修正などが含まれる。)一次文献(本講座では「実存主義はヒューマニズムである」の読解、および二次文献の情報収集と読解に合計25時間以上、提出までのレポートのやりとり(レポート執筆、指導、再提出などのやりとり)に20時間以上を目安としている。〔最低45時間の学修時間を要する〕</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材の読解とレポートの作成が主であるが、これに加えて身近なところから問題を発見し、考察することも課題には含まれている。この作業は、主体的な学び、深い学びにつながっている。また、レポートの往復やmanaba folio上でのやりとりを介して、読み手を考えた論述、表現について学ぶことができる。この作業は対話的な学びにつながっている。</p>		
スケジュール	<p>レポートは前期(9月)・後期(1月)に提出期限が設定されている。最終稿の提出は、学事歴で定められた日を期限とする。これは、あくまで最終稿の期限であり、初稿はその前に提出する。初稿提出期限の目安は以下の通りとする。</p> <p>前期(基本教材1): レポート課題1(7月15日) / レポート課題2(8月15日) 後期(基本教材2): レポート課題1(11月15日) / レポート課題2(12月15日)</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題レポートを重視する。課題未提出の場合、評価は行わない。	70%
	観察記録	レポート添削への対応や往復による学修姿勢により評価。	30%
履修者への要望	<p>1) 哲学の文献を読み、その内容を理解することは容易なことではありません。したがって、まず文献を精読する必要があります。精読するためには、以下の点に特に注意して、段落ごとにメモをとりながら読むようにしてください。①その段落の中で中心的な話題となっているものはなにか。②中心的な話題に対して、どのような意見が提示されているか。③その意見はどのような理由によって根拠が与えられているか。④その段落の内容は、前後の段落の内容とどのような関係にあるのか。</p> <p>(2) 哲学の文献の内容を他人に説明することもまた容易ではありません。説明の際には、精読した際のメモを見ながら、以下の点に注意して、文献全体をまとめるようにしてください。①文献全体としてなにが問題になっているのか。②その問題を通して、著者はなにを主張しているのか。③その主張の根拠となっているものはなにか。</p> <p>(3) 自らの考察を他人に分かってもらえるように説明するのも簡単ではありません。読み手を常に意識して、独りよがりの文章にならないように気をつけて、論旨を明確に書くように注意してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：ジャン・ポール・サルトル、伊吹武彦、海老坂武、石崎晴己 訳 材名：「実存主義はヒューマニズムである」『実存主義とは何か』所収
	人文書院、2022年、ISBN: 4409030426、1,900円+税
参考図書	参考になりそうな文献の一部を記載 ・澤田直編、2015『サルトル読本』法政大学出版局 ・澤田直、2002『〈呼びかけ〉の経験 サルトルのモラル論』人文書院 ・別冊『環』11、2005『サルトル 1905-80——他者・言葉・全体性』藤原書店 ・M・ハイデッガー、渡邊二郎訳、1997『「ヒューマニズム」について』筑摩書房
履修上のポイント	本教材は、「実存主義はヒューマニズムである」のみをレポート課題の対象とします。ただし、合わせて、同文献所収の「討論」、「実存主義について一批判に答える一」も目を通すと、実存主義の理解の参考になると思います。教材1の課題は、主にテキストの要約が主です。教材1の課題ではテキストの引用を行いながら、要約を行うようにしてください。分量もご注意ください。
レポート課題1	「実存は本質に先立つ」とはどのような考えか説明してください。 留意点：字数：4000字以内。サルトルがどのような批判や見解に対峙することから、実存は本質に先立つという考えを導き出してきたのかに留意して説明すること。キリスト教、近代哲学に対するサルトルの考えを検討すると分かりやすい。
レポート課題2	サルトルが責任についてどのように述べているか説明してください。 留意点：字数：4000字以内。アンガジュマンと責任の関係に触れたり、不安、孤独、絶望という言葉の意味を展開したりしながら、責任についてサルトルが述べている個所を参考にすると検討しやすい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：ジャン・ポール・サルトル、伊吹武彦、海老坂武、石崎晴己 訳 材名：「実存主義はヒューマニズムである」『実存主義とは何か』所収
	人文書院、2022年、ISBN: 4409030426、1,900円+税
参考図書	基本教材1の個所に記した通り。
履修上のポイント	本教材は、「実存主義はヒューマニズムである」のみをレポート課題の対象とします。ただし、合わせて「討論」、「実存主義について一批判に答える一」も目を通すと、実存主義の理解の参考になると思います。教材2の課題は、テキストの要約が主の課題と、自らテーマを設定して考える課題があります。
レポート課題1	「実存主義は人間を個々の主体性に閉じ込める」という批判に対して、サルトルが反論した内容についてまとめてください。 留意点：字数：4000字以内。特に、テキストの64ページ以降の内容に注意をまとめてください。
レポート課題2	「実存主義はヒューマニズムである」についてテーマを設けたうえで、あなたの意見を述べてください。 以下の形式に沿って論述を行って、レポートを作成してください。形式は、導入、展開、結論の3つの部分からなります。3つの部分の中にはそれぞれ指定された項目があります。例えば導入部分には「どのようなテーマを設定したか」という項目がありますので、それに対応する記述を含めるようにしてください。他の項目についても同様です。テーマは自由に設定して構いません。思い浮かばない場合を想定して、設定するテーマ例を二つ挙げますので参考にしてください。 テーマ例1) 「実存主義はヒューマニズムである」に対して批判的に読み解く テーマ例2) 「実存主義はヒューマニズムである」を元に現代の責任のあり方を検討する 導入 ・どのようなテーマを設定したか示す ・展開部分の論述のプラン(概要)を提示する(まず〇〇について述べ、次に〇〇について～のような形式で構いません) 展開(3つのポイントからテーマについて論述) ・1 ・2 ・3 結論 ・設定したテーマ、3つのポイントを再度示す ・結論を述べる ・予想される反論、想定できる別のポイントに言及する 参考文献(文献表は文字数に含めません) 留意点：字数の下限は特に設けません。上限としては1万字以内とします。

基本教材1

第1回	レポート課題1を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第2回	レポート課題1を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第3回	レポート課題1を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第4回	レポート課題1を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第5回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第6回	レポート課題1初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第7回	レポート課題1について最終稿を作成する。
第8回	レポート課題2を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第9回	レポート課題2を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第10回	レポート課題2を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第11回	レポート課題2を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第12回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第13回	レポート課題2初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第14回	レポート課題2について最終稿を作成する。
第15回	レポート課題1、2を見直し、課題の理解を深める。

基本教材2

第1回	レポート課題1を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第2回	レポート課題1を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第3回	レポート課題1を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第4回	レポート課題1を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第5回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第6回	レポート課題1初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第7回	レポート課題1について最終稿を作成する。
第8回	レポート課題2を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第9回	レポート課題2を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第10回	レポート課題2を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第11回	レポート課題2を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第12回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第13回	レポート課題2初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第14回	レポート課題2について最終稿を作成する。
第15回	レポート課題1、2を見直し、課題の理解を深める。

科目名	哲学史特講	担当者	サイトウ ヨシユキ 齋藤 宜之	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	-------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	「哲学」とは「みずからの頭で考える」営為そのものです。しかしそれは、たんなる「一人よがり」であってはなりません。哲学史を学ぶことの意義とは、歴史上の優れた知性によって展開された様々な思考を「追体験」することによって、自らの思考力を鍛え上げることにあります。そのような学修を通じて目指してほしいのは、同時代において流通している常識をも相対化しうる巨視的な知性を身に付けることです。			
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的・批判的な思考をする能力を身に付ける。 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する能力を身に付ける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 テキスト読解には文脈を把握するということが重要なので、継続的にテキストに触れること。また、関連する文献についても積極的に参照すること。</p>			
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 文献読解とレポート作成を主にして学修を進める。一本のレポートを仕上げるための過程と必要時間の目安は以下である。 文献読解(20時間) → レポート執筆(15時間) → 担当教員のコメントを受けての修正(10時間)。以上の過程において、疑問点等はメールで質問すること。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 メール等を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p>			
スケジュール	<p>前期・後期ともに、最初の教カ月でテキストと関連文献を十分に読み込んでおくこと。疑問点については担当教員に質問し、以下の期限に遅れないようにレポートを提出すること。</p> <p>「基本教材1」の「レポート課題1」(初稿)を6月30日までに、「レポート課題2」を8月10日までに提出。その後、2つのレポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を学事歴で定められた日までに提出。</p> <p>「基本教材2」の「レポート課題1」は10月31日までに、「レポート課題2」は12月10日までに提出。その後、2つのレポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を学事歴で定められた日までに提出。</p>			
成績評価	種別	評価基準		割合
	レポート	テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。		70%
	観察記録	指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。		30%
履修者への要望	<p>哲学史とは、完成品としての「思想」のカタログなどではなく、悪戦苦闘の「思考」のドキュメントです。まずは、受講者それぞれにとって切実な「問い」を発見してください。そのうえで、自分の考えや常識的な通念はいったん括弧に入れて、テキストが発するメッセージそのものに忠実に耳を傾けることを心掛けましょう。</p> <p>レポート執筆時には、読み手に伝わる正確な文章を書くことを心掛けてください。</p> <p>フォントや改行の仕方、注の付け方など、形式面にも細心の注意を払ってください。</p>			

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：熊野純彦 教材名：①『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書，2006年（ISBN-13：978-4004310075） ②『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書，2006年（ISBN-13：978-4004310082）</p> <p>古代から現代までを網羅する哲学史。①はタレスに始まり，プラトン，アリストテレス，アウグスティヌス，トマス・アキナス等，古代から中世の哲学を解説。②はデカルトに始まり，スピノザ，ライプニッツ，ロック，バークリー，ヒューム，ルソー，カント，ヘーゲル，マルクス，ニーチェ，ベルクソン，フッサール，ハイデガー，ヴィトゲンシュタイン，レヴィナス等，近代から現代の哲学を解説。</p>
参考図書	<p>受講者が課題として選択する哲学者に応じた文献を紹介します。推奨文献を知りたい方は，担当教員まで問い合わせてください。</p>
履修上のポイント	<p>まずは課題図書を通読したうえで，自分が一番おもしろいと思える哲学者（学派・テーマ）を見つけてください。その後で，それに関連する解説書なども読んでみましょう。可能であれば，その哲学者自身が書いた著作にもあたってみましょう。</p> <p>「基本教材1」では，狭義の「哲学史」（哲学のテキストを対象として編まれた歴史）の基本的展開について理解することが目標です。</p>
レポート課題1	<p>教材文献に含まれる哲学者から一人を選択し，その思想について説明せよ。学派やテーマを選択するのも可とする。 留意点：あくまで思想の「説明」に徹すること。</p>
レポート課題2	<p>教材文献に含まれる哲学者から二人（ないしそれ以上）を選択し，両者の思想を比較しつつ独自の考察を加えよ。 留意点：たんなる思想の説明にとどまらずに，受講者独自の解釈・考察・批判等を加えること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：ハンナ・アレント 教材名：『人間の条件』志水速雄訳，ちくま学芸文庫，1994年（ISBN-13：978-4480081568）</p> <p>この書の問いは実にシンプルです。「私たちは何をしているのか？」という問いです。アレントは人間の行為を「労働」「仕事」「活動」の三つに分類し，それらの位置付けと意義が，古代ギリシアから近代にいたるまでにどのような変遷をたどってきたかを明らかにします。この書は，テキスト上の哲学的言説を扱うといった意味での「哲学史」ではありませんが，古代から近代にいたるまでの間における，哲学・思想・世界観の変転，科学とテクノロジーの発展，実社会における様々な変化を有機的に関連させつつ描いているという点で，広義の「哲学史」としても読まれうるものです。</p>
参考図書	<p>・ハンナ・アレント『人間の条件』牧野雅彦訳，講談社学術文庫，2023年（ISBN-13：978-4065314272） [教材テキストの別訳。こちらをテキストとすることも可とする。] ・川崎修『ハンナ・アレント』講談社学術文庫，2014年（ISBN-13：978-4062922364） ・日本アレント研究会『アレント読本』法政大学出版局，2020年（ISBN-13：978-4588151095）</p>
履修上のポイント	<p>「基本教材1」で得た狭義の「哲学史」についての知識を活かしつつ，「基本教材2」では，広義の「哲学史」について学びます。古代ギリシアのポリス，望遠鏡の発明，労働形態の変化等，一般には「哲学史」に含まれないような歴史的出来事，人々の世界観や価値観にいかにか大きな変化をもたらしたかを理解することを目標とします。</p>
レポート課題1	<p>「労働」「仕事」「活動」という三つの「活動力」の違いについて説明せよ。（さらに可能であれば，それらの位置付けや意義が，時代の変遷とともにどのように変化したかについても説明せよ。） 留意点：あくまでアレント自身の説明に即して記述すること。</p>
レポート課題2	<p>『人間の条件』に学んだ知見に基づいて，一般には「哲学史」に含まれないような歴史的出来事に起因する世界観・価値観等の変化について，自由にテーマを設定したうえで論評せよ。 留意点：たんなる「要約」ではない「論考」としてのレポートを書くこと。</p>

基本教材1

第1回	基本教材の概要の把握
第2回	基本教材の読解：『西洋哲学史 古代から中世へ』第1～10章（古代）
第3回	基本教材の読解：『西洋哲学史 古代から中世へ』第11～15章（中世）
第4回	基本教材の読解：『西洋哲学史 近代から現代へ』第1～10章（近代）
第5回	基本教材の読解：『西洋哲学史 近代から現代へ』第11～15章（現代）
第6回	課題の設定と関連文献の研究（推奨文献については、必要に応じて担当教員に質問）
第7回	関連文献の読解
第8回	関連文献の読解
第9回	レポート課題1：初稿の執筆と提出
第10回	レポート課題1：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第11回	レポート課題1：最終稿の執筆と提出
第12回	レポート課題2：初稿の執筆と提出
第13回	レポート課題2：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第14回	レポート課題2：最終稿の執筆と提出
第15回	学修内容全体の総括

基本教材2

第1回	基本教材の概要の把握
第2回	基本教材の読解：第1～2章
第3回	基本教材の読解：第3章
第4回	基本教材の読解：第4章
第5回	基本教材の読解：第5章
第6回	基本教材の読解：第6章
第7回	課題の設定と関連文献の研究（推奨文献については、必要に応じて担当教員に質問）
第8回	関連文献の読解
第9回	レポート課題1：初稿の執筆と提出
第10回	レポート課題1：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第11回	レポート課題1：最終稿の執筆と提出
第12回	レポート課題2：初稿の執筆と提出
第13回	レポート課題2：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第14回	レポート課題2：最終稿の執筆と提出
第15回	学修内容全体の総括

科目名	宗教哲学特講	担当者	イシハマ ヒロミチ 石浜 弘道	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	--------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	人類の歴史とともに存続してきた宗教、それは私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし反面、宗教の超俗的側面ゆえに、ともすれば狂信や迷信、あるいは為政者の支配の道具となり暴走したことも多々あった。そこで本科目では宗教の本質的な在り方とは何かという視点をもとに、宗教の持つ力と倫理的危うさ、そして今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで、宗教の本来の姿を自ら研究・発見し説明できるようにしたい。そしてそれをベースとして今日の宗教的諸問題を客観的に判断し社会に発信できる能力を養う。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 学修者は宗教の本質の理解を通して、世界の諸宗教とその排他性ゆえに生じる諸問題を正確に理解し、あるべき宗教の姿と多様な宗教の固有の存在価値を論理的に提示することを習得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 学修者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に評価できるようになるために、宗教本質論と同時に宗教多元論の立場に立って、世界の多くの宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実に起こっている諸問題を説明できるようにし(知識・解釈)、さらにその解決策を指摘する(知識・問題解決)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず学修者は自分が興味のある一宗教を学修する(自習)【15時間/レポート1本】 ・さらに日本固有の宗教である神道そして仏教、キリスト教、イスラム教、新宗教をも視野に入れ、それらの経典や実践の研究、関連する諸事件分析にも同等の時間を割き幅広く学ぶことに心がける(自主研究)【10時間/レポート1本】 ・1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに5時間以上必要(レポート作成)【10時間/レポート1本】 ・manaba folioへの提出・再提出のやりとりその他に10時間以上が目安(ディベート)【10時間/レポート1本】 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folioを利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解説しレポートを作成する。 		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題 初稿は7月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：教材2のレポート課題 初稿は11月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	テキストを正しく理解し、課題どおりのレポートとしての的確に書かれていること	80%
	観察記録	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること	20%
履修者への要望	哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的面においても、自らの思索を深め、広い視野や客観性を高めるうえでも有効なので、テキスト内容を一字一句、しっかりと吟味しながら読解し、実践することが望ましい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：波多野精一 教材名：『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫、2012年） ISBN:978-4-00-331453-1 1260円＋税</p> <p>日本における宗教哲学の泰斗、波多野精一については、これまでその業績、獨創性、卓越性にもかかわらず、同時代の思想家に比べ、その評価が充分とは言えなかった。その理由の一つは彼の哲学的立場がキリスト教という枠組みの中でのものとみなされてきたからであろう。しかし彼の思想体系は、普遍的な宗教的世界とその背景をなす哲学的人間学からなり、既成宗教を超えて人間存在と超越者の本質に迫ることをその中心としている。</p>
参考図書	<p>熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円＋税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』（岩波書店、1986年）ISBN:4-00-000314-3 1900円＋税 ジャン・グロンダン『宗教哲学』（白水社・文庫クセジュ2015年）ISBN:10-4560509999 1200円＋税 宮本武之助『波多野精一』（日本基督教団出版局、1965年）850円（古書）</p>
履修上のポイント	<p>波多野精一の宗教思想を深く理解するために、テキストを熟読し、同時に上記の参考書や同時代の日本の哲学書を読むことが望ましい。なお哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに哲学史や思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。</p>
レポート課題1	<p>『宗教哲学序論』第3章「正しき宗教哲学」を読み、波多野宗教哲学の方法論である「宗教的体験の反省的自己理解、その理論的回顧」とはどのようなことかを述べなさい。</p> <p>留意点：宗教の世界を解明する方法論は種々あるが、波多野はシュライエルマッハーからティリッヒへと続く宗教体験を重視する立場にたっている。</p>
レポート課題2	<p>『宗教哲学序論』第4章「歴史的瞥見」に紹介されている4人の宗教哲学者から一人選び、そこに示されている宗教の本質を述べなさい。</p> <p>留意点：思想史的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより深く理解できる。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：石浜弘道 教材名：『理性と霊性』（株・テクネ、2021、インターネット・アマゾンでのみ購入可）ISBN:978-4-909601-37-7 2550円＋税</p> <p>宗教に基づく独善主義や狂信、迷信による事件が起こる昨今において、宗教の多様性、寛容性、普遍性を説くスピリチュアリティ（霊性）の宗教が注目されている。そこで本書は諸宗教における霊性の存在とその働き、および私たちの日常の能力である理性と非日常的な能力である霊性との相互関係から霊性的宗教の意味を考察する。</p>
参考図書	<p>石浜弘道『霊性の宗教』（北樹出版、2010年）ISBN:978-4-77-930249-7 2500円＋税 鎌田東二『神道のスピリチュアリティ』（作品社、2003年）ISBN:978-4-87-893593-0 1900円＋税 阿部美哉『現代宗教の反近代性』（玉川大学出版部、1996年） ISBN:4-472-09881-4C3014 3456円＋税</p>
履修上のポイント	<p>テキストを熟読すると同時に、宗教に内在するスピリチュアリティ（霊性）を中心に考える場合、宗教体験が重要なものとなるゆえ、上記の参考図書や各自宗教的世界に触れることが望ましい。たとえば、各種の宗教行事への参加や宗教芸術の鑑賞等。</p>
レポート課題1	<p>スピリチュアリティ（霊性）とは何か、またそれはどのような領域に働き、どのような意味、能力があり、どのような影響を私たちに与えるかを、理性の限界および宗教の普遍性を考慮しつつ述べなさい。その際可能であれば自分の宗教体験を合わせて述べることを望ましい。</p> <p>留意点：テキスト序、1章1、2節、2章1節を中心によく読むこと</p>
レポート課題2	<p>①諸宗教に見られる霊性の存在とその働きを、既存の宗教であるキリスト教、仏教、神道、イスラム教から1つ選び述べなさい。または②理性と霊性のそれぞれに働きと相互関係を通して霊性的な宗教のあるべき姿を述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択）</p> <p>留意点：①についてはテキスト2章2節、②については同7章を中心によく読むこと</p>

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（宗教哲学方法論の考察）
第4回	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（宗教体験に関する歴史的考察）
第5回	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（宗教哲学の代表的哲学者の考察）
第6回	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（宗教の本質に関する考察）
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	宗教の歴史的推移とそのあるべき姿に関する学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材2の学修；理性の働きとその限界を学修
第4回	基本教材2の学修；霊性とは何か、なぜ必要なのかについての学修
第5回	基本教材2の学修；諸宗教における霊性の存在とその働きを考察
第6回	基本教材2の学修；理性と霊性の相互関係を通しての霊性的宗教とは何かを考察
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	関連する個人的・社会的な事例とその内容の霊性的考察
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	科学哲学特講	担当者	アオキ シゲユキ 青木 滋之	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	--------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講座の目標は、科学という活動を科学哲学の視点から分析していくことで、現代社会を支えている科学の成り立ちについて深い理解を得ていくことにある。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 科学哲学の問題圏や、基本概念、議論展開、現代科学技術への適用などに習熟することを通じて、科学という現象を把握していくことが目標である。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①科学の方法とは何か、科学と非科学との違いを説明することができる。(知識) ②近代科学の成り立ちに即して、科学理論の目的や科学の進歩について論じることができる。(知識・解釈) ③現代の科学技術にかかわる哲学的・根本的な問題を論じることができる。(技能) ④現代の疑似科学の問題といった現実的な課題にも批判的にコミュニケーションできる。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 1. 基本教材を熟読し、ノートを作成する。不明な点については、参考図書などを参考にして、自主的に理解を深める。(自習)【SBO①&②】【15時間/レポート1本】 2. レポート課題に沿ってさらに理解を深める。(自主研究)【SBO①&②】【10時間/レポート1本】 3. レポートの草案を作成する。(レポート作成)【SBO③&④】【10時間/レポート1本】 4. manaba folio を利用して教員がレポートを添削し、教員とのやり取りを通じてレポートの最終版を完成させる。(ディスカッション)【SBO③&④】【10時間/レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を活用して、教員との間でレポート添削を通じてディスカッションを行う。</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 初稿提出期限：7月初 ・レポート課題2 初稿提出期限：8月中</p> <p><後期> ・レポート課題1 初稿提出期限：10月末 ・レポート課題2 初稿提出期限：12月初</p> <p>各課題の最終稿は、学事暦で定められた日にちまでに提出すること。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材の内容を理解している。課題に即して論理的に展開されている。レポート作成の基本的ルールが守られている。	80%
	観察記録	添削に対して真摯に取り組み、修正などの応答が適切に行えている。添削を通じて、課題に対する理解が深まっている。時間に余裕をもって取り組んでいる。	20%
履修者への要望	<p>・レポート作成には時間がかかるので、余裕をもって取り組むこと。 ・教材や参考図書について、重要な用語はまだしも、文章まで丸写しにならないよう、気を付けること。 教材や参考図書を読み、ノートを作成する際には、必ず教材などを閉じて自分の頭で整理した上で、作成すること。 ・教材1は科学哲学、教材2は科学史である。まず、科学哲学を通じて関心あるテーマを選び、そのルーツを科学史を通じて明らかにしていくこと。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：サミール・オカーシャ 教材名：『科学哲学 新版』（岩波書店、2023）</p> <p>オックスフォード大学出版 Very Short Introductions シリーズの一冊であり、定評ある科学哲学の教科書である。科学の方法、科学的説明、实在論と反实在論、科学の変化と科学革命、個別科学哲学、科学と宗教、といった重要な問題が扱われている。</p>
参考図書	<p>伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版、2003） 戸田山和久『科学哲学の冒険』（NHKブックス、2005） アレックス・ローゼンバーグ『科学哲学』（春秋社、2011）</p>
履修上のポイント	Very Short Introductions シリーズの一冊なので、初学者でも十分読みやすい内容になっているが、専門用語や、対象となっている科学史上の出来事などは、自分で調べるなどして理解していく必要がある。
レポート課題1	<p>①科学に特徴的な方法とは何か、②科学の目的は何か、实在論あるいは反实在論のどちらが有効な立場であるのか、③科学は通時的にどのように変化していくのか。 これら3つのうちから、1つ選択して論じなさい。 留意点：レポート作成においては、答えを明確にすること、答えに至る論証を明らかにすること、論文の構成の上でのパラグラフライティングを守ること、といった点に注意する必要がある。</p>
レポート課題2	<p>①個別科学の科学哲学には、どのような問題があるのか、②科学と宗教はどのような関係にあるのか。 これら2つのうちから、1つ選択して論じなさい。 留意点：レポート作成においては、答えを明確にすること、答えに至る論証を明らかにすること、論文の構成の上でのパラグラフライティングを守ること、といった点に注意する必要がある。</p>

基本教材 2	
教材の概要	著者名：スティーヴン・シェイピン 教材名：『「科学革命」とは何だったのか』（白水社，1998）
	近代科学の設立において最も重要な時期にあたる、科学革命について書かれた有名な著作。著者のシェイピンは、シャプファーとの共著で『リヴァイアサンと空気ポンプ』も執筆している、国際的に著名な科学史家である。
参考図書	ロゼー『科学哲学の歴史』（みすず書房，1974） ウェストフォール『近代科学の形成』（みすず書房，1980） ディア『知識と経験の革命』（みすず書房，2012）
履修上のポイント	科学革命期には、物理学や化学、生物学といった現代科学技術を支える近代科学の設立者が登場する。教材と参考図書だけではレポート作成に足りないと判断した時は、自分で図書や論文、ネット上の記事などを調べる主体的な態度が必要である。
レポート課題1	①科学革命期に何が知られたのか、②いかにして知られたのか、③何のための知識だったのか。これら3つのうちから、1つ選択して論じなさい。 留意点：レポート作成においては、答えを明確にすること、答えに至る論証を明らかにすること、論文の構成の上でのパラグラフライティングを守ること、といった点に注意する必要がある。
レポート課題2	著者のシェイピンによると、科学革命なるものは存在しなかった。それはなぜなのか。本書全体の論述から、理由を説明しなさい。 留意点：レポート作成においては、答えを明確にすること、答えに至る論証を明らかにすること、論文の構成の上でのパラグラフライティングを守ること、といった点に注意する必要がある。

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げるテーマの検討
第3回	基本教材1の学修：基本教材1を読み、その内容の概要をつかむ
第4回	基本教材1の学修：テーマについての学修
第5回	基本教材1の学修：テーマについての学修
第6回	基本教材1の学修：課題1に関する箇所の再学修
第7回	基本教材1の学修：課題2に関する箇所の再学修
第8回	関連する文献の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通して、課題に関する全体的な理解の確認

基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げるテーマの検討
第3回	基本教材2の学修：基本教材2を読み、その内容の概要をつかむ
第4回	基本教材2の学修：テーマについての学修
第5回	基本教材2の学修：テーマについての学修
第6回	基本教材2の学修：課題1に関する箇所の再学修
第7回	基本教材2の学修：課題2に関する箇所の再学修
第8回	関連する文献の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通して、課題に関する全体的な理解の確認

科目名	生命倫理学特講	担当者	ヨシダ カシミ 吉田 一史美	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>生命科学と医療技術の発展は、私たちの生命観や倫理観にさまざまな影響を与えてきた。本講座では、人体実験、遺伝子技術、尊厳死、安楽死、脳死、臓器移植、生殖医療、小児医療などの具体的なテーマを通して、生命倫理学の歴史、概念、論点を学ぶ。多様な生き方や価値観を理解した上で、現在および将来の倫理的諸課題に対する主体的な思考を身に付けることを目的とする。教材に記載された事項にとどまらず、歴史的な出来事や現在の社会問題などについて自分で情報を収集することと、倫理的な問題を〈問い〉として受け止めて〈応答〉することを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 人間の生命をめぐる倫理を扱う生命倫理学の基本的な知識を正確に理解した上で、個々の論点を捉えて批判的に考察を展開し、現在および将来の生命科学や医療技術をめぐる生ずる倫理的課題に対して主体的に取り組むための知的基盤と倫理観を身に付ける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 近代社会における社会的弱者の存在や優生思想の歴史を踏まえて、生命倫理学の社会的・学術的役割を説明することができる。現在の生命倫理学の各テーマについて自ら倫理的な問いを立て、主体的に思考して応答することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10時間)。manaba folioを通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを利用し、「チェックリスト」の配布、インタラクティブな個別指導、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのレスポンス等)。図書館、インターネットで自律的に関連する論文や資料を検索して、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の初稿は7月中旬、課題(2)の初稿は8月上旬を目処に提出する。いずれの課題も、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の初稿は11月中旬、課題(2)の初稿は12月上旬を目処に提出する。いずれの課題も、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	生命倫理学に関する用語・概念を適切に理解して説明できているか、考えや記述は論理的か、という基本的な点に加えて、近年の知見や情報の反映、自分自身の専門分野や経験との関連性を評価する。	75%
	観察記録	レポートの草稿添削・コメントに対する修正が適切になされているか、とくにレポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、本文中の引用方法、図・表の活用方法、文献リストの記載方法等を評価する。	25%
履修者への要望	<p>1. 前期と後期の初めに、レポート作成のための「チェックリスト」を配布するので、初稿を提出する前に必ず確認すること。</p> <p>2. タイトル、見出し、段落を適切に使用し、学術論文の体裁・語法で記述してください。</p> <p>3. 他者の考えや文章を引用する場合は、引用であることを本文中の「引用注」で明記し、文末に「文献リスト」を作成してください。引用注と文献リストの形式については、学術論文のルールをよく勉強して、正しく表記してください。</p> <p>4. 提出された初稿に対して、チェックリストの各項目、形式、論理展開、正誤について添削コメント(A4, 1～2ページ程度)を返します。修正稿および最終稿では、添削コメントに対して適切に対応がなされているかという点を中心に確認します。最終稿の提出期限の2週間前をすぎると、添削コメントは各レポート課題につき1回が上限になります。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：黒崎剛・吉川栄省（編著） 教材名：『生命倫理の教科書：何が問題なのか [第2版]』（ミネルヴァ書房，2022年） ISBN:978-4-623-09370-0/3,300円（税込） ※ または 同書の第1版（黒崎剛・野村俊明（編著）、ミネルヴァ書房、2014年）</p> <p>生命倫理の諸問題に関する基礎知識がまとめられたテキスト。生命倫理に関わるテーマを論ずる際にあらかじめ理解しておくべき事項が網羅的に記述されており、生命倫理学の歴史、キーワードや論点、世界の動向を学ぶことができる。</p>
参考図書	<p>米本昌平・棚島次郎・松原洋子・市野川容孝（著） 『優生学と人間社会：生命科学の世紀はどこへ向かうのか』（講談社現代新書，2000年） ISBN:978-4-06-149511-1/1,000円＋税</p>
履修上のポイント	<p>生命倫理学がもつ社会的・学術的な役割を理解するために、社会的弱者を対象に行われてきた非人道的な人体実験、近代社会に興隆した優生思想、現代の遺伝子操作に関わる先端技術をめぐる倫理的問題の構造を理解する。 なお、レポート課題2については、基本教材2『テキストブック 生命倫理』の第13章の「生命操作」「デザイナー・ベビー」を参照して、最近のゲノム編集技術について理解するとよい。</p>
レポート課題1	<p>生命倫理学の成立の経緯について理解し、社会的弱者のための人権運動という側面と、最初の課題として取り組まれた「人体実験」の問題化を説明すること。その上で、現在の医療倫理の原則について考察すること。字数制限：3000～4000字 留意点：教科書で言及されている史実について、自分で調べてより詳しい内容を記述すること。</p>
レポート課題2	<p>生命倫理学において重要な概念の一つである「優生思想」について理解し、その歴史と問題点を説明すること。その上で、遺伝子操作における「エンハンスメント」と優生思想とのかわりについて考察すること。字数制限：3000～4000字 留意点：留意点：日本の強制不妊救済法とそれに関連する訴訟について、自分で調べて言及すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：霜田求（編） 教材名：『テキストブック 生命倫理 [第2版]』（法律文化社，2022年） ISBN:978-4-589-04189-0/2,530円（税込） ※ または 同書の第1版（霜田求（編著）、法律文化社，2018年）</p> <p>生命倫理の各テーマの主な論点が、異なる価値観に基づいた意見の相違や対立を踏まえて提示されたテキスト。テーマごとに設定された概念や臨床に関わる〈問〉に対して、複数の〈応答〉が示されており、主体的な思考の手がかりを得ることができる。</p>
参考図書	<p>松原洋子・伊吹友秀（編） 『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会，2018年） ISBN:978-4-13-062420-6/2,500円＋税</p>
履修上のポイント	<p>これまで生命倫理学が取り組んできた「生命の始まりと終わりをめぐる線引きの問題」について、多様な経験や価値観をもつ人びとが存在するなかで、現代の人間社会がどのような倫理規範を形成していくことができるか、主体的に思考する。 なお、レポート課題の選択したテーマについて、基本教材1『生命倫理の教科書：何が問題なのか』に関連する章がある場合は、参照してさらに多くの情報を得るとよい。</p>
レポート課題1	<p>「生命の始まり」をめぐる倫理的問題について、（1）生殖補助医療、（2）人工妊娠中絶と出生前・着床前診断、（3）子どもの医療、の3つからいずれかを取り上げて論点を説明すること。その上で、テキストの各章の末尾にある〈問と応答〉から、〈問〉を1つ選び、〈応答〉について考察すること。字数制限：3000～4000字 留意点：留意点：〈問〉は、テキストに記載のものではなく、自分で新たに設定してもかまわない。</p>
レポート課題2	<p>「生命の終わり」をめぐる倫理的問題について、（1）高齢者医療と認知症、（2）終末期医療と尊厳死、（3）安楽死と医師による自殺幇助、（4）脳死と臓器移植、の4つからいずれかを取り上げて論点を説明すること。その上で、テキストの各章の末尾にある〈問と応答〉から、〈問〉を1つ選び、〈応答〉について考察すること。字数制限：3000～4000字 留意点：留意点：〈問〉は、テキストに記載のものではなく、自分で新たに設定してもかまわない。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	基本教材1の学修：生命倫理学の成立（序章・第7章）
第3回	基本教材1の学修：人体実験と医療倫理の原則（第1章・第7章）
第4回	基本教材1の学修：優生学と遺伝子操作（第6章・参考図書）
第5回	人体実験の歴史に関する文献の検索とその内容の学修
第6回	基本教材1の巻末資料の検討
第7回	優生思想の歴史に関する文献の検索とその内容の学修
第8回	旧優生保護法による強制不妊訴訟に関する情報収集
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	基本教材2の学修：生命倫理の方法・理論（第1章）
第3回	基本教材2の学修：生命の始まりをめぐる倫理的問題（第Ⅱ部）
第4回	基本教材2の学修：課題として取り上げるテーマの検討（第Ⅱ部）
第5回	基本教材2の学修：生命の終わりをめぐる倫理的問題（第Ⅲ部）
第6回	基本教材2の学修：課題として取り上げるテーマの検討（第Ⅲ部）
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	課題として取り上げるテーマの〈問〉と〈応答〉に関する考察
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	社会思想史特講	担当者	オカヤマ ケイジ 岡山 敬二	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、既存の観念に縛られず、諸事象を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 大量破壊兵器や環境破壊、脳死や臓器移植、遺伝子組み換えの問題など、現代技術がもたらした深刻な側面に柔軟に対応するために、人間や生命、自然や社会のすべてを一律に、技術的に処理可能な資材や人材と見立てる考え方について、その可能性や限界を見つめなおすことができる。 技術文明の世界に生きている現代的状況を見据えながら、日常生活や科学知の自明な前提を超えて、人間と自然や社会、世界のありようを根本から見つめなおすことができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 日常の自明性の問題点を根本から見つめなおすために、既成の価値や観念に縛られずに様々な立場や視点を理解、想像し、それらを柔軟に比較・検討することができる哲学的な考察態度を身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 i. 自然と文化や、人間存在をめぐる哲学的な問題を理解し説明することができる。(知識・解釈) ii. 現代社会の様々な問題の根拠を理解し説明することができる。(知識・想起) iii. 現代社会の様々な問題の解決の可能性を多角的な視野から指摘することができる。(知識・問題解決) iv. 現代社会の個々の問題について、様々な立場や見解の比較・検討・考察を実施することができる。(技能) v. 様々な立場や見解を配慮し、自らの考えをうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションすることができる。(態度・習慣)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ①基本教材及び参考文献の熟読(自習)【SBO i.】：【10時間以上/レポート1本】 ②レポートの課題に沿った、基本教材の読解と解釈(自主研究)【SBO ii.】：【10時間以上/レポート1本】 ③レポートの作成(レポート作成)【SBO iii.】：【10時間以上/レポート1本】 ④manaba folioを利用した複数回のレポート添削による教員とのディスカッションを重ねての、レポートの推敲と最終稿の完成(ディベート)【SBO iv. & v.】：【15時間以上/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施してゆく。</p>		
スケジュール	<p>最終稿の提出は、学事歴で定められた日を期限とする。これは、あくまで最終稿の期限であり、初稿は、その前に提出する。初稿提出期限の目安は以下の通りとする。 前期(基本教材1)：レポート課題1(7月15日)/レポート課題2(8月15日) 後期(基本教材2)：レポート課題1(11月15日)/レポート課題2(12月15日)</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材の適切な読解・解釈を踏まえた、レポート課題に沿う論述・表現であるか。	70%
	観察記録	複数回の添削指導を経たうえで、その指導に適切に対応できているか。	30%
履修者への要望	<p>教材の文章や参考書の説明を単なる情報として受け取り、その切り貼りを伝達するという読み方、伝え方をしても、どうしても、中味が伝わらないだけでなく、内容におかしな面が出てこざるをえません。何がどうわかり、どうわからないかを自分で考え、自分の言葉で整理し、伝えることによって始めて、それは生きた言葉、内容をともなう言葉となるように思われます。それなりにでもいいですから、「自ら考える」という姿勢を忘れないようにしてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：マルティン・ハイデガー 教材名：『技術への問い』（平凡社ライブラリー，2013年） ISBN:978-4-582-76800-8 1,500円＋税
	古代ギリシアのポイエーシスやテクネーという言葉に含まれる意味（技術だけでなく芸術や自然の営みなども含む）を説き明かし、それを現代の産業社会における技術と対比させることで、現代技術のありようの一面性が示されてゆきます。そこから、現代社会のこの一面性にともなう危険とそれが予兆する歴史的な変化の到来を示唆しようとする試みです。
参考図書	木田元『対訳 技術の正体』（デコ，2013年） ISBN:978-4-906905-07-2 1,100円＋税 加藤尚武編著『ハイデガーの技術論』（理想社，2003年） ISBN:978-4-650-10532-3 2,000円＋税 岡山敬二「技術と存在—ハイデガー「技術への問い」を問う—」（『桜文論叢』日本大学法学部第96巻）
履修上のポイント	当教材は、5本の講演論文を収めた論文集ですが、レポートの課題に直接該当するのは、「技術への問い」（7ページ〜）です。この論文を中心に読み進めてください。その他のものは参考資料として利用してください。「技術」「真理」等の言葉の古代ギリシア的な意味と現代的な意味の違いに留意しながら、その相違を整理することが大事な作業になります。
レポート課題1	技術と真理（アレーティア）との関係について、ポイエーシスとテクネーという点から論説してください。 留意点：技術（道具）や因果性、真理など、鍵となる言葉について、通俗的な意味と原初的な意味との違いをおさえてください。ポイエーシスとテクネーの共通点を整理してください。主に所収論文「技術への問い」が読解の対象となります。
レポート課題2	技術と真理（アレーティア）との関係について、ポイエーシスと「集・立（Ge-stell）」という点から論説してください。 留意点：技術（道具）や因果性、真理など、鍵となる言葉について、通俗的な意味と原初的な意味との違いをおさえてください。ポイエーシスと「集・立（Ge-stell）」の共通点と相違点を整理してください。主に所収論文「技術への問い」が読解の対象となります。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：マルティン・ハイデガー 教材名：『芸術作品の根源』（平凡社ライブラリー，2008年） ISBN:978-4-582-76645-5 1300円＋税
	芸術作品の根源を問うために、物とは何か、道具とは何かを考察し、一つの道具であるはずの農婦の靴、それを描いた一枚の絵の中から、物や道具の真相が立ち現れてくる働きが探りだされてゆきます。そこに芸術作品のなりたちを見いだすことで、日常生活に埋もれてしまっているはずの、道具的なあり方とは違った真理のありようを問いなおしてゆく試みです。
参考図書	渡邊二郎『芸術の哲学』（ちくま学芸文庫，1998年） ISBN:4-480-08426-6 1,300円＋税 木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書，1993年） ISBN:978-4-00-430268-4 800円＋税 木田元『哲学と反哲学』（岩波現代文庫，2004年） ISBN:978-4-00-600127-8 1,180円＋税 岡山敬二「人間への問いと思索の祝祭 ——ハイデガー『芸術作品の根源』の根源をさぐって」（『桜文論叢』日本大学法学部第99巻 https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/treatise/treatise_99/each/06.pdf)
履修上のポイント	物、道具、芸術作品、真理、世界、大地など、鍵となる言葉について、普通の意味とは違ったどのような意味が込められているのかを理解、整理してゆくことが大事な作業になります。細かな論点よりも、議論全体の流れをつかむことを優先してください。
レポート課題1	芸術作品に見出される「道具の信頼性」とはどのようなことか、論説してください。 留意点：支配的な物概念の不十分さ、道具の有用性と信頼性との意味の違い、大地と世界の意味合いをおさえてください。ゴッホの絵の作品分析が読解の手がかりになります。
レポート課題2	芸術作品に見出される「世界と大地の闘争」とはどのようなことか、論説してください。 留意点：真理観をめぐる芸術と美術との違い、芸術と論理学との違いを整理したうえで、世界とは、大地とは、その闘争とはどのようなことか、その意味合いをおさえてください。ギリシア神殿の作品分析が読解の手がかりになります。

基本教材1

第1回	本科目の課題の理解
第2回	基本教材，参考図書に関連箇所の検討
第3回	関連する参考文献，参考資料の検索とその内容の学修
第4回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の熟読
第5回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第6回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第7回	レポート課題1：初稿の作成
第8回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の熟読
第11回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第12回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	本科目の課題の理解
第2回	基本教材，参考図書に関連箇所の検討
第3回	関連する参考文献，参考資料の検索とその内容の学修
第4回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の熟読
第5回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第6回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第7回	レポート課題1：初稿の作成
第8回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の熟読
第11回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第12回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	心理学史特講	担当者	アラカワ アユム 荒川 歩	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	--------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	それぞれの学問領域の研究手法や基準、考え方は、合理的理由によってのみ成立するものではなく、その学問の歴史に強く依存している。そのため、それぞれの学問に新たなブレークスルーを引き起こすには、その歴史を理解する必要がある。この授業では、心理学を例に、学問が現在のように形成された過程を歴史的に理解することで、既存の心理学を相対的に見るができるようになることを目的とする。			
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 心理学が現在のように形成された過程を歴史的に理解し(知識)、現在の心理学を相対的に見る視点を獲得し(技能)、批判的に評価する習慣を身に付けること(態度)。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ・ある研究知見をうのみにせず、その知見の成立過程に目を向けることができる ・ある研究方法による知見を絶対的なもののように考えず、その研究方法について調べる手立てを身に付ける ・代表的な心理学の立場については、その立場の成立過程について知っており、必要な際に利用できる。</p>			
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 【学修方略(LS)】 教科書、参考書、個人研究 【準備学修項目と準備学修時間】 事前に教材を読んで流れを理解したうえで、各課題に臨むこと。 各課題について本を1～2冊読む程度の準備学修は必要である。 レポート課題一つにつき、完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。 ・教材の学習：20時間 ・レポートの執筆：10時間 ・レポートの推敲と担当教員の指導に基づく修正：15時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 担当者の指導の下、教科書、参考書を手掛かりに自主的に調べて学習することが求められる。</p>			
スケジュール	前期:教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた提出日までに最終稿を提出する。 後期:教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を口処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和5年1月上旬の学事歴で定められた提出日までに最終稿を提出する。			
成績評価	種別	評価基準		割合
	レポート	レポートの内容に関し、取りあげた題材の適切性、資料選択の適切性、考え方の妥当性を評価する。		75%
	観察記録	レポートの構成や表現に関し、引用文献の引用の仕方を含めて、レポートとしての構成、記述の適切性、を評価する。		25%
履修者への要望	<p>1)基本教材2の課題2については、レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい。</p> <p>2)基本教材2の課題2のテーマの選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークなテーマを歓迎します。</p> <p>3)レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>4)基本教材2の課題2で選んだテーマに関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>5)引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p> <p>注1:不明の点はメール等で問い合わせて下さい。</p>			

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	<p>著者名：サトウタツヤ 教材名：『臨床心理学小史』 臨床心理学史を概説した書籍です。 (ちくま新書、2022年) ISBN: 978-4480074829 880円</p>
参考図書	サトウタツヤほか『心理学史(心理学のポイント・シリーズ)』(学文社、2012年) ISBN: 978-4762018800 中古本で500円程度から。入手できない場合は相談ください
履修上のポイント	臨床心理学を題材にその現在の有り様を歴史的に相対化する経験をしたうえで、心理学が社会の中でどのように変化してきたかを立体的に見ることができるようになることを目指します。
レポート課題1	日本の臨床心理学が現在のような形になるにいたった理由を理論の発展ではなく、制度の変化や社会的な出来事の影響の観点から説明してください。 留意点：千甲眼事件や戦争の影響などに特に注意して下さい。
レポート課題2	現場からの社会的必要性や一般市民の関心に対して、心理学はどのように応じ、どのように発展したかについて説明してください。 留意点：様々な領域の現場に触れるようにして下さい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：サトウタツヤ 教材名：『方法としての心理学史』（新曜社、2011年）ISBN：978-4788512290 2,400円+税
	心理学がどのように成立してきたのかその背景に切り込んだ本です。基本教材1より焦点を絞って深く洞察しています。 (新曜社、2011年) ISBN: 978-4788512290 2,400円+税
参考図書	デイヴィッド・ザルツブルグ著『統計学を拓いた異才たち』（日経ビジネス人文庫、2010年） ISBN:978-4532195397 1,143円+税 高橋 滯子著『心の科学史 西洋心理学の背景と実験心理学の誕生』（講談社学術文庫、2016年） ISBN:978-4-06-292383-5 1,280円+税
履修上のポイント	そもそも心理学とはどのような理由で生まれたのかについて考察を深め、心理学の位置づけを相対化したうえで、自身が用いる研究技法においても、それがどのような歴史に基づいて構築されているのかについて相対化できるようになることを目指します。
レポート課題1	1879年のヴントの心理学実験室成立が心理学の成立と呼ばれるのはなぜか？その前の状況、そしてその後発展した方向性も考慮して、その理由をまとめてください。 留意点：全体に同一書籍から紹介する場合には、レポート冒頭でその旨を記載するようにしてください。
レポート課題2	自分が使う研究技法(統計・調査方法)のうちの1つを取り上げ、変化とその成立理由(特に社会的理由)に着目してその研究技法の歴史をまとめてください。 留意点：新しい技法をテーマに選ぶ場合はその技法の前提となった技法も含めて書いてください。あまり難しいテーマを選びすぎないようにご注意ください。

基本教材1

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	課題テーマの学修(臨床心理学の歴史)
第3回	基本教材1の学修：千里眼事件が臨床心理学に与えた影響について
第4回	基本教材1の学修：戦争が臨床心理学に与えた影響について
第5回	基本教材1の学修：臨床心理学以外の歴史の俯瞰的学修
第6回	関連する書籍の検索とその内容の学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	歴史記述の考え方についての学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	課題テーマの学修(統計・研究法の歴史)
第3回	基本教材2の学修：実験が心理学に与えた影響について
第4回	基本教材2の学修：実験以外の心理学の方法について
第5回	参考図書の学修：統計的方法の歴史について
第6回	関連する書籍の検索とその内容の学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	科学における方法論がもつ意味についての学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	心理学研究法特講	担当者	マナベ カズチカ 眞邊 一近	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>現代の心理学は「科学」です。科学は、仮説の提示と経験（実験や調査・観察）による検証に基づいて発展していくシステムです。心理学が科学であるためには、客観的な経験による結果を得られるかどうか依存します。心理学研究法は、客観的なデータを得るための実験計画および得られたデータの客観的な提示方法の学習を目的とします。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 心理学分野で論文執筆に必要な基本的なスキル（研究計画作成・データ分析・結果の記述）を習得することを目標とします。</p> <p>1) 客観的なデータを得ることができる。 2) 得られたデータを科学的に分析することができる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1) 客観性の基本であるデータの「信頼性」と「妥当性」の概念の習得 2) 2種の実験計画法（グループデザインと少数例の実験デザイン）の相違の理解 3) 得られたデータの客観的な表現の手段である統計法について習得 4) グラフ作成等、具体的なデータの表現方法の習得 5) 得られた結果の報告方法（検定結果の文中での表現方法等）の習得 6) 論文執筆における書式（文献引用等）の習得</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要かどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げ上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。統計基礎の学習、Excel等を用いた表計算およびグラフ作成スキル獲得、心理学研究執筆要項の学習等において、資料収集・テキストの学習に20時間、レポートをまとめるのに10時間、manaba-folioを使用したレポートの遂行作業に20時間、計50時間程度の準備学修時間を要しますので、早めに学習を始めることが必要です。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioの掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期：グループデザインの習得 1) グループデザインの理論的背景の理解 2) 具体的な計画の作成方法と統計処理、および結果の表現方法の学習 課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：少数例の実験デザインの習得 1) 少数例の実験デザインの理解 2) 同じ目的をもつ研究のグループデザインによる実験と少数例の実験デザインによる実験の考案 課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ10月末と11月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>修得すべきスキルが多岐にわたりますので、一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム（manaba）に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？	75%
	観察記録	1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？	25%
履修者への要望	<p>レポート提出システムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。</p> <p>レポート提出システムに、紙ベースでは提示が難しいため、Web上で追加の留意点が書かれています。見落とさないように、レポートシステムに書かれている留意点を注意深くお読みください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：1) 大山正・岩脇三良・宮埜嘉夫 2) 岩淵千明 3) 後藤宗理・大野木裕明・中深潤 教材名：1) 『心理学研究法』（サイエンス社，2005年）ISBN:978-4-78-191108-3 2,200円＋税 2) 『あなたもできるデータの処理と解析』（福村出版，2002年）ISBN:978-4-57-120058-8 2,600円＋税 【紀伊園屋出版社から取り寄せ（通常3日-20日で発送）】 3) 『心理学マニュアル要因計画法』（北大路書房，2000年）ISBN:978-4-76-282196-7 1,500円＋税</p> <p>第1図書は、心理学の研究法にはどのようなものがあり、その方法の基礎になっている考え方および手続きについての概説がなされている。第2図書では、結果の分析に必要な統計的検定についてどのようなデータや実験計画のときは、どのような統計を利用するのかについて、フローチャートを用いてわかりやすい説明がある。第3図書は、分散分析法について概説している。</p>
参考図書	<p>南風原朝和，市川伸一，下山晴彦編『心理学研究法入門調査・実験から実践まで』（東京大学出版，2001年）ISBN:978-4-13-012035-7 2,800円＋税 大野木裕明，中津潤編著『心理学マニュアル研究法レッスン』（北大路書房，2002年）ISBN:978-4-76-282264-3 1,800円＋税 石村貞夫『SPSSによる分散分析と多重比較の手順』（東京図書，2002年）ISBN:978-4-48-902109-1 2,800円＋税 菅民郎『Excelで学ぶ統計解析入門』オーム社，1999年）ISBN:978-4-27-406546-0 2,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>心理学が科学的手法を用いていることを理解した上で、それぞれの方法論のもとになった考え方を理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。また、この課題は、修士論文作成に役に立つスキルを学習することを教育目標の一つとしていますので、その中の一つである心理学領域の論文の書式も学習するようにして下さい。</p>
レポート課題1	<p>測定信頼性と妥当性、独立変数、従属変数、剰余変数および統制群の意味について具体的に述べよ。また、実験計画法についてまとめよ。 留意点：信頼性・妥当性の種類及びその検証方法、相関関係と因果関係の相違、剰余変数の統制の仕方、なぜ統制群が必要なのかについて説明して下さい。実験計画法では、分散（変動）、主効果、交互作用の意味を説明して下さい。また、要因計画、反復測定（対応のある・なし）の意味についても記述して下さい。なお、説明を加えるときは、出来るだけ具体例をあげながら説明して下さい。</p>
レポート課題2	<p>t検定、1要因が繰り返しのある2要因分散分析法、および2×2のχ^2検定の手順について述べた後、それぞれの検定に対応した自分で考えた架空の実験データを利用して検定を行い、その結果を報告せよ。 留意点：統計ソフト（大学院から貸与されたものが望ましい）を利用して計算して下さい。このとき、最終的な検定結果だけでなく、途中の計算結果も報告して下さい。また、架空の結果のグラフも必ず加え、文章で説明して下さい。t検定は、対応のあるt検定と、対応のないt検定の両方の事例を示して下さい。また、分散のあるグラフには、エラーバーをつけて下さい。エラーバーの長さは、$\pm 1SD$（標準偏差）にしてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：S・H・バーロー／M・ハーセン著高木俊一郎／佐久間徹監訳 教材名：『一事例の実験デザイン「新装版」—ケーススタディの基本と応用—』（二瓶社，1997年）ISBN:978-4-93-119937-8 3,000円＋税</p> <p>アルパート・トルトマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社，2004年）ISBN:978-4-93-119915-6 岩本隆茂，川俣甲子夫著『シングル・ケース研究法—新しい実験計画法とその応用Keiso Psychology』（動草書房，1990年）ISBN:978-4-32-610083-5 4,500円＋税</p>
参考図書	
履修上のポイント	<p>履修上のポイント 心理学に限らず、大標本を用いた研究ができないケースが少なからずあります。このような場合、少数例のデータを利用して、いかに科学的に研究するのか？どのような根拠にもとづいて少数例の実験デザインは考案されたのかを理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。</p>
レポート課題1	<p>少数例を用いた実験デザインにはどのようなものがあるかまとめよ。 留意点：グループデザインとの基本的な考え方の相違および、少数例の実験デザインの歴史的発展について述べた後、各デザインについて説明してください。このとき、それぞれのデザインの利点と問題点を指摘してください。また、ベースラインおよび繰り返し測定の意味、さらに、独立変数導入時に一変数導入が基本であることの理由についても記述してください。</p>
レポート課題2	<p>ある技能に対する訓練方法Aの効果について、実験的に検討したい。このとき、特別な訓練をしなくても時間経過に伴ってその技能はある程度向上し、また、一度訓練されると、元の低いレベルに戻ることはないことが知られている。このような場合、どのような実験計画を立てるか、グループデザインと、少数例を用いた実験デザインの両方の計画を考案せよ。 留意点：両デザインの違いが分かるように説明し、出来るだけ具体的な実験例をあげて下さい。また、架空の実験結果を、両デザインともグラフと文章で表現して下さい。グラフは、テキストのグラフに準拠して下さい。また、課題の実験では、グループデザインにおける統計的検定および少数例の検定が可能ですので、検定も加えて下さい。</p>

基本教材1

第1回	グループデザインの歴史的・理論的背景の理解
第2回	測定の信頼性と妥当性の種類及びその検証方法の学修
第3回	独立変数, 従属変数, 剰余変数および統制群の意味の学修
第4回	実験計画法の学修
第5回	相関関係と因果関係の学修
第6回	t検定, 1要因が繰り返しのある2要因分散分析法, および2×2の χ^2 検定の学修
第7回	検定結果のAPAスタイルに準拠した表記法の学修
第8回	APAスタイルの作図法の学修
第9回	レポート課題1: 初稿の作成
第10回	レポート課題1: 添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1: 最終稿の作成
第12回	レポート課題2: 初稿の作成
第13回	レポート課題2: 添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2: 最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	少数例の実験デザインの歴史的・理論的背景の理解
第2回	ベースライン測定の意義の学修
第3回	ABデザインの問題点の学修
第4回	ABAデザイン等の反転デザインの学修
第5回	マルチベースライン (多層ベースライン) デザインの学修
第6回	操作交替デザインや基準変更デザインの学修
第7回	マルチベースラインデザイン等の少数例の実験デザインで得られたデータの検定法の学修
第8回	繰り返し測定の影響を受ける実験のグループデザインと少数例の実験デザインを用いた実験の考案
第9回	レポート課題1: 初稿の作成
第10回	レポート課題1: 添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1: 最終稿の作成
第12回	レポート課題2: 初稿の作成
第13回	レポート課題2: 添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2: 最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	認知心理学特講	担当者	ヤマモト マナ 山本 真菜	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>認知心理学の概念、理論などの基礎的事項の学習とともにとくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について、テキストの読解を通じて理解する。本講座では、人の心や行動についての論理的思考・批判的思考、問題発見・解決力の修得により以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を論理的な課題に適切に適切できる能力を身に付けるために、認知心理学に関する概念や理論を理解できる力を身に付ける。 2. 論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともにその限界を認識する力、問題解決の方法と手順を立案し、問題を解決できる力を身に付けるために、認知心理学における問題の捉え方や考え方を身に付けるその視点をを用いて問題を発見し解決できるようになる。 3. 省察力を身に付けるために、認知心理学的見地から自分を認識できるようになる。 		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 人の心や行動について、論理的思考・批判的思考をすることができ、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知心理学に関する概念や理論を理解することができる(知識) ・認知心理学における問題の捉え方や考え方を身に付け、現実社会での問題について認知心理学的視点に基づいた解決策を提案することができる(態度) ・認知心理学的知見から自分を認識することができる(態度) 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 基本教材を熟読し不明な点は参考図書等を利用して理解を深める【25時間/レポート1本】基本教材の内容を理解した上でレポートを作成する【10時間/レポート1本】。レポート提出、担当者とのやり取り、加筆修正を経て、レポートの最終版を完成させる【10時間/レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを利用したインタラクティブな添削指導を実施する。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題(1)の草稿は7月20日までに、レポート課題(2)の草稿は8月20日までに提出するように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も前期の学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。 後期：基本教材2のレポート課題(1)の草稿は11月20日までに、レポート課題(2)の草稿は12月20日までに提出できるように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も後期の学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポート課題の内容および目標を理解し、適切な内容を含んでいるかどうかを評価する。	80%
	観察記録	最終稿提出前に草稿を提出し、添削コメントに基づき加筆修正が行われているかどうかを評価する。	20%
履修者への要望	<p>【レポート課題の作成にあたって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章表現は論文の体裁で作成してください。 ・自分の考えと引用した考えを区別して書いてください。引用の場合には必ず引用元を記載してください。 ・本文に引用した文献名は必ず文末に文献リストを設けて記載してください。 ・引用文献の書き方については、日本心理学会の最新版「執筆・投稿の手びき」を参考にしてください。 ・教材で理解できない内容があった場合には、参考図書等を基に調べて知識を得てください。 ・初稿および最終稿の提出期限を厳守してください。初稿を提出期限後に提出した場合は添削指導が十分に行えない場合があります。 		

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	<p>著者名：森敏昭・井上毅・松井孝雄(著) 教材名：『グラフィック認知心理学』(サイエンス社, 1995年) ISBN番号：978-4-7819-0776-5 価格：2,400円+税</p> <p>認知心理学を俯瞰するための基本的な内容が、具体的な研究結果や図表を多く用いて解説されている。</p>
参考図書	<p>著者名：日本認知心理学会(編) 教材名：『認知心理学ハンドブック』(有斐閣, 2013年) ISBN番号：978-4-641-18416-9 価格：3,600円+税</p>
履修上のポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書等を利用して理解するようにしてください。心理学関連の他科目の基本的内容も学習することが望ましい。
レポート課題1	第1章から第6章の各章をそれぞれA4サイズ1枚に要約してまとめなさい。 留意点：過不足なくわかりやすく要約すること。
レポート課題2	第7章から第12章の各章をそれぞれA4サイズ1枚に要約してまとめなさい。 留意点：過不足なくわかりやすく要約すること。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：日本認知心理学会（監修）村田光二（編） 教材名：『現代の認知心理学6 社会と感情』（北大路書房，2010年） ISBN番号：978-4-7628-2717-4 価格：3,600円+税</p> <p>認知心理学のなかでも、とくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について取り扱われている。あわせて、感情の問題を社会的認知の視点から検討している。</p>
参考図書	<p>著者名：山本真理子・外山みどり・池上知子・遠藤由美・北村英哉・宮本聡介・小森 公明（編） 教材名：『社会的認知ハンドブック』（北大路書房，2001年） ISBN番号：978-4-7628-2225-4 価格：3,800円+税</p> <p>著者名：唐沢穰・池上知子・唐沢かおり・大平英樹（編） 教材名：『社会的認知の心理学』（ナカニシヤ出版，2001年） ISBN番号：978-4-8884-8589-0 価格：3,000円+税</p> <p>著者名：S.T. フィスク，S.E. テイラー（著）宮本聡介・唐沢穰・小林知博・原奈津子（編訳） 教材名：『社会的認知研究：脳から文化まで』（北大路書房，2013年） ISBN番号：978-4-7628-2822-5 価格：5,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書や本書で引用されている文献を利用して理解するようにしてください。認知心理学の視点から、現実社会や日常生活での現象を考えてみてください。</p>
レポート課題1	<p>本書の第1部（第1章から第6章）のなかから、自分が関心をもった章を一つ選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。 全体でA4サイズ2枚程度にまとめること。 留意点：取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。</p>
レポート課題2	<p>本書の第2部（第7章から第12章）のなかから、自分が関心をもった章を一つ選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。 全体でA4サイズ2枚程度にまとめること。 留意点：取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。</p>

基本教材1

第1回	目的、達成目標、学習計画、成績評価方法等の講義概要の理解
第2回	基本教材1のレポート課題についての作成要領の確認
第3回	基本教材1の学修（1）：第1章から3章（適宜参考図書も利用する）
第4回	基本教材1の学修（2）：第4章から6章（適宜参考図書も利用する）
第5回	基本教材1の学修（3）：第7章から9章（適宜参考図書も利用する）
第6回	基本教材1の学修（4）：第10章から12章（適宜参考図書も利用する）
第7回	レポート課題1（1）初稿の作成
第8回	レポート課題1（2）初稿の作成と提出
第9回	レポート課題1（3）添削コメントに基づいた修正
第10回	レポート課題1（4）最終稿の作成と提出
第11回	レポート課題2（1）初稿の作成
第12回	レポート課題2（2）初稿の作成と提出
第13回	レポート課題2（3）添削コメントに基づいた修正
第14回	レポート課題2（4）最終稿の作成と提出
第15回	基本教材とレポート課題1・2を振り返り、理解を深める

基本教材2

第1回	基本教材2のレポート課題についての作成要領の確認
第2回	基本教材2の学修（1）：第1章から3章（適宜参考図書も利用する）
第3回	基本教材2の学修（2）：第4章から6章（適宜参考図書も利用する）
第4回	基本教材2の学修（3）：第7章から9章（適宜参考図書も利用する）
第5回	基本教材2の学修（4）：第10章から12章（適宜参考図書も利用する）
第6回	認知心理学的視点から現実社会の問題を理解する
第7回	レポート課題1（1）初稿の作成
第8回	レポート課題1（2）初稿の作成と提出
第9回	レポート課題1（3）添削コメントに基づいた修正
第10回	レポート課題1（4）最終稿の作成と提出
第11回	レポート課題2（1）初稿の作成
第12回	レポート課題2（2）初稿の作成と提出
第13回	レポート課題2（3）添削コメントに基づいた修正
第14回	レポート課題2（4）最終稿の作成と提出
第15回	基本教材とレポート課題1・2を振り返り、理解を深める

科目名	認知心理学特講	担当者	モチヅキ マサヤ 望月 正哉	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	こころの諸現象のなかでも思考や認識、記憶などを扱う認知心理学では、人がある種の情報処理装置として捉え、主に実験的手法を利用して、その特徴を明らかにしてきました。本講では、認知心理学の枠組みで扱われる諸現象について、(1)どのような研究を通じてその特徴を明らかにしてきたを理解し、(2)その内容が日常生活にどのように活用されているないし活用できる可能性をもっているかを探求していきます。それに加え、(3)同じ現象に対して認知心理学の中にも異なる理論・枠組みがあることを知り、人の心理的特徴を研究するうえで、理論的基盤の重要性を議論できることを目指します。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材等の文献を通じて、当該領域における課題の検討や問題解決の方法に関する知識を習得する 客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、認知心理学における課題に対する見解を示すことができる <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知心理学の諸現象について理解し、それを適切に説明することができる(知識) 認知心理学の枠組みに基づいて、人の行動特徴や日常生活における問題を捉え、それに対する解決策を提案することができる(態度・習慣) 提示されている理論や考え方を批判的に評価・吟味し、それに対する問題点や改善策を論理的に議論することができる(態度・習慣) 		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>基本教材と参考文献等を読んで内容を理解したうえで、レポート課題1に向けて、その内容についてまとめる作業を25時間以上行うことを目安とします。そのうえで、レポート課題2に向けて改めて教材の理解を深めたうえで、まとめる作業を15時間以上行うことを目安とします。さらに、レポートの草稿提出、担当者とのやり取り、加筆修正を経て、レポートの最終稿の完成までの作業を5時間以上行うことを目安とします。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folioを利用したインタラクティブな添削指導を行います。また、manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学修を行うことができます。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題(1)の草稿は7月20日までに、レポート課題(2)の草稿は8月20日までに提出するように学生自身が各自の学修計画を立ててください。いずれのレポート課題も最終稿は前期の学事暦で定められた日までに提出してください。</p> <p>後期：基本教材2のレポート課題(1)の草稿は11月20日までに、レポート課題(2)の草稿は12月20日までに提出できるように学生自身が各自の学修計画を立ててください。いずれのレポート課題も最終稿は後期の学事暦で定められた日までに提出してください。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポート課題の内容および到達目標を理解し、適切な内容を含んでいるかどうかを評価します。	80%
	観察記録	最終稿提出前に草稿を提出し、添削コメントに基づき適切に加筆修正が行われているかどうかを評価します。	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 本講では、認知心理学の基本的知識の習得に加え、それを日常生活に結びつけるという「応用への意識」と、知識の根拠にある知見とその背景となる理論に対する批判的な論考という「基礎への意識」の両方ができることを目標としています。心理学的研究の遂行や修士論文の執筆には、これらの両方が必要となるということを考えながら授業に臨んでください。 レポートを執筆する際には、基本教材以外にも積極的に文献(書籍・論文)を参照してください。 レポート執筆の際に文献を参照する場合は、その書き方(本文中の書き方、引用文献リストの書き方)は必ず日本心理学会の「執筆・投稿の手びき(https://psych.or.jp/manual/)」に従ってください。 初稿および最終原稿の提出期限は厳守してください。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：服部雅史，小島治幸，北神慎司 教材名：『基礎から学ぶ認知心理学—人間の認識の不思議』（有斐閣，2015年） ISBN：978-4-641-15027-0 本体1,980円＋税</p> <p>認知心理学の基礎的な概念や代表的な研究について，日常の身近な例と関連づけて紹介されており，初学者に適した教材となっています。</p>
参考図書	<p>著者名：日本認知心理学会（編） 教材名：『認知心理学ハンドブック』（有斐閣，2013年） ISBN：978-4-641-18416-9 本体3,600円＋税</p> <p>著者名：箱田裕司，都築誉史，川畑秀明，萩原滋（著） 教材名：『認知心理学(New Liberal Arts Selection)』（有斐閣，2010年） ISBN：978-4-641-05374-8 本体3,400円＋税</p>
履修上のポイント	<p>はじめに教材を一通り読み，不明な点は参考図書や，各文献で紹介されている論文を確認する。教材では，各章の章末にテーマの関連書籍が挙げられているので，それらの文献を参照するのも良いでしょう。特にレポート課題2に向けて，認知心理学の諸現象と日常生活を結びつけ，認知心理学においてはそれをどのように理解，説明しているのかを説明できるように情報を収集したり，教材を読んだりできると良いでしょう。</p>
レポート課題1	<p>第1章から第10章で重要と考えたキーワードを5つずつ選び（5語×10章＝計50語），1語あたり100字以内でその内容を説明したうえで，その選出理由を1章あたり300字以内で説明してください。 留意点：説明の際に基本教材以外の文献を参照したら，それを引用文献として示してください。</p>
レポート課題2	<p>自分自身に起こった「誤り」について，(1)それがどのような事象で，(2)認知心理学的にはどのように説明され，(3)どのように工夫することでその誤りを防ぐことができるのかを提案してください。 留意点：(1)は1,000字以内，(2)は2,000字以内，(3)は1,000字以内でまとめてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：レベッカ・フィンチャー-キーファー（著）望月正哉，井関龍太，川崎恵里子（訳） 教材名：『知識は身体からできている—身体化された認知の心理学』（新曜社，2021年） ISBN：978-4-78-851736-3，本体2,700円＋税</p> <p>認知心理学のなかで比較的新しく出てきた考え方に「身体化された認知」「身体性認知」というものがあります。本書は，それらの考え方に基づいて行われた心理学的研究について体系的に紹介し，これまで認知心理学で中心となっていた考え方とどのように対比されるかが理解できるようになっています。</p>
参考図書	<p>著者名：嶋田総太郎（編） 教材名：『認知科学講座1 心と身体』（東京大学出版会，2022年） ISBN：978-4-13-015201-3，本体3,200円＋税</p> <p>著者名：日本認知科学会（編），嶋田総太郎（著） 教材名：『脳のなかの自己と他者：身体性・社会性の認知脳科学と哲学』（共立出版，2019年） ISBN：978-4-32-009461-1，本体3,400円＋税</p>
履修上のポイント	<p>はじめに教材を一通り読み，不明な点は参考図書や，各文献で紹介されている論文を確認してください。また，教材の「訳者解説」にも，教材のテーマの関連書籍が挙げられているので，それらの文献を参照するのも良いでしょう。特にレポート課題2に向けて，認知心理学の諸現象を理解する際に異なる立場があること，身体化された認知の考え方は，それまでの考え方と比較して，どういった観点が優れているのか，もしくはどういった観点は不足しているのかを意識しながら教材を読めると良いでしょう。</p>
レポート課題1	<p>第2章から第8章の内容を1章あたり1,000字以内で要約してください。要約に際しては，その章の内容を代表すると考えた研究を1つ取り上げ，どのような研究でどのような結果が得られたか紹介してください。 留意点：説明の際に基本教材以外の文献を参照したら，それを引用文献として示してください。</p>
レポート課題2	<p>基本教材や参考図書を踏まえ，(1)伝統的な認知心理学の考え方と身体化された認知の考え方を対比的に説明したうえで，(2)身体化された認知の考え方では，うまく説明できない事象や現象，行動，課題にはどのようなものがあり，それをどのように捉えていけばよいか自身の考えを述べてください。 留意点：(1)(2)を合わせて5,000字以内にまとめるようにしてください。</p>

基本教材1

第1回	基本教材1の学修の進め方と、本科目のレポート課題についての作成要領の確認
第2回	基本教材1の学修(1)：第1章から第2章（適宜参考図書も利用する）
第3回	基本教材1の学修(2)：第3章から第4章（適宜参考図書も利用する）
第4回	基本教材1の学修(3)：第5章から第6章（適宜参考図書も利用する）
第5回	基本教材1の学修(4)：第7章から第8章（適宜参考図書も利用する）
第6回	基本教材1の学修(5)：第9章から第10章（適宜参考図書も利用する）
第7回	レポート課題1(1) 初稿の作成
第8回	レポート課題1(2) 初稿の完成と提出
第9回	レポート課題1(3) 添削コメントに基づいた修正
第10回	レポート課題1(4) 最終稿の完成と提出
第11回	レポート課題2(1) 初稿の作成
第12回	レポート課題2(2) 初稿の完成と提出
第13回	レポート課題2(3) 添削コメントに基づいた修正
第14回	レポート課題2(4) 最終の完成と提出
第15回	レポート課題1・2の振り返りと本課題に関する到達目標の達成度の確認

基本教材2

第1回	基本教材2の学修の進め方と、本科目のレポート課題についての作成要領の確認
第2回	基本教材2の学修(1)：第1章から第2章（適宜参考図書も利用する）
第3回	基本教材2の学修(2)：第3章から第4章（適宜参考図書も利用する）
第4回	基本教材2の学修(3)：第5章から第6章（適宜参考図書も利用する）
第5回	基本教材2の学修(4)：第7章から第8章（適宜参考図書も利用する）
第6回	基本教材2の学修(5)：第9章と訳者解説（適宜参考図書も利用する）
第7回	レポート課題1(1) 初稿の作成
第8回	レポート課題1(2) 初稿の完成と提出
第9回	レポート課題1(3) 添削コメントに基づいた修正
第10回	レポート課題1(4) 最終稿の完成と提出
第11回	レポート課題2(1) 初稿の作成
第12回	レポート課題2(2) 初稿の完成と提出
第13回	レポート課題2(3) 添削コメントに基づいた修正
第14回	レポート課題2(4) 最終の作成と提出
第15回	レポート課題1・2の振り返りと本課題に関する到達目標の達成度の確認

科目名	社会心理学特講	担当者	ワダ マキ 和田 万紀	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	心理学の視点から社会心理学に関する研究をまず俯瞰する。そして、最近の社会心理学の研究を深く読み解き、研究成果の理解とその考察を通して、「社会に生きる動物としての人間」を考えることを目的とする。								
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 【一般目標 (GIO)】 問題発見・解決能力=事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。 論理的批判的思考力=得られた情報を基に、論理的で客観的な思考ができる。 社会心理学の視点から、科学的に検証されたデータと理論を基に、個人、集団、集合、文化のレベルから現代社会を生きる人間の心理、行動を理解して考察する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 【行動目標 (SBOs)】</p> <p>社会心理学の対象領域における研究、理論を俯瞰して、理解することができる。 自分の興味に応じて、社会心理学の研究、理論を理解して、報告書を書くことができる。 現代社会の問題について、社会心理学の視点から意見を述べるることができる。(知識、技能)</p>								
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 【学修方略 (LS) と学修時間】 課題に沿ってテキストや参考図書、さらに必要に応じて文献検索を行い、それらの内容を理解して文章を作成する。 その際に理解の困難やまとめ方が不明な場合には、manaba folio を利用して、個別に指導を受ける。 レポートの遂行を重ねながら、指導教員とのやり取りを行い、最終稿を提出する。 1つのレポート作成につき、基本教材や参考書等を読み、まとめる作業に25時間以上、レポート提出、修正、担当者とのやり取りに20時間以上を目標とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 人間科学特講、産業組織心理学特講、調査分析特講などにおいて提供されているオープンエデュケーション教材を参考補助として視聴する。</p>								
スケジュール	<p>前期；教材1のレポート課題（1）の草稿は7月初旬、課題（2）の草稿は8月中旬を目安に提出できるようにする。最終稿は、学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期；教材2のレポート課題（1）の草稿は10月初旬、課題(2)の草稿は11月中旬を目安に提出できるようにする。最終稿は、学事暦で定められた日までに提出する。</p>								
成績評価	種別	評価基準							割合
	レポート	最終稿提出期限内に、最終稿を提出すること。課題図書や文献などの内容を十分理解しているか、最新の知見を含めて自分の言葉として表現されているか、等について評価する							75 %
	観察記録	最終提出期限内に、草稿を修正しながら最終稿を提出すること。草稿は、文章表現や内容のまとめ方、引用などについて修正を重ねること。							25%
履修者への要望	<p>文章表現は、論文の体裁を満たしていること。エッセイ等のように自分の関心事だけを述べて、提出された場合には、評価の対象とは致しません。</p> <p>引用文献、参考文献等は、分けて記載してください。</p> <p>心理学の基礎知識や理論について不明な場合には、適宜辞典等を参考としてください。</p>								

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：(1)田之内厚三編 「ガイド社会心理学」北樹出版 2006年 1900円＋税 (2)池田謙一・唐沢譲・工藤恵理子・村本由紀子著 「社会心理学 補訂版」有斐閣 2019年 3520円＋税 教材名：(1)田之内厚三編 「ガイド社会心理学」北樹出版 2006年 1900円＋税
	伝統的な社会心理学の研究範囲を網羅して書かれた教科書である。 (2)池田謙一・唐沢譲・工藤恵理子・村本由紀子著「社会心理学 補訂版」有斐閣 2019年 3520円＋税 最新の社会心理学の知見を網羅した教科書である。
参考図書	中島義明編 心理辞典 有斐閣 1999年 6800円＋税
履修上のポイント	教材1によって社会心理学研究の伝統的な研究領域の俯瞰をしてください。その後教材2に進んでください。参考図書を利用しながら、他の心理学関連科目も履修することが望ましい。
レポート課題1	教材1-1の各章を、それぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。最後に、教材1を読み、何を考えたのか、及び感想を述べなさい。 留意点：留意点：最初は字数を気にせず少し多めに文章を作成してください。それから字数に対して近づくように簡潔にまとめなおしてレポートを作成してください。
レポート課題2	教材1-2の第I部、社会的認知・自己と他者、の各章について、それぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。 留意点：初は字数を気にせずまとめてみる。その後には字数に近づけるようにまとめなおすこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：池田謙一・唐沢譲・工藤恵理子・村本由紀子著「社会心理学 補訂版」有斐閣 2019年 3520円＋税 教材名：教材2-1 池田謙一・唐沢譲・工藤恵理子・村本由紀子著「社会心理学 補訂版」有斐閣2019年 3520円＋税
	教材2-2 教材は指定せず。各自の興味に応じて、社会心理学関連シリーズ等や文献を検索して、その内容をレポートとしてまとめる。
参考図書	中島義明編 心理辞典 有斐閣 1999年 6800円＋税
履修上のポイント	教材2-1は、最近の社会心理学の知見を網羅した教科書である。 教材1-2と教材2-1は、同じ教材である。 自分の興味ある分野が、どの様に社会心理学の中で検討されてきたのかを、確認して下さい。 参考図書や各自文献検索等をおこなって補強してください。
レポート課題1	教材2-1第II部、社会関係から集団ネットワークへ、の各章について、それぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。 留意点：留意点：最初は字数を気にせずまとめて、その後字数に近づくように推敲してみてください
レポート課題2	教材1、教材2を基礎としながら、自分の興味、専攻等と関連するテーマを選び、それに沿った図書、を選択して下さい。そしてその図書について、各章についてそれぞれ1000字程度にまとめてください。なお、最初に、なぜその図書を選択したのか、を記述して下さい。そして最後に、図書から何を学んだのか、図書に関する自分の考え、を1000字程度で記述して下さい。 留意点：留意点：自分の興味あるテーマが、実際にどの様に研究されて考察されているのか、について社会心理学の点から検討してください。最初は字数を気にせず記述して、それを修正しながらまとめて直す、という「訓練」を経験してください。こなって補強してください。

基本教材1

第1回	第1回 教材の確認と本科目及び課題の理解
第2回	課題（1）と課題（2）について、教材の確認
第3回	教材1 課題（1）の学修：目次を利用して、社会心理学の研究の俯瞰をする
第4回	教材1 課題（1）の学修：内容を学修する
第5回	教材1 課題（1）の学修：理解に困難がある箇所を、参考図書や文献検索から参照して確認する
第6回	教材1 課題（2）の学修：目次を利用して、最近の社会心理学研究を俯瞰する
第7回	教材1 課題（2）の学修：内容を学修する
第8回	教材1 課題（2）の学修：理解に困難がある箇所について参考図書等を参照、文献検索で確認する
第9回	課題（1）：初稿作成
第10回	課題（1）：添削指導の結果から修正稿の作成
第11回	課題（1）：最終稿の作成と提出
第12回	課題（2）：初稿の作成
第13回	課題（2）：添削指導の結果から修正稿の作成
第14回	課題（2）：最終稿の作成と提出
第15回	レポート課題（1）（2）を通じて本課題に関する全体的な理解の検証と確認をする

基本教材2

第1回	教材の確認と本課題の理解
第2回	課題（1）の学修：目次を利用して対象となる範囲の確認と学修
第3回	課題（1）の学修：内容の理解に困難がある場合は参考図書等を参照して理解する
第4回	課題（1）の学修：各章の概要の理解の程度を確認をする
第5回	課題（2）の学修：自分の興味あるテーマの選定
第6回	課題（2）の学修：選択したテーマに関する図書または文献を入手して概観する
第7回	課題（2）の学修：入手した図書、文献について、その内容を理解して自分の考えをまとめる
第8回	課題（2）の学修：内容の理解に困難がある場合、さらに参考図書や文献等から理解をすすめる
第9回	課題（1）：初稿作成
第10回	課題（1）：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	課題（1）：最終稿の作成と提出
第12回	課題（2）：初稿作成
第13回	課題（2）：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	課題（2）：最終稿の作成と提出
第15回	全てのレポート課題及びその作成過程から、本課題全体に対する理解の検証と確認を行う。

科目名	産業・組織心理学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	------------	-----	----------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講義では、心理学の応用領域の一つである産業・組織心理学の概要を理解し、最終的には産業・組織心理学で得られた知見が職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているかについて考えることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。</p> <p>II. 問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>心理学の応用領域を理解し、得られた知識を自分の所属する職場にどのように反映できるかを考え、改善策を提案する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業・組織心理学における研究領域とその概要を理解することができる。 産業・組織心理学で得られた知見が、職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているか理解できる。 自分にとって最も関心のある産業・組織心理学のトピックについて討論し、レポートに纏めることができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>1つのレポート課題の完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材および参考文献の読み込み：20時間 レポート課題の執筆：10時間 Manaba-Folioへのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 		
スケジュール	<p>前期：</p> <p>基本教材1のレポート課題1：6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材1のレポート課題2：8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：</p> <p>基本教材2のレポート課題1：11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2026年1月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材2のレポート課題2：12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2026年1月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、（原則的に）0点となります。 レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたレポートは評価の対象としません）。教材の副書きには評価の対象外レポート 	79%
	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出までにManaba-Folio上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。 草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。 	21%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポート課題といえども、論文の体裁で書いて下さい。 いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲載してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 産業・組織心理学は心理学の応用領域の一つですが、心理学の「応用」領域を理解するためには、心理学の基礎知識や基礎的理論の理解が問われます。心理学の基礎用語が分からない場合は、「参考図書」に目を通してください。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：教材 1：外島 裕 監修，田中堅一郎 編、教材 2：ベイザーマン，M.H./ムーア，D.A. 著，長瀬勝彦 訳 教材名：教材 1：『産業・組織心理学エッセンシャルズ 第4版』（ナカニシヤ出版，2019年） ISBN:978-4-7795-1385-5 2,900円+税 教材 2：『行動意思決定論 バイアスの罠』（白桃書房，2011年） ISBN:978-4-561-26563-4 3,800円+税</p> <p>教材 1 の内容は「仕事への動機づけ」「人事評価制度」「人事測定の方法」「職場の人間関係と意思決定」「職場におけるリーダーシップ」「職場のストレス」「組織における協力と葛藤」「ヒューマンエラー」「キャリアの発達とその開発」「売り手と買い手の心理学」「心理学で用いられる統計の基礎的知識ガイド（特論 1）」「産業・組織心理学史（特論 2）」から構成されている。 教材 2 は，経営における意思決定について全11章から構成されている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・中島義明ほか編『心理学辞典』（有斐閣，1999年）ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 ・下山晴彦ほか編『誠信 心理学辞典 [新版]』（誠信書房，2014年）ISBN:978-4-414-305074 6,264円 ・応用心理学ハンドブック編集委員会編『応用心理学ハンドブック』（福村出版，2022年）ISBN:978-4-571-20087-8 25,500円 ・ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器 [新版] 人を動かす七つの原理』（誠信書房，2023年）ISBN:978-4-414-30429-9 2,900円+税
履修上のポイント	<p>参考図書に示された『心理学辞典』『誠信 心理学辞典 [新版]』をもとに，分かりにくい専門用語を確認したり，心理学関連の他科目も学習することが望ましい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1の(1)について，1章から10章の各章を要約し，全体についてのコメントを述べること。</p> <p>留意点：各章を800字以内で要約し，全体についてのコメントを付記すること（合計10,000字以内で収めること）。</p>
レポート課題2	<p>基本教材 1 の(2)について，1章から10章の中から，自分の興味・関心のあるものを1章選び，その内容を自分の興味・関心の高い事柄を中心に，3,000字～4,000字でまとめること。</p> <p>留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：森下高治ほか 教材名：『クローズアップ メンタルヘルス・安全（現代社会と応用心理学 4）』（福村出版，2015年） ISBN:978-4-571-25504-5 2,400円+税</p> <p>本書は，メンタルヘルス，ヒューマンエラー，リスクマネジメントに関して応用心理学の視点から，20のトピックを中心に3章から構成されている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・中島義明ほか編『心理学辞典』（有斐閣，1999年）ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 ・金井壽宏『キャリア・デザイン・ガイド』（白桃書房，2003年）ISBN:978-4-56-123386-2 2,100円+税 ・谷口弘一・福岡欣次『対人関係と適応の心理学 ストレス対処の理論と実際』（北大路書房，2006年）ISBN:978-4-76-282527-9 2,400円+税 ・坂野雄二 監修『学校，職場，地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』（北大路書房，2004年）ISBN:978-4-76-282408-1 2,800円+税
履修上のポイント	<p>基本教材 1 と内容的には重複している箇所もあるが，内容的には（基本教材 1 と比べて）やや臨床心理学や安全工学との関連が強い。しかし基本教材 1 の内容が十分理解されていれば，教材 2 はさほど晦渋とは感じられないだろう。</p>
レポート課題1	<p>基本教材 2 の第3章を要約し，全体についてのコメントを述べること。</p> <p>留意点：各節を3000字以内で要約し，全体のコメントを付記すること（合計9,000字以内で収めること）。</p>
レポート課題2	<p>基本教材 2 を構成する20のトピックの中から，自分の興味・関心のあるものを1つ選び，その内容を当該書に示された「引用・参考図書」も参照しながら，3,000字から4,000字でまとめること。</p> <p>留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。</p>

基本教材1

第1回	仕事への動機づけ (1章)
第2回	人事評価制度 (2章)
第3回	人事測定の方法 (3章)
第4回	職場の人間関係と意思決定 (4章)
第5回	職場におけるリーダーシップ (5章)
第6回	職場のストレス (6章)
第7回	組織における協力と葛藤 (7章)
第8回	ヒューマンエラー (8章)
第9回	キャリアの発達とその開発 (9章)
第10回	売り手と買い手の心理学 (10章)
第11回	基本教材1の内容を参考文献で確認する。
第12回	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第13回	レポート課題1の最終レポート作成
第14回	基本教材1から1章を選択し、レポート課題2の草稿を作成して教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

基本教材2

第1回	災害と避難行動 (トピック18)
第2回	災害のトラウマと心のケア (トピック19)
第3回	災害看護 (トピック20)
第4回	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第5回	レポート課題1の最終レポート作成
第6回	労働をとりまく今日の問題 (トピック1) , 働く意味とは (トピック2)
第7回	ストレス (トピック3) , ソーシャルサポートとバーンアウト抑制 (トピック4)
第8回	ストレスコーピングの実際 (トピック5) , 新型うつ (トピック6)
第9回	過労死 (トピック7) , メンタルヘルスケア (トピック8) , 復職に向けて (トピック9)
第10回	キャリアとワーク・エンゲージメント (トピック10)
第11回	産業におけるリスクと安全 (トピック11) , 事故とヒューマンエラー (トピック12)
第12回	交通事故と交通コンフリクト (トピック13) , ハザード知覚とリスクテイキング (トピック14)
第13回	交通参加者の行動 (トピック15) , 運転態度 (トピック16) , 安全教育と効果 (トピック17)
第14回	基本教材2からトピック1つを選択し、レポート課題2の草稿を作成して教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

科目名	臨床心理学特講	担当者	キクシマ カツヤ 菊島 勝也	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	臨床心理学実践の中で、教育臨床をとりあげ、子どもに対する臨床心理学的な支援について学習する。特に、発達障害をはじめとした、様々な問題を抱えている子どもに対して、学校場面でどのような支援が行われているかについて焦点をあて、理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GI0)】</p> <p>○多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力 異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。</p> <p>○社会に貢献する姿勢 社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。</p> <p>以上の点を踏まえて、発達障害を持つ子どもに、実際の生活場面でどのような困難やつまずきが生じるのか、具体的なイメージを持てるようになること。</p> <p>【行動目標(SB0s)】</p> <p>○自ら学ぶ ・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。</p> <p>○自ら考える ・論理的・批判的思考力 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p> <p>・問題発見・解決力 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>○自ら道をひらく ・挑戦力 あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。</p> <p>・コミュニケーション力 他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。</p> <p>・リーダーシップ・協働力 集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p> <p>・省察力 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる</p> <p>以上の行動を通じて、困難を抱える子どもに対して、どのような支援ができるのか理解を深めること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 教材を読み、下記のレポート課題についてレポートを作成する。疑問が生じた場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑する。 1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題(1)(2)を終了後、基本教材2のレポート課題(1)(2)を作成する。</p> <p>前期：教材1のレポート課題(1)は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。いずれのレポートも、教員より加筆・修正を指示された場合には、9月中旬の学事歴で定められた期限までに再提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。いずれの課題も、教員より加筆・修正を指示された場合には、令和7年1月中旬の学事歴で定められた期限までに再提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題及び教員からの指導に対して、適切な内容がまとめられていること。また、それに対する、独自の意見や疑問が記述されていること。	80%
	観察記録	レポート全体の構成や表現方法を評価する。	20%
履修者への要望	<p>【準備学修項目】 発達障害を持つ子どもにこれまで関わる機会の無かった方は、なるべく具体的なイメージを持っていただきたい。一般向けの本などもたくさん出ているので、それらをあたることも助けとなると思われる。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：阿部利彦（著） 教材名：『見方を変えればうまくいく！特別支援リフレーミング』（中央法規，2013年） ISBN:978-4-8058-3859-4 2,000円+税</p> <p>著者は発達障害を持つ児童生徒に対して、主に学校場面で非常に先駆的な支援を行ってきた専門家である。本書は、3章から構成されており、特別支援の基本的な考え方、さらにたくさんの事例と対応方法が紹介され、専門家だけでなく、教員や保護者にも理解が深まるような配慮がなされており、初学者にとってわかりやすく大変有益な内容であるといえる。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部利彦・岩澤一美『発達が気になる児童生徒の理解と指導・支援』（金子書房，2019年）ISBN:978-4-7608-3270-5 1,400円+税 ・阿部利彦他『人的環境のユニバーサルデザイン』（東洋館出版社，2019年）ISBN:978-4-491-03946-6 1,800円+税 ・阿部利彦『発達障害の子どもたちから教わった35のチェンジスキル』（合同出版，2020年）ISBN:978-4-7726-1416-0 1,500円+税
履修上のポイント	<p>発達障害を持つ子どもに対する支援については、以下の点を十分踏まえておく必要がある。</p> <p>(1)授業場面では教育的な配慮が必要であり、本人のハンディキャップに応じた授業の工夫がなされるべきであること。</p> <p>(2)家庭場面では親のストレスや負担をなるべく減らし、まず良好な親子関係をつくることを支えていく事が求められること。</p> <p>(3)その上で、子ども自身のこころの健康な成長を支えるような支援が必要であること。</p> <p>(4)これらの支援はバラバラに行われるのではなく、それぞれが連携をしながら、実施されるべきであること。以上の点について、教材を読む事で、より具体的に理解が深まることが望まれる。</p>
レポート課題1	<p>教材第1章を読み、自分で重要であると感じたり、興味を持った部分を中心に要約を行い、それに対する自分の意見や疑問を書きなさい。</p> <p>留意点：留意点：まず発達障害がどのようなもので、どのような種類があるかについて、教材とは別に調べ、把握しておくことが望ましい。</p>
レポート課題2	<p>教材第2章CASE1～5までを読み、この中から自分が興味を持ったケースを2例とりあげて、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p>留意点：留意点：提案する1つ1つの支援プランについて、(1)どのような方法か、(2)その方法を実施することでどんな効果が期待できるか、を必ず含めること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：基本教材1と同じ。 教材名：基本教材1と同じ。</p> <p>基本教材1と同じ。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部利彦（編著）『クラスで気になる子の支援 ズバツと解決ファイル』（金子書房，2009年）ISBN:978-4-7608-2347-5 1,700円+税 ・文部科学省（2004）『小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）』（文部科学省のHPで閲覧可能） ・文部科学省（2021）『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』（文部科学省HPで閲覧可能）
履修上のポイント	<p>学校場面での子どもへの支援においては、いわゆるカウンセリングなどの心理療法的な視点からの支援だけでなく、教授法、教材の工夫、療育、生活指導、ケースワーク等、様々な視点から「役に立つ」方法を組み合わせる柔軟に用いることが必要であることを、具体的に学習することが望まれる。</p>
レポート課題1	<p>教材第2章CASE6～10までを読み、この中から自分が興味を持ったケースを2例とりあげて、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p>留意点：留意点：正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。</p>
レポート課題2	<p>教材第2, 3章CASE11～16までを読み、この中から自分が興味を持ったケースを2例とりあげて、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p>留意点：留意点：正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。</p>

基本教材1

第1回	教材の学習と、本科目の課題の理解。
第2回	教材第1章を読む（前半）。
第3回	教材第1章を読む（後半）。
第4回	教材事例1を読む。
第5回	教材事例2を読む。
第6回	教材事例3を読む。
第7回	教材事例4を読む。
第8回	教材事例5を読む。
第9回	レポート課題1：レポート原稿の作成・提出。
第10回	レポート課題1：担当教員からのフィードバック・コメントを読む。
第11回	レポート課題1：必要に応じて、掲示板を利用した質疑応答。
第12回	レポート課題2：レポート原稿の作成・提出。
第13回	レポート課題2：担当教員からのフィードバック・コメントを読む。
第14回	レポート課題2：必要に応じて、掲示板を利用した質疑応答。
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証。

基本教材2

第1回	教材の学習と、本科目の課題の理解。
第2回	教材事例6を読む。
第3回	教材事例7を読む。
第4回	教材事例8を読む。
第5回	教材事例9, 10を読む。
第6回	教材事例11, 12を読む。
第7回	教材事例13, 14を読む。
第8回	教材事例15, 16を読む。
第9回	レポート課題1：レポート原稿の作成・提出。
第10回	レポート課題1：担当教員からのフィードバック・コメントを読む。
第11回	レポート課題1：必要に応じて、掲示板を利用した質疑応答。
第12回	レポート課題2：レポート原稿の作成・提出。
第13回	レポート課題2：担当教員からのフィードバック・コメントを読む。
第14回	レポート課題2：必要に応じて、掲示板を利用した質疑応答。
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証。

科目名	臨床心理学特講	担当者	キタムラ セツ 北村 世都	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講義では、臨床心理学の理論を概観し、特に認知症高齢者の支援に臨床心理学がどのように活用されるのかを学ぶことを目的とする。 高齢者支援の領域には、高齢者本人への介入のみならず、高齢者施設職員の支援や家族支援など心理支援がかかわるテーマが多く含まれている。臨床心理学は、必ずしも面接室のみで完結する学問ではなく、心理学の知見を応用した科学的な心理支援に貢献できる学問である。そこで本講義では認知症高齢者の支援における臨床心理学を理解することを通して、科学的根拠をもった心理支援とは何かについても理解を深める。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 高齢者支援におけるさまざまな問題から、その背景にある課題を発見し、心理学・臨床心理学の知見を用いて課題解決を図る方法を身に着ける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①高齢者支援において活用されている、臨床心理学の主要アプローチを説明できる。 ②高齢者支援における問題を、科学的に分析できる。 ③高齢者支援における問題を、心理学や臨床心理学の理論に基づいて説明できる。 ④主要な認知症ケアについて、心理学的知見・臨床心理学的知見から期待される介入効果とそのメカニズムを説明できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 レポート課題を踏まえて、指定の基本教材および参考文献をもとに知識を深めて、レポートを作成する。1つのレポート課題作成に対して、基本教材を理解するために20時間、レポートをまとめる作業に10時間以上、レポート提出後の修正、科目担当者との質疑を通して加筆修正し、レポート最終稿を仕上げる作業に15時間以上を必要とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba Folioを利用して、全受講者間および科目担当者との質疑応答をおこなう。</p>		
スケジュール	<p>以下の期限に基づいて、受講者自身で学修計画をたてる。</p> <p>前期 基本教材1レポート課題1：草稿6月末日提出、9月の学事暦指定日に最終稿を提出。 基本教材1レポート課題2：草稿8月10日提出、9月の学事暦指定日に最終稿を提出。</p> <p>後期 基本教材2レポート課題1：草稿10月末日提出、令和7年1月の学事暦指定日に最終稿を提出。 基本教材2レポート課題2：草稿12月中旬提出、令和7年1月の学事暦指定日に最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1) 指定教材を正しく理解していること。 2) 提示された課題に応じたレポートであること。 3) 学術論文と同等の体裁を整えたレポートであること。	70%
	観察記録	1) 草稿提出後、必要な修正が行われていること。 2) レポートの修正内容が指導に基づいたものであること。	30%
履修者への要望	<p>○基礎心理学の知識がない人は、その習得に努力すること。 ○レポートや論文の書き方に沿って記述し、レポートであっても論文として体裁を整えること。 ○引用文献と参考文献を分けて記載すること。 ○参考図書も積極的に活用し、その他の図書の紹介が必要であれば科目担当者に直接相談すること。 ○自分の文章が論理的に正しいかどうか、何度も繰り返し読み、他者にも読んでもらって修正の指摘を受けてから、提出すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：①岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美 ②山口晴保・北村世都・水野裕 教材名：①『臨床心理学入門 -- 多様なアプローチを越境する』（有斐閣，2013年） ISBN:978-4-641-22003-4 本体1,900円＋税 ②『認知症の人の主観に迫る 真のパーソン・センタード・ケアを目指して』（協同医書出版，2020年） ISBN:978-4-7639-6037-5 本体1,500円＋税</p> <p>①『臨床心理学入門』は、臨床心理学の主要なアプローチと、それら相互の関係性を概観した入門書である。臨床心理学の中でも、特に介入技法の主要なアプローチが、どのように発展してきたのか、その背景やアプローチ間の異同が平易に説明されている。 ②『認知症の人の主観に迫る 真のパーソン・センタード・ケアを目指して』は、認知症ケアの実践の中で今日重視されている「その人らしさ」や「共感」について、それがどのような意味を持つのかを3人の著者が異なる視点から解説している。</p>
参考図書	<p>下山晴彦編 伊藤恵美・黒田美保・鈴木伸一・松田修著 『公認心理師技法ガイド―臨床の場で役立つ実践のすべて―』 （文光堂，2019年） ISBN:978-4-83-063626-4 6,500円＋税</p>
履修上のポイント	<p>高齢者の臨床心理学を学ぶ前提として、まずは臨床心理学の介入（心理支援や心理療法）がどのように発展してきたのかを知り、今日の心理支援の源流を理解してほしい。参考図書では、今日行われている多様な心理支援の技法が解説されている。教材で取り扱われている心理支援の具体的な内容を知ることができるので参考にしてほしい。 臨床心理学の介入を理解するためには、基礎心理学（認知心理学、生理心理学、学習心理学、発達心理学など）の知識が必要であるため、不明点はそのままにせず、自身で調べて明らかにしながら進めること。</p>
レポート課題1	<p>以下のリンクのファイルにある事例Aさんへの心理支援を考える。（1）精神力動アプローチ、（2）ヒューマンスティックアプローチ、（3）認知行動アプローチ、のそれぞれのアプローチでは、見立て（定式化・ケースフォーミュレーションともいう）、支援目標、支援方法、想定される回復過程をそれぞれ解説しなさい。 事例Aさん https://drive.google.com/file/d/1wiSLlIWJwEwQIA4h0yfONjEYGzqPc_IY/view?usp=drive_link 留意点：教材だけではなく、自分でさらに学びを深めて課題に取り組んでください。</p>
レポート課題2	<p>パーソン・センタード・ケアでは、認知症の人の「その人らしさpersonhood」を大切にすることが重要であるとされる。臨床心理学の知見から「その人らしさ」とは何かを解説しなさい。 留意点：自分の考えではなく臨床心理学の理論や先行研究を参照し、根拠を示しながら論理的に解説してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：大庭輝・佐藤眞一編 教材名：『心理学で支える認知症の理論と臨床実践』（誠信書房，2023年） ISBN:978-4-41-441700-5 本体2,700円＋税</p> <p>高齢者支援や認知症の支援では、基礎心理学の知見が必要になることが多い。本書では、臨床心理学だけではなく基礎心理学がどのように心理支援の実践に応用されているのかを理解することができる。</p>
参考図書	<p>小海宏之・若松直樹・川西智也 『認知症ケアのための心理アセスメントと心理支援―高齢者の心理臨床ハンドブック』 （金剛出版，2022年） ISBN:978-4-77-241904-8 本体3,800円＋税 福島喜代子編 結城千晶著 『事例で学ぶ認知症の人の家族支援：認知行動療法を用いた支援プログラムの展開』 （中央法規，2017年） ISBN:978-4-80-585471-6 本体2,400円＋税 佐藤眞一『認知症の人の心の中はどうなっているのか？』 （光文社信書，2018年） ISBN:978-4-33-404387-2 本体840円＋税</p>
履修上のポイント	<p>認知症の基本的な知識が少ない人は、自身で認知症関連の書籍や動画で知識を深めること。</p>
レポート課題1	<p>認知症の人への心理的介入の概要をまとめたうえで、教科書で紹介されている支援方法や介入方法に基づいた、教材とは異なる別の事例論文を1本選び、（1）事例の概要、（2）事例において、心理支援の技法がどのように用いられ、どのような効果があったと考えられるのかを記述しなさい。 留意点：学術論文、書籍などの刊行物に掲載された事例を用い、出典を明記すること。</p>
レポート課題2	<p>今日、実践されている認知症の家族介護者を対象にした介護者教室の事例を1つ挙げ、その実践事例に関して、（1）どのような心理的支援が行われているのか、（2）心理的支援としてより効果が期待できるように、介護者教室のプログラム改善案を考え、（3）改善案が心理的支援としてより効果があると考えた根拠を説明しなさい。 留意点：全国の市町村や地域包括支援センター、介護施設や事業所等で実施されている介護者教室（講座）のプログラムを調べて、それをもとに（1）（2）を論じること。特に改善案では根拠を明確にすること。</p>

基本教材1

第1回	教材の準備と全体構成の把握、本科目の課題の理解、学修計画の立案
第2回	基本教材1『臨床心理学入門』第1・2章を通して、「臨床心理学の概要」を学修する。
第3回	基本教材1『臨床心理学入門』第3・4章を通して、「精神力動アプローチ」を学修する。
第4回	基本教材1『臨床心理学入門』第5・6章を通して、「ヒューマニスティックアプローチ」を学修する。
第5回	基本教材1『臨床心理学入門』第7・8章を通して、「認知行動アプローチ」を学修する。
第6回	基本教材1『臨床心理学入門』第9・10章を通して、「臨床心理学のアプローチの違い」を学修する。
第7回	レポート課題1：初稿の作成
第8回	レポート課題1：指導を踏まえた修正稿の作成
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	基本教材1『認知症の人の主観に迫る』第1章を通して、「認知症におけるメタ認知」を学修する。
第11回	基本教材1『認知症の人の主観に迫る』第2・3章を通して「認知症における共感」を学修する。
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：指導を踏まえた修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通し、臨床心理学特論の課題の全体的な理解と検証を行う。

基本教材2

第1回	教材の準備と全体構成の把握、本科目の課題の理解、学修計画の立案
第2回	基本教材2第1章を通して、「認知症の支援と心理学の接点」を学修する。
第3回	基本教材2第2章を通して、「認知心理学の概要」を学修する。
第4回	基本教材2第1章を通して、「神経心理学の概要」を学修する。
第5回	基本教材2第1章を通して、「認知症の心理支援の現状と課題」を学修する。
第6回	基本教材2第II部の事例を読み、「認知症の心理支援の各論」を学修する。
第7回	基本教材2第II部の事例の1つと同じテーマの学術論文等を探して内容を理解する。
第8回	レポート課題1：初稿の作成
第9回	レポート課題1：指導を踏まえた修正稿の作成
第10回	レポート課題1：最終稿の作成
第11回	全国の認知症家族介護者教室を集め、「認知症家族介護者教室における心理支援」を学修する。
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：指導を踏まえた修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通し、臨床心理学特論の課題の全体的な理解と検証を行う。

科目名	医療心理学特講	担当者	カマクラ ヤヨイ 鎌倉 やよい	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本科目は、医療心理学として応用行動分析学の基本的な行動の原理を基盤に、患者もしくは医療者の行動変容を促す技法を身につけることを目的とする。</p> <p>医療現場においては、患者に対しては運動遵守や食事制限、医療者に対しては規定遵守など、行動変容が求められる場面が多い。これらの多くは、患者教育や医療者教育として「医療者もしくは管理者が言語的に教示する方法」が採られているが、必ずしも「当事者が実行する」とは限らない。患者自身、医療者自身が行動を変容させ、自律的に実行できるようにする技法が必要である。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>医療場面の事象について、行動の原理に基づき注意深く観察して問題を発見し、論理的・批判的思考力を身につけて、応用行動分析学の行動変容法を活用して解決策を提案する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①医療場面における人の問題行動について、ABC分析(先行条件・行動・結果)ができる。</p> <p>②ABC分析に基づき、結果の操作によるアプローチ(分化強化)を計画することができる。</p> <p>③ABC分析に基づき、先行条件の操作によるアプローチ(先行子操作)を計画することができる。</p> <p>④行動変容法のうち、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」を説明できる。</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに30時間以上、Manaba Folioでのやりとりに15時間以上を目安とする。</p> <p>基本教材1：教材に従って、基本的な行動の原理のうち特に「強化」「弁別」を十分に理解していただきたい。その上で、医療場面における患者又は医療者の行動を観察し、その行動をアセスメントとして、ABC分析を実施して行動随伴性を明らかにする。その問題行動を解決するために、結果の操作(強化)及び先行条件の操作(弁別)による行動変容のためのアプローチを検討する。</p> <p>基本教材2：教材に基づき、新しい行動を形成する方法を学習する。第Ⅲ部から第Ⅴ部まで詳述された行動変容法のうち、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について医療場面の具体例を検討する。ここでは、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」として、「分化強化」「先行子操作」の技法を学習し、行動変容のためのアプローチを検討する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba Folioの掲示板機能を利用して、受講生相互に課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。</p>		
スケジュール	<p><前期>・レポート課題1 締切：6月末(初稿) ★学事暦で定められた日までに提出する</p> <p>・レポート課題2 締切：8月末(初稿) ★学事暦で定められた日までに提出する</p> <p><後期>・レポート課題1 締切：10月末(初稿) ★学事暦で定められた日までに提出する</p> <p>・レポート課題2 締切：12月末(初稿) ★学事暦で定められた日までに提出する</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>1) 学習された教材内容が要約として示されていること。</p> <p>2) 課題に対する回答が詳述され、教材や文献が活用されていること</p> <p>3) レポートの形式的条件を満たしていること</p>	70%
	観察記録	<p>1) 草稿用レポート提出、修正のプロセスを経て作成されていること</p> <p>2) レポート修正時には、添削やコメント内容が反映されていること</p> <p>3) レポート提出など、学習スケジュールが適切であること</p>	30%
履修者への要望	<p>1) レポートは、教材による学習内容を要約した上で、課題に応用して論じて下さい。</p> <p>2) 行動変容法を臨床応用した事例を紹介している著書を紹介するので、参考にしてください。</p> <p>・坂上貴之他：『行動分析学：行動の科学的理解をめざして』（有斐閣、2018年） ISBN：9784641221024 2,310円</p> <p>・山本淳一他（編）『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』（金剛出版、2015年） ISBN：9784772414487 3,960円</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：今本繁，島宗理 教材名：『対人支援の行動分析学(改訂版)』（ふくろう出版，2008年）ISBN:978-4-86-186363-9 1,900円+税</p> <p>本書は行動の法則，行動をアセスメント，介入効果を評価するためのシングルケーススタディ，行動変容アプローチの基礎知識について，実践的にわかりやすく説明されている。次に，問題行動に対するポジティブなアプローチ，恐怖や不安へのアプローチ，セルフマネジメント，パフォーマンスマネジメントとして，行動変容のための方法論が具体的に説明され，さらに，医療・リハビリテーション分野への応用として具体例が示されている。</p>
参考図書	<p>P. A. アルバート，A. C. トールマン（佐久間，谷，大野，訳）『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社，2004年）ISBN:978-4-86-108015-9 3,200円+税</p>
履修上のポイント	<p>行動は環境との相互作用である。問題行動と思われたとしても，どの様な場面で引き起こされ，その結果何が生じているのか，的確にアセスメントすることが必要である。まず，教材に従って学習した後，医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，行動アセスメントとしてABC分析を実施して，3項強化随伴性を学習する。次に，問題行動を解決する技法を学習し，なかでも結果の操作（強化）並びに先行条件の操作（弁別）によるアプローチを学習していただきたい。</p>
レポート課題1	<p>医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，問題と思われる行動について，行動アセスメントとしてABC分析を行い，その3項強化随伴性について論じなさい。</p> <p>留意点：病院での医療場面，外来での場面，患者として自分の行動を観察するのも良い。簡単な例として，「ゴミがベッド下に散乱する安静臥床患者」，「運動訓練をいやがる患者」，「薬を飲み忘れる患者」，「頼みにくい医師や看護師」 「外来で歩き回る患者」など，参考にしていきたい。</p>
レポート課題2	<p>高脂血症患者（男性，身長170cm，体重80kg）が運動してBMI:25未満72kgまで体重を減らすように指示されたが，歩行を増加させることができません。学生各自がABC分析の条件を設定して歩行の行動随伴性を示し，結果と先行条件へのアプローチを論じなさい。</p> <p>留意点：行動変容へのアプローチのうち，「結果の操作によるアプローチ（p80）；強化」「先行条件に焦点を当てたアプローチ（p99）；先行子操作」を理解することを目的とする。ABC分析のための条件は学生各自が設定し，原理に基づくアプローチを考案していただきたい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：レイモンド・G・ミルテンバーガー（園山，野呂，渡部，大石，訳） 教材名：『行動変容法入門（日本語版第2版）』（二瓶社，2024年）ISBN:978-4-86-108091-3 5,400円+税</p> <p>本書は，第1部「行動と行動変化の測定」，第2部「基本的な行動の原理」，第3部「新しい行動を形成する方法」，第4部「望ましい行動を増やし，望ましくない行動を減らす方法」で構成されている。第1・2部が行動分析学の基礎がわかりやすく記され，第3・4部には行動変容を導く技法がわかりやすく述べられている。具体例が多用されているため，行動変容法について医療場面に置き換えて学習することができる。</p>
参考図書	<p>P. A. アルバート，A. C. トールマン（佐久間，谷，大野，訳）『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社，2004年）ISBN:978-4-86-108015-9 3,200円+税 日本行動分析学会（編）『行動分析学研究アンソロジー2010』（星和書店，2011年）ISBN:978-4-79-110763-6 3,500円+税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材2の第1部は行動の測定，第2部は基本的な行動原理のうち特に「強化」「刺激性制御」を，十分に理解していただきたい。第3部から行動変容法が詳しく示されている。本講では新しい行動を形成する方法として，「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について学習する。その方法として前者は結果にアプローチする「分化強化」を，後者は先行条件にアプローチする「先行子操作」を中心に学習する。</p>
レポート課題1	<p>望ましい行動を形成する手続きである「シェイピング」について，医療場面の具体例を示して，「漸次的接近」「分化強化」を用いて論じなさい。</p> <p>留意点：望ましい行動形成の医療場面として，「構音の学習」，「嚥下方法の学習」，「永久気管孔造設後のケア方法の学習」，「人工肛門造設後のケア方法の学習」，「小児へのトイレトレーニング」等が例として挙げられる。これらを参考に具体例を検討していただきたい。</p>
レポート課題2	<p>新しい行動を形成する手続きである「プロンプトと刺激性制御の転移」について，医療場面の具体例を示して，「先行子操作」を用いて論じなさい。</p> <p>留意点：対象となる例として「採血など新しい技術の指導場面」「新たなケア方法や道具の操作の指導場面」等が例として挙げられる。これらを参考に具体例を検討していただきたい。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材（応用行動分析学）の検討
第3回	基本教材1の学修：「3項強化随伴性」について
第4回	基本教材1の学修：「強化」と「弁別」について
第5回	関連する図書の学修
第6回	関連する文献の検索とその内容の学修
第7回	レポート課題1に向けた事例の抽出
第8回	レポート課題2に向けた事例の抽出
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材（応用行動分析学）の検討
第3回	基本教材1の学修：「シェイピング」「分化強化」について
第4回	基本教材1の学修：「プロンプトと刺激性制御の転移」と「先行子操作」について
第5回	関連する図書の学修
第6回	関連する文献の検索とその内容の学修
第7回	レポート課題1に向けた事例の抽出
第8回	レポート課題2に向けた事例の抽出
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	行動分析学特講	担当者	スギモト タダシ 杉本 任士	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	行動分析学はアメリカの心理学者B. F. スキナー(1904-1990)によって創始された学問体系で、実験的行動分析学、応用行動分析学に分けられる。実験的行動分析学は、ヒトや動物の行動を実験的に検討し、行動の原理を明らかにしようとする分野であり、応用行動分析学は、さまざまな現実場面での問題(教育、臨床、福祉、産業など)の解決や、動物の訓練などに取り組んでいる。本科目では、行動分析学の基礎的な理論と技法の修得に加えて、日常生活において生じる様々な問題を、行動分析学の知見や方法論を用いて理解し、その解決策を考案できるようになることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 行動分析学というユニークな世界観・人間観に基づく学問を通して、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観、論理的かつ批判的な思考力、問題を発見し解決策を提案する力を身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 (1)行動分析学の理論と技法について実証的データに基づいて理解するとともに、その理論や技法の背景となっている人間観や世界観について説明できる。(知識・問題解決、技能) (2)行動分析学の臨床応用領域における実践方法を学び、社会的場面における行動技法活用の利点や問題点について説明できる。(知識-問題解決、技能)</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 1) 課題に従って基本教材とレポート提出システム(manaba)に掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げる。2) 「レポート提出のためのチェックリスト」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出する。3) 教員からの加筆・修正の指示に従って、再度、修正稿を提出する。4) これを繰り返して、最終稿に仕上げていく。 資料収集・テキストの学修に20時間、レポートをまとめるのに10時間、manabaを使用したレポートの修正・推敲作業に15時間、計45時間程度の準備・学修時間を要します。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manabaのコレクションを利用し、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manabaの掲示板を利用し、受講者同士の協働学修を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポート推敲のためのピア・レスポンス等)。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p><前期：行動分析学の基礎の学修> 1) 実体験による行動変容の理解 2) 観察による行動変容の理解 3) 言語による行動変容の理解 課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末とする。 最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p><後期：行動分析学の原理の応用の学修> 1) 応用行動分析学の問題解決手続きとABC分析に基づいた関数(機能)分析の理解 2) 行動分析学に基づいた問題行動の改善案の考案 課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ10月末と11月末とする。 最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。 一回の草稿提出ですべて学修するのは困難です。早めに草稿を提出し、指導を受けながら、学修を進めてください。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1) 留意点に従って、課題について述べているか。 2) リポート提出システム(manaba)に掲載された資料を参考に書かれているか。 3) リポート提出のためのチェック項目に従って書かれているか。	75%
	観察記録	1) 提出期限の直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか。 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているか。	25%
履修者への要望	manabaにも資料を添付しますので、必ずダウンロードして参考にしてください。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料に目を通してから、レポートに取り組んでください。また、「レポート提出のためのチェックリスト」を参考に、自身のレポートが全ての項目を満たしているかチェックしてください。満たしていなければ満たしたうえで項目をチェックし、その後に提出してください。提出の際は、チェックリストをレポートの最初に加えてください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：眞邊 一近 教材名：『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社，2020年 第2刷版） ISBN: 978-4-7819-1441-1 2,600円+税</p> <p>行動分析学の基礎になる学習心理学の知見と，その応用についてまとめられている。最新の行動分析学の用語による解説がなされている。行動の変容を引き起こす「経験」を，実体験による経験，観察による経験，言語を媒介とした経験の3種に分類し，それぞれで生じる学習について解説している。</p>
参考図書	<p>坂上 貴之・井上 雅彦『行動分析学』（有斐閣，2018年）ISBN: 978-4-641-22102-4 2,100円+税 杉山 尚子『行動分析学入門』（集英社，2005年）ISBN: 4-08-720307-7 840円+税</p>
履修上のポイント	<p>前期は，行動分析学の基礎について学修します。テキストには，基礎的な現象とその応用例が示されていますので，日常場面の具体例と関連付けながら理解するようにしてください。また，第1章に概略が示されていますので，まずは，第1章を学修してから読み進めてください。</p>
レポート課題1	<p>「オペランと条件づけ」にはどのようなものがあり，それらが我々の生活にどのように結びついているか，具体例をいくつかあげながら，そのメカニズムがわかるように概説せよ。 留意点：必ず具体例を示すこと。また，それについて随伴性ダイアグラム（ABCフレームを用いたABC分析（関数分析））を用いて説明すること。</p>
レポート課題2	<p>「ルール支配行動」による学習（行動変容）にはどのようなものがあり，それらが我々の生活にどのように結びついているか，具体例をいくつかあげながら，そのメカニズムがわかるように概説せよ。 留意点：必ず具体例をあげながら説明すること。その際，理解を助ける図式化を試みることを。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：第1図書：P. A. アルバート / A. C. トルーマン 著 佐久間 徹 / 谷 晋二 / 大野 裕史 訳 第2図書：井上 雅彦（監修） / 三田地 真実・岡村 章司（著） 教材名：第1図書：はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社，2004年）ISBN: 978-4-86108-015-9 3,200+税 第2図書：『保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック』（金剛出版，2019年）ISBN: 978-4-7724-1693-1 2,600円+税</p> <p>第1図書は，応用行動分析学の基本的な考え方から始まり，行動変容のための手続きを丁寧に解説した書である。行動目標の作成，データの収集とグラフ化，一事例の実験デザイン，行動の生起頻度を増大させる随伴操作，不適切な行動を減少させる結果操作，分化強化（刺激制御とシェイピング），機能分析，行動変容の般化，行動自己管理の指導，教室での実践の順で分かりやすく述べられている。第2図書は，保護者や学校の教員が行動分析学に基づく実践ができるように，行動分析学の実践方法についてわかりやすくまとめられている。</p>
参考図書	<p>ブライア，K.（河嶋 孝・杉山 尚子 訳）『うまくやるための強化の原理』（二瓶社，1998年） ISBN: 978-4-931199-55-2 1,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>後期は，行動分析学の応用について学修します。行動分析学は，問題行動の原因を個人の内的なプロセスに求めるのではなく，その個人を取り巻いている環境（行動随伴性）に求めます。その行動随伴性を改善することにより問題行動を修正します。問題行動の原因を個人の内的プロセスに求めることの問題点の理解と，問題行動が行動随伴性の改善によって解決可能であることを学修してください。</p>
レポート課題1	<p>日常場面における問題行動の具体例をいくつかあげ，その問題行動を引き起こしている環境（行動随伴性）を、ABC分析（関数分析）を用いて明らかにせよ。 留意点：第2図書の第2部を十分理解した上で取り組んでください。レポートを作成する際は，1) 問題行動の具体例をあげ，2) ABCフレームを用いたABC分析（関数分析）を行った上で，3) その行動（反応）の増加や減少につながる結果は，行動随伴性の何にあたるのかを丁寧に説明してください。問題行動は，自身の行動でも他者（ペットも含む）の行動のいずれでもかまいません。</p>
レポート課題2	<p>日常場面における問題行動の具体例をあげ，その行動修正の手続きを一事例の実験デザインで提示せよ。 留意点：第1図書で示されている内容を十分理解した上で取り組んでください。レポートを作成する際は，1) 具体例をあげ，2) 行動目標を示し，3) 機能分析と行動の原理を用いた介入方法を決定した上で，4) データ収集の方法について言及してください。使用するデータは架空のものでかまいません。そして，5) 予想される結果を一事例の実験デザインを用いてグラフ化し，6) 最後に考察を行ってください。それぞれのプロセスにおいて，第1図書を参考に特に注意すべき点について説明を加えてください。問題行動は，自身の行動でも他者（ペットも含む）の行動でもかまいません。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	基本教材1の学修：非連合学習について
第3回	基本教材1の学修：連合学習について
第4回	基本教材1の学修：観察による学習について
第5回	基本教材1の学修：言語による学習について
第6回	参考図書に関する学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	レポート課題の構成，内容についての立案検討
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	基本教材2-1の学修：応用行動分析学の基本的な考え方について
第3回	基本教材2-1の学修：行動変容のための手続き(目標行動の設定の仕方など)について
第4回	基本教材2-1の学修：行動変容のための方法(強化や弱化など)について
第5回	基本教材2-2の学修：機能分析(ABC分析)について
第6回	参考図書に関する学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	レポート課題の構成，内容についての立案検討
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	コミュニケーション心理学特講	担当者	マナベ カズチカ 眞邊 一近	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	----------------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>ヒトは他者とのコミュニケーションにより社会生活を維持しています。円滑なコミュニケーションにより、ヒトはQOL (Quality of Life) を高めることが出来ます。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションの心理学的側面についての学修を目的とします。</p> <p>1) 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案できる。 2) 論理的・批判的思考力：得られた情報を元に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 コミュニケーションを円滑に行うためには、コミュニケーションスキルの獲得が必要です。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について学修した後、コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論についての学修を目的とします。</p> <p>1) コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について説明できる。 2) コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論について考案できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1) コミュニケーションの基礎となる音声知覚と発声の進化と発達の習得 2) 言語の基礎となる認知機能の進化と発達の理解 3) 発話の発達の理解 4) 各種コミュニケーションスキル訓練の理解 5) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善方法の習得</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要かどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。知覚心理学・発達心理学コミュニケーションスキル・行動分析学の学修等において、資料収集・テキストの学修に20時間、レポートをまとめるのに10時間、manaba-folioを使用したレポートの遂行作業に15時間、計45時間程度の準備学修時間を要します。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioの掲示板を利用して、受講者同士の協働学修を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期：コミュニケーションに関連する知覚と発達 1) コミュニケーションに関連する知覚の理解 2) コミュニケーションの発達の理解 課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：コミュニケーションスキルと行動分析学 1) コミュニケーションスキルと訓練方法の理解 2) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案 課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ10月末と11月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>心理学の基礎から応用まで学修は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学修するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学修を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) リポート提出システム(manaba)に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？	75%
	観察記録	1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？	25%
履修者への要望	<p>レポートシステムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、レポート提出のためにチェック項目にチェックを入れてから提出して下さい。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：1) 深田博己 2) 重野純 3) 正高信夫 教材名：1) 『コミュニケーション心理学：心理学的コミュニケーション論への招待』（北大路書房，1999年）ISBN:978-4-76-282160-8 2,500円+税【紀伊國屋在庫僅少】 2) 日本音響学会編『音の何でも小事典：脳が音を聴くしくみから超音波顕微鏡まで』（講談社，1996年）ISBN:978-4-06-257150-0 1,100円+税 3) 『0歳児がことばを獲得するとき：行動学からのアプローチ』（中央公論新社，1993年）ISBN:978-4-12-101136-7 660円+税</p> <p>第1図書は，コミュニケーション心理学を理解するのに必要な心理学の基礎的な知識を網羅的に解説した入門書である。第2図書では，音声知覚の概説がなされている。第3図書では，コミュニケーションの基礎といわれる乳児の母親とのコミュニケーションの解説がなされている。</p>
参考図書	<p>深田博己『インターパーソナルコミュニケーション：対人コミュニケーションの心理学』（北大路書房，1998年）ISBN:978-4-76-282103-5 2,500円+税 斉藤勇編『対人社会心理学重要研究集：対人コミュニケーションの心理』（誠信書房，1987年）ISBN:978-4-41-432403-7 2,500円+税 植村勝彦，松本青也，藤井政志『コミュニケーション学入門：心理・言語・ビジネス』（ナカニシヤ出版，2000年）ISBN:978-4-88-848536-4 2,400円+税 坂元章編『インターネットの心理学：教育・臨床・組織における利用のために』（学文社，2000年）ISBN:978-4-76-200964-8 1,900円+税</p>
履修上のポイント	<p>コミュニケーション心理学を理解するためには，心理学の幅広い基礎知識が必要です。出来るだけ，基本教材でとりあげている各分野の心理学にふれるようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので，必ず読むようにして下さい。</p>
レポート課題1	<p>コミュニケーションに関係する外的（物理的）世界と知覚（心理的）世界のズレについて述べよ。 留意点：コミュニケーションに関係する聴覚や視覚およびその相互作用などによって生じる現象についてまとめてください。</p>
レポート課題2	<p>コミュニケーションの発達過程について述べよ。 留意点：乳児・幼児・児童と発達する過程で，母親・家族・仲間とどのような相互作用を行いながら発達していくかについてまとめて下さい。このとき，どのような要因が「発達」を促進するか記述して下さい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：1) 島宗理 2) 眞邊一近 教材名：1) 『パフォーマンス・マネージメント』（米田出版，2022年）ISBN:978-4-94-655307-3 1,700円+税 2) 『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社，2023年第3刷版）ISBN:978-4-78191441-1 2,860円</p> <p>第1図書は，行動分析学に基づいたコミュニケーションスキルの向上法を具体的に解説した入門書である。部下のマネージメント・学校・病院・組織のマネージメントなどの具体例を学びながら，スキル向上の基本的な方法論が学べるよう構成されている。 第2図書は，行動分析学の基礎となる「学習」をわかりやすく説明している。行動分析学の基礎から実践場面での具体例を学ぶことが出来る。</p>
参考図書	<p>アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社，2004年）ISBN:978-4-93-119915-6 3,059円+税 相川充著『人づきあいの技術：社会的スキルの心理学』（サイエンス社，2000年）ISBN:978-4-78-190966-0 1,650円+税 R・ネルソン・ジョーンズ著（相川充訳）『思いやりの人間関係スキル：一人で出来るトレーニング』（誠信書房，1993年）ISBN:978-4-41-430274-5 3,800円+税 菊池章夫，堀毛一也『社会的スキルの心理学』（川島書店，1994年）ISBN:978-4-76-100527-6 3,200円+税 井上雅彦（監修）/三田地真実・岡村章司（著）『保護者と先生のための 応用行動分析入門ハンドブック』（金剛出版，2019年）ISBN:978-4772416931 2,860円（税込）</p>
履修上のポイント	<p>第1図書は，最初の章から順番に読んでいくことを勧める。また，参考図書の『はじめての応用行動分析』と読み合わせると理解が進むだろう。第2図書は，一般向けにわかりやすく書かれているが，本書の中でいわれていることの根拠を理解する上で，上記の図書を読んだ後で読むと良いだろう。</p>
レポート課題1	<p>コミュニケーションスキルおよびコミュニケーションスキル訓練にはどんなものがあるかまとめよ。 留意点：コミュニケーションの過程を概説した後，個々のスキルと訓練について述べて下さい。前期の基本教材も参考にして下さい。</p>
レポート課題2	<p>自分の職場あるいは家庭の人間関係やコミュニケーションでなにか問題を感じている事柄をとりあげ，関数分析（ABC分析）に基づいた改善策を考察せよ。 留意点：自分が考えた改善策の基礎となっている行動分析学の知見・方法論が具体的にわかるように述べて下さい。ただし，企業名や個人名が特定されないように注意すること。もし個人的な問題が無ければ，地域や市町村の問題でも構いません。</p>

基本教材1

第1回	コミュニケーションに関連する心理学分野の理解
第2回	コミュニケーションの基礎になる感覚と知覚の学修
第3回	コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化の学修
第4回	乳児期と幼児期の音声知覚と発声の発達 of 学修
第5回	幼児期の言語発達の学修
第6回	児童期の言語発達の学修
第7回	言語の基礎となる認知機能の進化と発達の学修
第8回	言語発達を促進する環境要因の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	コミュニケーションスキルの理解
第2回	各種コミュニケーションスキル訓練の学修
第3回	行動分析学の基礎の学修
第4回	行動随伴性の学修
第5回	行動の原理の学修
第6回	行動随伴性に基づいた関数分析（ABC分析）の学修
第7回	関数分析に基づいた応用事例の学修
第8回	行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生涯学習論特講	担当者	コガ トオル 古賀 徹	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座（生涯学習論特講）では、生涯学習社会を迎える現在において、「教育」（学習）をどのようにとらえ、学習活動をどのように企画・構想し展開していくことができるのかを考えることを主要な「問い」とする。その様々な問題解決のために必要とされる専門的知識や基礎理論を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(1)学修で習得した知識・技能を、生涯学習社会における様々な課題の解決に活用・適用することができる。</p> <p>(2)仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題を精査し、具体的な解決策を構想し提案することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における「生涯学習」の意義や特質を理解する。(知識・理解) ・諸外国や歴史的な文書、各種統計データを読み取り、活用する研究技能を身につける。(思考/技能) <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>(1)「教育学」の考え方、研究方法の特徴を理解し説明することができる。(知識・解釈)</p> <p>(2)「生涯学習社会の到来と課題」について説明することができる。(知識・解釈)</p> <p>(3)「生涯学び続ける力」を修得させることを目的として学校教育改革が進められていることとの関連性を理解し課題を抽出し解決策を形成・提案できる。(知識・問題解決)</p> <p>(4)現場の取材を行い、質問事項等を考え、リサーチクエスチョンにつなげていくことができる。(技能/態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>レポートの作成(そのための取材、資料収集と整理、構想と推敲から論文提出と、さらに修正)。関連する文献や情報を集め理解するために25時間以上、提出時のレポート往復(レポート指導・再提出のやりとり)に20時間以上を目安としている。[最低45時間の学修時間を要するものとする]</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>レポートで完結するが、自主的な意欲をもとにする「生涯学習の実践現場」を考察の対象とし、また取材を実施すること(フィールド・ワーク)と、それをレポートとして構成し、提出する作業(修正等の往復も含む)は、能動的であり、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」となる。レポートの往復(manaba folio)において、「読者」の存在を意識した論述の表現力や作法を身につけることができる。メールやmanaba folio上での質問も受け付けている。</p>		
スケジュール	<p>レポートは前期・後期とも、学事歴で定められた日までに提出する。</p> <p>「基本教材1」「基本教材2」ともに最終稿の締切より一ヶ月前までに初稿を提出すること。manaba folio上の添付で往復をすることで、完成稿へと進んでいくことになる。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題レポートを重視する。教材1(1)については教材の理解度を評価する。(2)については報告書の具体性を評価する。教材2については、主張される内容(理論)の理解度で評価する。課題未提出の場合は評価を行わない。	80%
	観察記録	レポート添削への対応や往復による学修。	20%
履修者への要望	<p>前提として、どのような「教育」「学習」がいま求められているのか、これまではどのようなものが求められてきたのかという教育観・学習観を理解しておいていただきたい。「教育とはこういうものだ」と誰もが漠然と語ることはできるが、その教育実践を生み出した理論や歴史を深く知っておくことで、その議論は「漠然」としたものではなく深まっていく。教材①は「近年の大学教育が対峙した課題」とそれに向き合った大学教員(学び方の変化)を理解することに役立つ構成となっている。そこに登場する学習(教育)方法・技術の工夫やICT機器の活用等について理解を深め、理論等の用語を操ることができるレベルへ向上していただきたい。おそらくご自身の(この)大学院での学びとも共通する課題が見出せると考えている。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：飯尾 淳 教材名：『オンライン化する大学』（樹村房，2021年） ISBN:978-4-88367-342-1 1,800円+税
	この教材は、タイトルのおり「大学」について記されたものです。副題に「コロナ禍での教育実践と考察」とありますが、近年に急速に進んだ“学習方法の改革”により大学がどのような影響を受けたのか、またこれからどのように変わっていくのかについて興味深い指摘がたくさん述べられています。生涯学習に限定しての専門書ではないのですが、“学び方の改革”という点では共通します。本講義で構想する「学校教育と生涯学習とをネットワーク的に理解する教育学的な視点」という学びのためには十分に意義があると思います。生涯学習の在り方や学び方、参加の仕方についてもコロナ禍において大きな変化を遂げております。Society 5.0やGIGAスクール構想、デジタルトランスフォーメーション（DX）等の施策、各種スローガンの共通点は「オンライン化」です。現場での対応や変化を分析・評価して、より有効な学習方法が作りあげられていくこととなります。この教材の「構成」自体が、その変化への対応・分析・評価のプロセスを示していると思いますので、より広い学びのために読み進めたいと考えております。
参考図書	勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』（有斐閣ストゥディア，2015年） ISBN:978-4-641-15014-0 1,800円+税 麻生誠・堀薫夫『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会，2002年） ISBN:978-4-59-511360-4
履修上のポイント	レポート課題(1)では、教材の内容をよく読み、コロナ禍において「学び方」（学習方法）がどのように変化したのか、それにより「学び」（学習）の意味をどうとらえるべきなのかという点について考えていただきたい。参考図書にあげたものは生涯学習や教育学の入門書的なものであるが、もちろんコロナ感染より以前ののものであるので、比較考察の視点でお読みいただきたい。 レポート課題(2)では、“書いてあること”の実践をみることで再確認と、実践をみることで感じることのできる課題（解決すべき問題点）を意識してもらうことをねらいとしている。
レポート課題1	教材を読み、「オンライン化」のポジティブ、ネガティブの両面を整理する。また、生涯学習の理念について考えたうえで、これからの「生涯学習の学びの在り方」について論じなさい。この教材は“大学の対応”が記されているので、それを社会人の学びや生涯学習の学び方についてどのように当てはめることができるのかを考えていただきたい。 留意点：教材の論述内容をよく読んで、学習者の習得する力と学び方の関係性をどうとらえようとしているのか、著者の主張・示唆を読み取ること。
レポート課題2	実際の「生涯学習」の場（博物館・美術館・生涯学習センター・市民活動支援センター等）を訪問して、そこでどのようなことが目指され、何を求めて参加者が集まり、どのような学習が行なわれているか等、見てきたことを報告してください。 留意点：ここでの活動は、“実践の場”を取材することでフィールド調査やインタビュー調査の方法を習得することを目的としています（取材場所は一か所でも複数でもよい、複雑な手続きや許可が必要となるような場合は避け、一般的な市民活動の場となる施設等がよい）。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：渡部淳 教材名：『アクティブ・ラーニングとは何か』（岩波新書，2020年） ISBN:978-4-00-431823-1 800円+税
	新しい学習指導要領（中学校で2021年度より開始）は「学び方改革」として「アクティブ・ラーニング」がその柱となっている。これは「自立的学習者」「自律的市民」の育成を目指すものである。新指導要領の目標は「学びに向かう力」として生涯学習続ける意欲や態度を養うものとされ、生涯学習の観点から学校教育を捉え直したのもといえる。「学び」とは何であるのかを問い直すために、その基本的著作として読んでいただきたい。
参考図書	本田由紀『教育は何を評価してきたのか』（岩波新書，2020年） ISBN:978-4-00-431829-3 840円+税
履修上のポイント	「アクティブ・ラーニング」は現在の「学び方改革」の中心となっている。この改革は1990年代から本格的に推進されてきていて、「総合的な学習の時間」や「言語活動の充実」の導入により始まる。この時代は「生涯学習時代の到来」が宣言される時期とも重なる。さらには欧米のPISA型学力等、国際規模での影響も大きい。時代的変遷や国際的背景を整理することで、読者である私たちは「生涯学習社会」あるいは「知識基盤型社会」を包括的な視点で捉え直すことが可能となると考えている。
レポート課題1	教材の全体を読み、特に第1～2章（1～68ページ）に記されたアクティブ・ラーニングが必要とされた理由、求められた理由についてまとめなさい。その導入を後押しした時代的変遷や国際的背景を整理することがねらいです。自身の考えや他の文献から学んだ成果を反映させていただいてもけっこうです。 留意点：課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。
レポート課題2	第3～5章（69～194ページ）には、アクティブ・ラーニングの手法や定着の条件が記されている。この学習方法の導入において、何が難しいとされるのか。それを定着させることで「生涯学習」にどのように寄与することが可能なのか。読者として読み取ったことに自分の考えを加えてまとめなさい。 留意点：課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。

基本教材1

第1回	教材の理解①：「オンライン化」とは何か、「学び」とは何か
第2回	教材の理解②：学習者の成長・学び方やインタラクションとの関係性
第3回	教材の理解③：学校（大学）教育と社会教育・生涯学習とを関連づける
第4回	教材の学修（課題①）：オンライン化する学習社会と「生涯学習」の意義，位置づけ
第5回	レポート課題1について構想をまとめる，初稿の作成
第6回	レポート課題1の推敲，修正稿の作成
第7回	レポート課題1について最終稿をまとめる
第8回	教材の解釈と取材活動①：取材計画の構想，取材対象を設定する
第9回	教材の解釈と取材活動②：取材対象に対する取材方法・内容を決めて予備調査・資料集めを行う
第10回	教材の解釈と取材活動③：取材実施・資料収集・記録，及び分析を行う
第11回	取材結果の分析と報告書における表現の工夫を行う
第12回	レポート課題2について初稿の作成
第13回	レポート課題2について推敲，修正稿の作成
第14回	レポート課題2について最終稿をまとめる
第15回	レポート1・2を見直し，生涯学習の理解（理論と実践）を深める

基本教材2

第1回	教材の理解①：課題の理解
第2回	教材の理解②：「はじめに」「第1章」を読み，国際的背景を整理する
第3回	教材の理解③：「第2章」を読み，時代背景や問題点を整理する
第4回	資料データの理解（教材以外のデータも参照してデータの読み取り方，表現方法を学ぶ）
第5回	レポート課題1について構想をまとめる，初稿の作成
第6回	レポート課題1の推敲，修正稿の作成
第7回	レポート課題1について最終稿をまとめる
第8回	教材の理解④：「第3章」「第4章」を読み，技術的問題や指導法を理解する
第9回	教材の理解⑤：「第5章」を読み，定着のための条件や整備を考える
第10回	教材の理解⑥：他の文献，関連する文献の探索と比較考察
第11回	草稿作成のために文献の記述，資料・データ評価を行い構造化する
第12回	レポート課題2について初稿の作成
第13回	レポート課題2について推敲，修正稿の作成
第14回	レポート課題2について最終稿をまとめる
第15回	レポート1・2を見直し，生涯学習の理解（理論と実践）を深める

科目名	学校教育学特講	担当者	クロダ ユキ 黒田 友紀	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、学校教育をめぐる現状を把握し、現在の教師や児童生徒に関する問題について、教材や参考資料にもとづいて考察・分析したうえで問題を解決する方策を模索することによって、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>1) 客観的な情報や根拠にもとづいて、論理的、批判的な考察を加えることができる。 2) 問題を分析し、現実に即した解決策や代替案を考えることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 学校教育をめぐる現状を把握し、現在の教師や児童生徒に関する問題について根拠を示しながら論理的・批判的な考察と分析を行い、代替案や解決策を模索し提案することができる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 教材から正しく情報を理解し、教師と児童生徒の問題について説明することができる。(知識) 教材や参考図書を活用し、批判的に分析を行うことができる。(技能) 計画的に学修に取り組み、常に「自分はどう考えるか」を意識し、できるだけ他者と意見を交換し、コミュニケーションをとることができる。(態度・習慣)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 レポートの課題に取り組むにあたって、基本教材や参考図書を熟読し、課題に関する理解を深めて考察と分析を行うこと。レポート課題1つにつき、完成までに、基本教材および必要案な文献の学修(20時間)、レポートにまとめる(10時間)、レポートの遂行と最終稿の完成(manaba folioを通じた添削などを含む)(15時間)を目安に、学修を進めること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 図書館やインターネットを利用して、教材以外の論文や資料を検索して自主研究を進め、レポートを作成する。 レポート作成、推敲の過程において、manaba folioの受講生用の掲示板機能に届いた受講生からの質疑について、必要な場合は受講生全体に質疑応答の概要を公開する。 受講生どうしの意見交換やピア・レスポンスなどの協働的な学習を推奨する。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1の課題1は6月末、課題2は7月末までに初稿を提出し、いずれも、最終稿は9月の課題提出締切日までに提出すること。 後期：基本教材2の課題1は10月末、課題2は12月初旬までに初稿を提出し、いずれも、1月課題提出締切日までに提出すること。 ※担当者のコメントにもとづいて、修正した最終原稿を9月・1月の課題提出締切日に提出すること。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	テキストを正しく理解し、課題に適切に答え、内容を明確に記述していること。 引用・参考文献なども適切に記載すること。	80%
	観察記録	レポートへのコメントを適切に理解し、アドバイスを沿って修正していること。	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 基本教材の理解を深め、課題に適切に答えること。 参考図書や必要な文献を積極的に活用して、考察を深めること。 レポートは、タイトルを付け、章(や節)に適切に分け、明瞭にまとめること。 引用、参考文献については、最後に明記すること。 枚数は、A4用紙4枚以上とする。 質問などがある場合は、そのまませず、相談すること。 <p>※レポート作成の過程を通して、文章執筆上のスキルアップと、章立てや構成などの方法や思考を学び、修士論文執筆に生かしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：佐久間亜紀・佐伯胖編著 教材名：『現代の教師論』（ミネルヴァ書房，2019年） ISBN:978-4-623-08536-1, 2,000円＋税</p> <p>本教材は，現代の学校教育のなかで教職とはどういう仕事か，教師と学校をめぐる問題をどのように考えるかについて，さまざまなトピックを扱っている。序章および第Ⅰ部では，日本の教師と学校教育の現状がまとめられており，第Ⅱ・Ⅲ部では，学校教育における課題や問題がコンパクトにまとめられている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・工藤勇一『学校の「当たり前」をやめた。一生徒も教師も変わる！公立名門中学校長の改革』（時事通信社，2018年）ISBN:978-4788715943 1,980円＋税 ・高橋哲『聖職と労働のあいだ「教員の働き方改革」への法理論』（岩波書店，2022年）ISBN:978-4-00-061538-9 3,200円＋税 ・数見隆生『子どもの命と向き合う学校防災』（かもがわ出版，2015年）ISBN:978-4780307573 2,200円＋税 ・豊田豊『「葬式ごっこ」一八年後の証言』（Kindle版 電子書籍）ASIN:B08XMG8QD2 1,408円
履修上のポイント	『現代の教師論』の全体を読み，現在の日本の教師や学校をめぐる状況を把握し，学校教育における課題を理解すること。そして，教員の働き方改革，多忙化の解消，こどもの命を守ること，いじめに向き合うことの内づれかについて考察を深めてもらいたい。上記の参考図書以外にも，基本教材の章末に図書案内があるので，是非活用してほしい。
レポート課題1	序章，第3・4章を読み，日本の教師や学校をめぐる問題，特に教師が専門的な能力を生かすうえで障害になっている問題とは何かを説明し，考察を加えること。 留意点：基本教材やその他の資料からの根拠も示したうえで論じること。レポート提出前にmanaba folioの受講生用の掲示板に記載されている注意事項を確認すること。
レポート課題2	「働き方改革」（第6章），「多忙化の解消」（第8章），「子どものいのちを守ること」（第10章），「いじめに向き合う」（第11章）のなかから，最も関心のあるものを1つ取り上げて，現代の課題や問題をまとめたうえで，問題解決の方策や意見を述べること。 留意点：根拠となる文章やデータにもとづいて，問題解決の方策や意見を展開すること。レポート提出前にmanaba folioの受講生用の掲示板に記載されている注意事項を確認すること。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：三成美保編 教材名：『教育とLGBTIをつなぐ 学校・大学の現場から考える』（青弓社，2017年） 2,200円＋税 ※Kindle（電子書籍）有</p> <p>学校教育でのセクシュアリティの問題について，中学校の取り組み，大学での調査や大学での支援，学校と医療の連携，教員採用試験における適性検査の問題など，各章で事例にもとづいた課題が投げかけられている。数年前の著書ではあるが，日本の状況を知り，これから何が求められるのかを考えてもらいたい。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・はたちさこ，藤井ひろみ，桂木祥子編著『LGBTサポートブック：学校・病院で必ず役立つ』（保育社，2016年） ISBN:978-4586085521 2,200円 ※Kindle（電子書籍）有 ・眞野 豊 『多様な性の視点でつくる学校教育—セクシュアリティによる差別をなくすための学びへ』（松籟社，2020年） ISBN:978-4879843975 2,850円＋税 ・ユネスコ（編著） 『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ』（明石出版，2022年） ISBN:2,860 978-4750350486円 ※Kindle（電子書籍）有
履修上のポイント	学校のなかにはジェンダー化されたルールや慣習がまだ存在し，気が付かないまま私たちの「当たり前」を形成していることがある。そうした「当たり前」を捉え直し，子どもから大人まですべての人が幸せに過ごすことのできる学校教育（そしてその先の市民生活）を考え，考察してもらいたい。基本教材2のテキストは2017年に刊行されているため，参考図書や基本教材1の第12章も参考にしながら，ウェブなどで最新のデータや論文などを検索して，学校教育におけるジェンダーやセクシュアリティをめぐる問題や課題を検討してほしい。
レポート課題1	レポート課題1 基本教材を読み，最も関心を持った章を取り上げてその内容を簡潔にまとめたうえで，セクシュアリティやジェンダーをめぐる現状について考察して自分の意見を加えること。 留意点：自分の経験とも照らし合わせながら，データなどに基づいて根拠のある考察を行うこと。
レポート課題2	学校教育（幼稚園から大学）における性の多様化とセクシュアリティの問題について関心のある課題をまとめ，現在の学校において，すべての児童生徒・教職員が快く過ごすために学校・教師ができることを具体的に提案すること。 留意点：根拠となる文書やデータに基づいて，方策や意見を展開すること。

基本教材1

第1回	教材の学修と課題の理解
第2回	基本教材1の学修：レポート課題1の該当部分のテキスト内容を把握する
第3回	基本教材1の学修：レポート課題1の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第4回	基本教材1の学修：学校や教師に関する問題を挙げ、参考資料や検索した資料を参考に考察を行う
第5回	基本教材1の学修：レポート課題2の該当部分のテキスト内容を理解する
第6回	基本教材1の学修：レポート課題2の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第7回	基本教材1の学修：取り上げる課題について、参考資料などを用いて考察を行う
第8回	レポートの説得性を増すために根拠となる資料やデータを探し、考察を行う。
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	基本教材2の学修：レポート課題1の該当部分のテキスト内容を把握する
第2回	基本教材2の学修：レポート課題1の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第3回	基本教材2の学修：参考資料や検索した資料を参考に、ジェンダー化されている事柄について考察を行う
第4回	基本教材2の学修：レポート課題2を理解し、基本教材2および1を読んで内容を把握する
第5回	基本教材2の学修：レポート課題2の理解を深めて、内容をまとめる
第6回	基本教材2の学修：レポート課題2について、学校・教師ができることを具体的に考える
第7回	レポートの説得性を増すために根拠となる資料やデータを探し、考察を加える
第8回	レポート課題1：初稿の作成
第9回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第10回	レポート課題1：最終稿の作成
第11回	レポート課題2：初稿の作成
第12回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第13回	レポート課題2：最終稿の作成
第14回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証
第15回	基本教材2の学修：レポート課題1の該当部分のテキスト内容を把握する

科目名	教育心理学特講	担当者	トキタ ガク 時田 学	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>教育心理学の基本的な知識・理論を理解することを試みる。その上で、実際の教育場面の中で、教育心理学的な視点を応用し、具体的に展開するには、どのような方略の可能性があるかについて考える端緒を持つことが可能となることを目的とする。</p> <p>また、心理学と教育学とは異なる視点を持っているため、教育心理学を理解するためには、心理学の基礎的な知識も必要となるため、必要に応じて教育と関連の深い心理学的知識の確認・拡充にも積極的に努めて頂いた上で、ロール・プレイング（役割演技）といった手法についての学修も行い、基本的な技能について理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 教育心理学の知識を確かなものとし、特に教育の中においての心理学的な知識と教育技法としてのロール・プレイング（役割演技）の知識を深め応用の可能性を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 教育心理学の分野において基礎的な知識を習得し説明し、実施に結び付けることができる。 ロール・プレイング（役割演技）手法について、その基本的な考え方を理解し、技能を応用するきっかけを作ることができる。 前記した部分を通じて、教育者としての基本的な態度、習慣を関係づけることができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 教材・体験を理解した上で、【自主研究25時間/レポート毎】、課題1、2ともそれぞれ1本のレポートを作成していただきたい【20時間/レポート1本】。作成したレポートについては、担当教員がコメントを付すので、そのコメントを基にレポートの修正を行っていただきます。このやり取りを繰り返し行って、レポートの作成を継続し最終的に提出を行う。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材理解のための、学修体験をレポート作成に生かすことで、ロール・プレイング的考え方を身に付けていただきたい。具体的には、manabaを利用した現在までの体験の振り返りに加え、可能な限り直接指導を行いロール・プレイング体験に触れた上でレポート作成に望むこととする。</p>		
スケジュール	<p>・前期：教育心理学の基礎的理解 課題1、2はどちらから始めてもよい。どちらの課題も早めに第一稿を作成し（6月～8月中を目標）、体験・担当教員のコメントを参考に調整し最終稿を作成、最終提出期限は学事暦の期限までとする。</p> <p>・後期：実践と教育心理学 課題1から初めて当該分野の理解を図る。その後、より実践的な課題2に取り組む。両課題とも早めに第一稿を作成し（課題1は11月中、課題2は12月中を目標）、体験並びに担当教員のコメントを参考に、調整して、最終稿を作成、最終提出期限は学事暦の期限までとする</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>①課題に対応した内容となっているか ②取り上げた理論などが適切に理解されて、自分の言葉で表現しているか ③適切な具体例が示されており、根拠となる事実が明確であり、客観的な検討がなされているか ④参考・引用文献が適切に表記されているか ○前期レポート1、2・後期レポート1は最終稿・後期レポート2は初校で評価を行う</p>	80%
	観察記録	<p>①コメントを理解しているか ②理解したコメントに適切に対応しているか</p>	20%
履修者への要望	<p>教育心理学の枠組みを捉えて、その中で、実際の教育の中で問題となっていることについて、考察できるようになることを望みます。</p> <p>また、我が国の教育ではあまり体験することの少ない手法（ロール・プレイング・役割演技）についての理解も、理論を学び、その実践について考えられるようになることを目指します。</p> <p>課題レポート体裁・ロール・プレイング体験等の詳細は、履修確定後に示すこととなりますので、よく理解して、進めるようにしていただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊藤裕司 教材名：「ベーシック現代心理学 教育心理学（第3版）」（有斐閣，2015年） 本体2,100円＋税 ISBN:978-4-64-107245-9</p> <p>教育心理学の基本的な知識を概括した入門書である。教育心理学の課題・立場・研究法に触れた後に、発達・適応・学級集団・学習などの基本的理論と授業法，教育評価などについて，実際の活用を概観している。</p>
参考図書	<p>大村彰道（編）「教育心理学 1-発達と学習指導の心理学」（東京大学出版会，1996年） 本体2,500円＋税 ISBN:978-4-13-052072-0 下山晴彦（編）「教育心理学 2-発達と臨床援助の心理学」（東京大学出版会，1998年） 本体2,900円＋税 ISBN:978-4-13-052074-4 森敏昭・秋田喜代美（編）有斐閣双書「教育心理学キーワード」（有斐閣，2006年） 本体1,900円＋税 ISBN:978-4-64-105885-9</p>
履修上のポイント	<p>教材は，教育心理学について基本的な課題を扱ったものである。課題に関連する部分だけでなく，全体を通読し，教育心理学全体の理解に繋げていただきたい。さらに，参考図書を活用することを通じて，レポート作成を通じて，文献を調べる，原典に当たるなどの基本的と考えられる，レポート作成方法についても学んでいただきたい。</p>
レポート課題1	<p>発達における代表的な理論1つ取り上げて，その理論について概説すること</p> <p>留意点：取り上げた理論が，教育心理学のどの様な領域のことであれば説明可能であるか，などを上げた理論について，概括すること。また，教材文書の直接引用は避け，取り上げた教材の基になっている文献に可能な限りあたり，レポート作成に当たっていただきたい。また，社会人としての文書作成経験を踏まえ，論文執筆に留意する点が認められれば，その点を指導するにとどめたい。</p>
レポート課題2	<p>レポート課題1で取り上げた理論を基に具体的な教育場面を取り上げて，理論を基に説明せよ。</p> <p>留意点：初等中等教育の中で展開される教育実践に視点を当て，具体的な教育実践のなかで，教育心理学として，理論をもとに，説明を組み立てていただきたい。また，社会人としての文書作成経験を踏まえ，論文執筆に留意する点が認められれば，その点を指導するにとどめたい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：千葉ロール・プレイング研究会（著），外林 大作（監修） 教材名：教育の現場におけるロール・プレイングの手引（誠信書房，1999年） 本体2,700円 ISBN:978-4-41-440135-6</p> <p>学習を進める上で，大切であると考えられる役割関係について，具体的な資料を示しながら，理論的背景を丁寧に解説し，具体的な実践方法もある程度網羅してきである。事例研究では，少し年代的には古いがある程度，現場での取り組みについて，具体的例を挙げて実践につながるようにしている。教科書がにゅうしゅ負荷の場合は，担当講師が配布する。</p>
参考図書	<p>履修決定後指示致します。</p>
履修上のポイント	<p>ロール・プレイングは役割演技法と表記され，学習指導要領にも記載されている手法であるが，その効果的実践の効果を高めるためには，教育心理学的な基礎的知識を得ることが必要であると推察される。教材は，基本的な部分は網羅されていると考えられるので，参考図書と合わせて熟読していただきたい。また，具体的実践も必須となるので，履修決定後必要に応じて指示致します。</p>
レポート課題1	<p>学校教育場面の中で，ロール・プレイング（役割演技）を展開するとき，教育心理学的な視点を加味する必要があると考えられるが，その中で重要と考えられる点について論ぜよ。</p> <p>留意点：教育ロール・プレイングを行う場合，心理学的な視点を持って臨むことは重要であると考えられている。本レポートではその点を踏まえ，教育心理学という観点から検討する。また，社会人としての文書作成経験を踏まえ，論文執筆に留意する点が認められれば，その点を指導するにとどめたい。</p>
レポート課題2	<p>学校教育中での人間関係を考える。 ①教師と生徒の関係 ②生徒と生徒の関係 のどちらかを選択し，それらの関係の中でロール・プレイングを行うためには，どのように進めればよいか，理論的側面（含教育心理学）と，具体的側面の両面から論じること。</p> <p>留意点：教育実践の場における人間関係について，ロール・プレイングを基に教育心理学の理論を用いて検討することを通じて，理論と実践についての関係を考えることが可能となるようになることが目標である。また，社会人としての文書作成経験を踏まえ，論文執筆に留意する点が認められれば，その点を指導するにとどめたい。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題（教育心理学）の理解
第2回	課題として取り上げる題材（教育心理学の基本的課題）の検討
第3回	基本教材1の学修：教育心理学の基本的考え方①
第4回	基本教材1の学修：教育心理学の基本的考え方②
第5回	基本教材1の学修：教育心理学の基本的考え方③
第6回	関連する文献1の検索とその内容の学修①
第7回	関連する文献1の検索とその内容の学修②
第8回	関連する文献の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を用いた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題（教育心理学の具体的方法）の理解
第2回	課題として取り上げる題材（ロール・プレイング）の検討
第3回	基本教材2の学修①
第4回	基本教材2の学修②
第5回	基本教材2の学修③
第6回	基本教材2の学修④
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	レポート課題1：初稿の作成
第9回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第10回	レポート課題1：最終稿の作成
第11回	関連する文献2の検索とその内容の学修
第12回	レポート課題1：初稿の作成
第13回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題1：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を用いた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	教育臨床学特講	担当者	イノウエ マサヒコ 井上 雅彦	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講義では子どもや若者を取りまく様々な心理的・行動的な問題について、認知療法、認知行動療法、行動分析学の理論と手法を体験的に学び修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。								
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>認知療法、認知行動療法、行動分析学の理論と手法を理解する 日常的な問題を分析し、教育に生かす力を身につける</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>i 学校教育場面における子どもの心と行動の問題を理解する (知識・解釈) ii 認知療法・認知行動療法・行動分析の技法を説明する (知識・解釈) iii 日常場面の行動を機能分析する (技能・コントロール) iv 日常場面で生じる問題について解決方法を立案する (技能・コントロール) v 日常場面で生じる問題について行動実験を実施する (技能・コントロール)</p>								
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>①前期・後期とも前半部分は学校教育場面における子どもの心と行動の問題についてネット上の統計データや資料を基に考察する。 ②後半部分は認知・行動理論に基づいた分析方法について学習しレポート課題に基づいて指導を受ける中で臨床心理学の研究方法を学習する。 ③レポート課題に沿った資料・事例及びデータを収集し分析する。(20時間) ④レポートの草案を作成する。(20時間) ⑤manaba folioでの掲示板機能を利用し教員と受講生とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。(5時間)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>(自主研究・レポート作成) manaba folioでの掲示板機能を利用し教員と受講生とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。</p>								
スケジュール	<p>①前期(基本教材1 レポート課題1、2)に関しては最低でも8月31日までには第1回目のレポートを提出すること、学事歴で定められた日までにコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること ②後期(基本教材2 レポート課題1、2)に関しては最低でも12月末日までには第1回目のレポートを提出すること、学事歴で定められた日までにはコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること。ただし、やり取りは複数回となる可能性もあるため、コメントに十分に対応するためには前後期とも第1回目の提出は締め切りより早いほうが望ましい。</p>								
成績評価	種別	評価基準							割合
	レポート	形式が適切か、問題点が論理的かつ認知・行動理論の用語に基づいて説明・整理されているか、参考図書・他の論文などを適切に引用して考察されているかという観点から評価する。							70%
	観察記録	活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。レポートの提出期限を厳守したか。受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。							30%
履修者への要望	実施したワークをレポートとともにPDFもしくはワードファイルにて添付してください								

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1)竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房 2012年 1,050円 教材名：(2)竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房 2012年 1,890円</p> <p>認知療法は対象者の認知や行動に焦点をあて、それらの変容を通して問題解決を図る心理療法であり、うつ、不安障害、ストレス関連障害などの効果が示されてきています。また、予防的アプローチとしても教育や労働領域にも応用が期待されています。(1)が認知療法のワークブック、(2)が理論的解説書となっていますので両方を購入してください。</p>
参考図書	<p>坂上貴之・井上雅彦『行動分析学—行動の科学的理解をめざして—』有斐閣2018年 2100円 厚生労働省うつ病の認知療法・認知行動療法(患者さんのための資料) https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf 厚生労働省うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf</p>
履修上のポイント	<p>講義の前半はシラバスに記したインターネット上の資料を用いて学校教育の中で生じている子どもの心と行動の問題とその対応・施策について学習し、その課題について考察します。後半は教材を中心に心理療法を理解し体験的に取り組みながら学習することを目標にしています。教材は二冊とも読んで頂き、トレーニングワークを実際にやって頂くことで認知療法・認知行動療法の理解を深めることができます。参考図書は「行動分析学」は、認知行動療法の原理を学ぶことができるものです。</p>
レポート課題1	<p>シラバスの「学校教育における児童生徒をとりまく課題1~3」に示された資料を基に、「不登校の実態と対応」について以下の3つの構成でレポートを作成してください。①実態についての整理・説明、②その中で課題として重要な点を取り上げ、説明する、③自分なりの解決方法について考察する。 留意点：資料を基に自分としての「解決法」を記述してください。その考えの根拠となる資料(海外の動向など)を示すようにしてください。</p>
レポート課題2	<p>教材を参考に「見つめ直し日記」と「行動実験ワークシート」をやってみて、うまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。 留意点：理由についての考察は、教材(2)の認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。見つめ直し日記とワークシートはレポートに添付することを原則とします。 留意点：「見つめ直し日記」に基づいた「行動実験」をお願いします。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：(1) ポール・スタラード著/下山晴彦訳 「子どもと若者の認知行動療法ハンドブック」金剛出版 2022年 3,520円 教材名：(2) ポール・スタラード著/下山晴彦訳 「子どものための認知行動療法ワークブック—上手に考え、気分はスッキリ」金剛出版 2020年 3,080円(3)ポール・スタラード著/下山晴彦訳 「若者のための認知行動療法ワークブック—考え上手で、いい気分」</p> <p>認知行動療法は、多くの精神障害について科学的にその治療効果が実証されたものであり、我が国でもその普及が望まれています。(1)、(2)はともに認知行動療法を子どもや若者に適用するためのテキストとなっています。このワークを体験していきます。</p>
参考図書	<p>ユーナス・ランメロ他著/松見淳子監訳『臨床行動分析のABC』日本評論社 3,465円 認知行動療法の基礎になる行動分析の理論を基礎から解説し、臨床にどう生かされているかを解説した本です。実践に興味を持ちこれからさらに臨床心理学を深く学んでいく方のためのテキストです。</p>
履修上のポイント	<p>教材で学んだことを発展させ、認知行動療法の理論を学び、ワークを体験しながら進めていきます。特に教材(2)または(3)のワークブック)により、こころと行動の問題とその解決について学習し、考察することを目的としています。</p>
レポート課題1	<p>シラバスの「学校教育における児童生徒をとりまく課題4~8」に示された資料を基に、いじめ、暴力行為、ネット依存のどれか一つについて選択し、以下の3つの構成でレポートを作成してください。①実態についての整理・説明、②その中で課題として重要な点を取り上げ、説明する、③自分なりの解決方法について考察する。 留意点：資料を基に自分としての「解決法」を記述してください。その考えの根拠となる資料(海外の動向など)を示すようにしてください。</p>
レポート課題2	<p>教材(2)または(3)のワークブックにあるワークのいくつかを自ら実施してみて、それに関してうまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。2つ以上の複数のワークを行うようにしてください。 留意点：理由についての考察は、認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。ワークに使用したシートはレポートに添付することを原則とします。 留意点：ワークの数は問いませんが、そのシートはレポートに添付してください。ワークに関する考察をしてください。うまくいくための解決案も明示してください。</p>

基本教材1

第1回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 1 概論 資料1：令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm をもとに学校教育の中で子どもを取り巻く実態について理解する。
第2回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 2 不登校の実態と教育的対応(1) 資料2：不登校傾向にある子どもの実態調査 https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/information/2018/20181212-6917.html を資料1の不登校の実態調査と比較し、不登校の実態と対応について考察する
第3回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 3 不登校の実態と教育的対応(2) 資料3：不登校児童生徒への支援に関する最終報告 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm 資料4 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1397802_00005.htm をもとに最近の不登校への教育的対応について理解し、その課題について考える
第4回	子どもの心の病とその治療 1 概論 資料4：厚生労働省 こころの病気について知る https://www.mhlw.go.jp/kokoro/parent/mental/know/index.html を参照し、うつ、不安障害、統合失調症、薬物乱用、摂食障害について理解する
第5回	子どもの心の病とその治療 2 うつ病 資料5：奥山 こどものうつ病 https://www.ncchd.go.jp/kokoro/medical/pdf/03_h20-22guide_11.pdf を参照し早期発見と治療のガイドラインについて理解する
第6回	うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 1 資料6：厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法（患者さんのための資料） https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf 資料7：厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf を参照しコラム法の概要について理解する
第7回	うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 2 教材(1)竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房を精読し、認知療法の実践手順について理解する
第8回	うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 3 教材(2)竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房を精読し技法について理解する
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	学校教育における児童生徒をとりまく課題4 いじめに対する教育的対応 資料8：いじめの重大事態の調査に関するガイドライン https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2019/06/26/1400030_009.pdf をもとにいじめに対する教育的対応について理解し、その課題について考える
第2回	学校教育における児童生徒をとりまく課題5 暴力行為に対する教育的対応 資料9：国立教育政策研究所 https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/1syu-kaitei/1syu-kaitei090330/1syu-kaitei.6bouryoku.pdf をもとに資料1の実態と比較し、暴力行為の実態と対応について考察する
第3回	学校教育における児童生徒をとりまく課題6 インターネット・ゲーム依存への対応(1) 資料10：情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm の指導書を精読し、ネット依存の実態と対応について理解する
第4回	学校教育における児童生徒をとりまく課題7 インターネット・ゲーム依存への対応(2) 資料11：情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm の動画教材を視聴し、ネット依存の実態と対応について理解する
第5回	学校教育における児童生徒をとりまく課題8 インターネット・ゲーム依存への対応(3) 資料12：令和5年度青少年のインターネット利用環境実態調査 https://www.cfa.go.jp/policies/youth-kankyou/internet_research/results-etc/r05 を精読し、資料6の動画教材と合わせて小4以下の低年齢の対応について考察する
第6回	不安とうつへの認知行動療法の統一プロトコル 資料13： https://www.ncnp.go.jp/cbt/research/archives/5 を参照し、認知行動療法の基本を理解する
第7回	不安障害の診断と治療 資料14：傳田健三 https://journal.jspn.or.jp/jspn/openpdf/1090040389.pdf を精読し不安障害とその治療について理解する
第8回	子どもの不安障害：認知行動療法の実践と成果 資料15：石川信一 http://www.jahbs.info/journal/pdf/vol27/vol27_3_2.pdf を精読し子どもの不安障害の認知行動療法による治療について理解する
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生徒指導論特講	担当者	タナカ ケン 田中 謙	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本科目は、現状の学校教育における生徒指導（生活指導）と今後のあり方について、社会的背景を踏まえながら、探究していく科目である。本科目では、学修を通じて以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>①現状の学校教育における生徒指導（生活指導）に関して説明することができる。 ②仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。 ③創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、今後の学校教育における生徒指導（生活指導）に関する課題を解決する能力を高めることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 今日の生徒指導における課題を把握し、課題を解決していくために、社会的背景を理解し、論理的・批判的思考力を身に付け、今後の生徒指導のあり方を考察することができる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導の社会的背景を理解することができる（知識・解釈）。 課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的に分析ができる（技能）。 自ら問いを立てながら考察し、自らの考えを論理的に説明することができる（知識・問題解決）。 実践者として、これからの生徒指導のあり方を示すことができる（態度）。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 最初に基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、参考図書および関連する文献（書籍・論文）を読みこみ、課題に関する理解を深めることが重要となる。特に、基本教材1の2点から、現状の学校における生徒指導の要点の整理を行う。基本教材2は生徒指導の内、特に不登校現象に焦点をあてながら、その背景要因の複雑性と連関性を分析する必要性を理解する。 なお、1つのレポートにあたり、基本教材および参考文献の学修に20時間以上、学術論文の分析・考察に10時間以上、レポートの推敲と最終稿の完成（教員の添削指導を含む）に15時間以上かけることを目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートの推敲過程において、メールあるいはManaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答する。</p>		
スケジュール	<p>提出締切に関しては、基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>初稿提出に関しては、基本教材1の課題1は6月末、課題2は8月中旬までに初稿を提出すること。基本教材2の課題1は10月末、課題2は12月中旬までに初稿を提出すること。なお、具体的な日程等については、別途指示する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	①テキストの理解度、着眼点、論旨の明確さ、テーマ設定、文章表現の妥当性、基本教材以外の文献の活用、適切な引用など。 ②形式面・内容面で不備がないこと。	80%
	観察記録	①レポートの添削への対応 ②アドバイスへの対応	20%
履修者への要望	<p>課題について理解を深めて、適切に論述すること。そのためにも、積極的に参考図書や関連する事項について文献調査を行い、基本教材の立場や特徴を踏まえつつ、考察を深めること。レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。枚数は最低でも4枚以上。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：望月由起・劉麗鳳編 教材名：『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』学事出版（2024） ISBN：978-4761929923</p> <p>2022年に改訂となった「生徒指導提要」が、改訂から1年が経ち、少しずつ現場でも新提要に基づいた生徒指導が模索されている。本書では、生徒指導提要の改訂内容を意識しながら、教育相談や生徒指導の基礎、体制、実際について分かりやすく示している。また、各章の最後では、章の内容に対する問い「考えてみよう」や関連書籍等の紹介「読んでみよう」を設けているため、新しい生徒指導について、より深く学ぶことができる。</p>
参考図書	<p>文部科学省編（2023）『生徒指導提要—令和4年12月—』東洋館出版 ISBN：978-4491051758</p>
履修上のポイント	<p>最初に基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、参考図書および関連する文献（書籍・論文）を読みこみ、課題に関する理解を深めることが重要となる。</p>
レポート課題1	<p>第1章～第5章および参考図書を読み、テキストで述べられている生徒指導（教育相談含む）の現状と要点について論述しなさい。</p> <p>留意点：生徒指導の背景を踏まえながら考察すること。</p>
レポート課題2	<p>第6章～第14章および参考図書を読み、テキストで述べられている生徒指導（教育相談含む）の課題と今後のあり方について論述しなさい。</p> <p>留意点：「いじめ」「暴力行為・少年非行」「児童虐待」「自殺」「不登校・中途退学」「インターネット」「性やジェンダー」「発達障害・精神疾患」「外国にルーツのあるこども」について全て言及すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：森直人・澤田稔・金子良事編 教材名：『「多様な教育機会」をつむぐ—ジレンマとともにある可能性—』明石書店 ISBN：978-4750358062</p> <p>「多様な教育機会確保法案」をきっかけに誕生した「多様な教育機会を考える会」（RED研）による教育学、社会学、社会政策・社会保障論などの学際的な研究者と、フリースクールや子どもの貧困対策に尽力する実践者・運動家が結集して執筆した、現場と理論の架け橋を模索した考察の軌跡である。</p>
参考図書	<p>森直人・澤田稔・金子良事編（2024）『「多様な教育機会」から問う—ジレンマを解きほぐすために—』明石書店 ISBN：978-4750358079</p>
履修上のポイント	<p>最初に基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、参考図書および関連する文献（書籍・論文）を読みこみ、課題に関する理解を深めることが重要となる。。</p>
レポート課題1	<p>第1章～第3章および参考図書を読み、テキストで述べられている「多様な教育機会」を創造する意義について論述しなさい。</p> <p>留意点：教育の必要性和、教育以外の営みの必要性の双方向から論述すること。</p>
レポート課題2	<p>第4章～第8章および参考図書を読み、テキストで述べられている「多様な教育機会」を創造する方法論のあり方について論述しなさい。</p> <p>留意点：教育の必要性和、教育以外の営みの必要性の双方向から論述すること。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	基本教材1の学修：第1章および第2章（参考図書含む）
第3回	基本教材1の学修：第3章および第4章および第5章（参考図書含む）
第4回	基本教材1の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第5回	基本教材1の学修：「多様な教育機会」を創造する意義の検討
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	基本教材1の学修：第5章～第10章（参考図書含む）
第10回	基本教材1の学修：第11章～第14章（参考図書含む）
第11回	基本教材1の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第12回	基本教材1の学修：生徒指導の課題と今後のあり方の検討
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	基本教材1の学修：第1章（参考図書含む）
第3回	基本教材1の学修：第2章および第3章（参考図書含む）
第4回	基本教材1の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第5回	基本教材1の学修：生徒指導の現状と要点に関する課題の検討
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	基本教材1の学修：第4章および～第5章（参考図書含む）
第10回	基本教材1の学修：第6章および第7章および第8章（参考図書含む）
第11回	基本教材1の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第12回	基本教材1の学修：「多様な教育機会」を創造する方法論のあり方の検討
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	教育評価論特講	担当者	フジタ シュイチ 藤田 主一	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	教育は、子どもたちがもっているさまざまな可能性を伸ばすために、教師がはたらきかける援助活動である。教育測定が個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきたのに対し、教育評価は教育を受ける子どもたちを全人的な立場でとらえるため、その対象はきわめて広範囲にわたる。この科目は、教育評価の意義と歴史、現状を学ぶとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 【一般目標 (GIO)】</p> <p>教育評価にはさまざまな観点が含まれている。教育評価の意義を学び、教育実践のあり方、児童生徒の理解と方法、具体的な技法などについての知識を増やし、今日の学校教育に携わる者として児童生徒を正しく理解し導いていく基本的能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 【行動目標 (SB0s)】</p> <p>①教育評価の意義、歴史、今日の課題、目標・評価について説明できる。 ②診断的評価、形成的評価、総括的評価について説明できる。 ③心理検査の目的、役割、妥当性、信頼性について説明できる。 ④具体的な心理検査の実施方法、処理、解釈について分析・評価できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>①基本教材および参考図書等を熟読する。 ②レポート課題の内容を分析する。 ③レポートを作成する。 なお、レポート課題1本につき、教材の学修 (20時間)、レポートの執筆 (10時間)、レポートの推敲と最終稿の完成および担当教員との添削指導 (15時間)、完成までに必要な時間は45時間を目安にしてください。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>①基本教材1および2を熟読するが、基本教材では理解できない項目や専門用語の知識、さらに知識を増やしたい心理検査の具体例については図書館等で参考図書を開覧する。 ②インターネットの文献検索システムを利用して、関係する著書・論文等を確認する。 ③manaba folio の機能を利用して、担当教員と受講生との間でディスカッションおよびレポート添削を行う。</p>		
スケジュール	基本教材1のレポート課題(1)(2)の提出は春学期(前期)の学事歴で定められた期限まで、基本教材2のレポート課題(1)(2)の提出は秋学期(後期)の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出してください。初稿は遅くともその1カ月前までには提出し、内容等が十分でない場合にはコメントの中で指摘しますので、期限までに加筆修正した最終稿を再提出するようにしてください。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポート課題(1)(2)のそれぞれを100点満点で点数化し、その平均をもって最終評価とする。もちろん、提出されなかったレポート課題は0点となる。	100%
	観察記録	なし	0%
履修者への要望	参考図書は、書店または図書館で購入・閲覧できるものを取り上げた。基本教材は読みやすい文章になっているが、さらに読書したい場合や、専門用語などが不明の場合には、参考図書を併読することを薦める。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：梶田 叡一 教材名：『教育評価』（第2版補訂2版）（有斐閣双書，2010年）ISBN:978-4-64-111277-3 2,200円+税
	本書は、教育評価について学ぼうとする人のためにまとめられた基本的専門書であり、以下の各章から構成されている。序章「教育評価の意義」、第1章「教育評価の歩みと今日的課題」、第2章「教育活動と目標・評価」、第3章「形成的な評価」、第4章「到達基準に準拠した測定・評価」、第5章「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」、第6章「学校による評価の実際」、第7章「評価の心理的影響」、第8章「授業・教師・学校の評価」、終章「わが国における教育評価の展開」。
参考図書	田中耕治（編）『よくわかる教育評価』（第2版）（ミネルヴァ書房，2010年） ISBN:978-4-62-305914-0 2,600円+税 梶田 叡一・加藤明（監修）『改訂 実践教育評価事典』（文溪堂，2010年） ISBN:978-4-89-423701-8 2,400円+税 梶田 叡一『教育評価入門—学びと育ちの確かめのために—』（協同出版，2007年） ISBN:978-4-31-900655-7 2,000円+税 森敏昭・秋田喜代美（編集）『教育評価—重要用語300の基礎知識』（明治図書，2000年） ISBN:978-4-18-212317-7 2,660円+税 東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田 叡一（編集）『現代教育評価事典』（金子書房，1988年） ISBN:978-4-76-082256-0 20,000円+税
履修上のポイント	教育評価という仕事は、期待される教育目標に対して子どもたちがいかにそれを達成したかを知るとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとするものである。教育測定は、個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきた。これに対して、教育評価は教育を受ける人間全体を問題にする。この科目を履修しようとする人は、教育評価の歴史を学び、そしてぜひ全人的な視点で子どもたちを見つめてください。
レポート課題1	基本教材1の序章～第4章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげるのではなく、各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。
レポート課題2	基本教材1の第5章～終章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげるのではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：花沢成一・佐藤誠・大村政男 教材名：心理検査の理論と実際（第IV版）（駿河台出版社，1999年）ISBN：978-4411003218 2,800円+税
	本書は、心理検査の概説書であり、二部（「理論編」「解説編」）から構成されている。第一部の「理論編」は、I「心理検査の定義と機能」、II「心理検査の発達史」、III「心理検査の使用と作成の問題」、IV「心理検査の採点の問題」、V「心理検査の信頼性と妥当性」。第二部の「解説編」は、I「集団式知能検査」、II「個別式知能検査」、III「精神発達検査」、IV「特殊性能検査」、V「興味・態度検査」、VI「質問紙法性格検査」、VII「作業検査法性格検査」、VIII「投影法性格検査」、IX「学力検査」。
参考図書	上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』（第2版）（西村書店，2001年） ISBN:978-4-89-013294-2 14,000円+税 沼初枝『臨床心理アセスメントの基礎（第2版）』（ナカニシヤ出版，2020年） ISBN:978-4-77-9514920 2,100円+税 松原達哉（編）『臨床心理アセスメント（改訂版）』（丸善出版，2013年）ISBN: 978-4-621-08648-3 2,730円（税込） 村上宣寛・村上千恵子（著）『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』（北大路書房，2008年） ISBN: 978-4762826252 2,700円（税込）
履修上のポイント	最適評価の技法・用具を選択することは、教育評価のための資料収集にとって大切な仕事である。一般的には、①教師作成テスト、②標準テスト、③観察法、④面接法、⑤作品や表現の利用、⑥事例研究などがあげられる。それらのうちどれを採用するかは、評価の目的や対象との関係が決まる。常に適切な技法・用具を選択することに心がけなければならない。この科目を履修しようとする人は、幅広い視点から子どもたちを見つめる方法を学んでください。
レポート課題1	基本教材2の第一部「理論編」のI～Vまでの全章を熟読し、その内容を2,000～3,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげるのではなく、各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。
レポート課題2	基本教材2のうち、第二部「解説編」で紹介している、①知能検査、②発達検査、③性格検査、④興味・態度検査、⑤学力検査の中から、具体的な4つの検査を任意（自由）に取り上げ、その内容（目的、実施方法、結果の見方、解釈など）を説明・要約しなさい。最後に全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。なお、4つの検査とは、①～⑤の中から4つのジャンルを選択するというのではなく、①～⑤に含まれているすべての心理検査の中から、具体的な検査を4つ選択するという意味なので、間違えないようにしてください。たとえば、①知能検査の中から4つ選択しても問題ありません。 留意点：基本教材は必要最低限の内容を説明しているので、各種検査を紹介する部分は基本教材だけでは不十分である。参考図書を利用して調べ、豊かな文章にしてください。

基本教材1

第1回	基本教材1の学修の進め方と、本科目（教育評価論）の課題を理解する。
第2回	基本教材1の「教育評価の意義」、「教育評価の歩みと今日的課題」を学修する。
第3回	基本教材1の「教育活動と目標・評価」、「形成的な評価」を学修する。
第4回	基本教材1の「到達基準に準拠した測定・評価」、「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」を学修する。
第5回	基本教材1の「学校による評価の実際」、「評価の心理的影響」を学修する。
第6回	基本教材1の「授業・教師・学校の評価」、「わが国における教育評価の展開」を学修する。
第7回	参考図書の中から適切な書籍を選択して学修する。
第8回	参考図書の中から適切な書籍を選択して、課題に沿った学修を深める。
第9回	レポート課題1：初稿を作成する。
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿を作成する。
第11回	レポート課題1：最終稿を作成する。
第12回	レポート課題2：初稿を作成する。
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿を作成する。
第14回	レポート課題2：最終稿を作成する。
第15回	レポート課題1・2をとおり、本科目（教育評価論）の課題に関して全体的な理解と検証を行う。

基本教材2

第1回	基本教材2の学修の進め方と、本科目（教育評価論）の課題を理解する。
第2回	基本教材2の理論編の中で、「心理検査の定義と機能」、「心理検査の発達史」を学修する。
第3回	基本教材2の理論編の中で、「心理検査の使用と作成の問題」、「心理検査の採点の問題」、「心理検査の信頼性と妥当性」を学修する。
第4回	基本教材2の解説編の中で、「集団式知能検査」、「個別式知能検査」、「精神発達検査」を学修する。
第5回	基本教材2の解説編の中で、「集団式知能検査」、「個別式知能検査」、「精神発達検査」を学修する。
第6回	基本教材2の解説編の中で、「特殊性能検査」、「興味・態度検査」、「質問紙法性格検査」を学修する。
第7回	基本教材2の解説編の中で、「作業検査法性格検査」、「投影法性格検査」、「学力検査」を学修する。
第8回	参考図書の中から適切な書籍を選択して、課題に沿った学修を深める。
第9回	レポート課題1：初稿を作成する。
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿を作成する。
第11回	レポート課題1：最終稿を作成する。
第12回	レポート課題2：初稿を作成する。
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿を作成する。
第14回	レポート課題2：最終稿を作成する。
第15回	レポート課題1・2をとおり、本科目（教育評価論）の課題に関して全体的な理解と検証を行う。

科目名	健康科学特講	担当者	シャク フミオ 釋 文雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	--------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	健康科学について、科学的に検証されたデータを基に、現状で最も新しく、かつ信頼性の知見を得るためには、どのような文献を基に、どのように考えればよいか、という方法論を身に付けることを目的とする。教材、参考図書を提示してあるが、必要な文献は自分自身で検索することも学ぶ。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 3) 得られた情報を基に、他者にわかりやすく説明ができる。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 自分自身の身近で具体的な課題を取り上げ、健康の維持・向上に関しては、ヒトの個体としての側面と、集団・社会・公衆衛生的なアプローチの両面からの考察を行い、また生命科学の基礎的な知識を学修し、それを基にした近年の医療・生命科学技術とその応用、担当者からの臨床的見地、及び実際に応用する際の社会倫理的な問題を理解する。 【行動目標(SBOs)】 健康科学に関連する課題を取り上げ、その問題点を整理し、最新の知見を基に、その課題に取り組む方向性を見出す方法論を説明することができる(知識・技能)。		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10時間)。manaba folioをとおしてレポートの推敲を行い、他者が読んでもわかりやすい最終稿を仕上げる(15時間)。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioの掲示板を利用し、受講者同志の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポート、パワーポイントのスライドを作成する		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末までに提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬までに提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和8年1月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿(パワーポイントを含む)を提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適正性、考え方の科学性・妥当性・再診の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性を評価する。	90%
	観察記録	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。	10%
履修者への要望	1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正(目次案など)について、メールなどで連絡相談してください(shaku.fumio@nihon-u.ac.jp)。また、時間調整により、対面でのディスカッションも歓迎いたします。 2) 題材の選択は自由ですが、発想がユニーク、オリジナルな題材を歓迎いたします。 3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、最新の知見を反映したうえで、自分自身の考察を加えてください。 4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛け、他者に発表する場合を想定し作成してください。 5) 教材・参考図書をすべて読み込むよりも、題材に関連した文献は自分で検索し、引用してください。 6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載してください。 7) 独自の考えを充実させているレポートを期待します。 担当者から臨床面をふまえてのコメントを行う可能性もあり、それを考慮に入れレポートを作成してください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：山崎喜比古、朝倉隆司 教材名：(編)『新・生き方としての健康科学』（有信堂高文社、2017年） ISBN978-4-8420-6589-2 本体2900円＋税 健康科学に関し、全般的にまとめられたテキスト・基礎的な側面は基本教材2課題1のテキスト（『現代生命科学』）が参考となる。
参考図書	竹内康弘・田中豊穂 監修 『テキスト健康科学 改訂第2版』（南江堂、2017年） ISBN : 978-4-524-25885-7 本体2,600円 + 税
履修上のポイント	本課題においては、健康の維持・向上のための取り組みについて、ヒト個体に対するアプローチと、人間集団に対するアプローチの面から考察する。 取り上げた教材・参考図書は、あくまで一つの参考資料に過ぎず、必要な文献は自分で調べる。特定の疾患を対象とする場合は、各々の診療ガイドラインを参考とすること（ガイドラインに批判的な見解があっても構わない）。
レポート課題1	まず、「健康とは何か」について、自分なりに定義すること。その際、ヒトとして避けられない加齢・疾患・死への対処も含めて考察すること。そのうえで生活習慣が関連する疾患（高血圧、糖尿病等；がん、肥満を含む）から一つ取り上げ、ヒト個体の観点からその原因に関して考察し、その対策について述べなさい（例：高血圧に関し、食習慣や運動不足との関連について）。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること（家族や周囲の方の事例でも可）。
レポート課題2	生活習慣が関連する疾患（高血圧、糖尿病等；がん、肥満を含む）から一つ取り上げ、人間集団の観点からその原因に関して考察し、その対策について、住んでいる地域で講演を行うことを想定し、パワーポイントでスライドを作り、その原稿を作成する。（例：高血圧に関し、地域社会での取り組みや食文化との関連について） 留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること（家族や周囲の方の事例でも可）。聴衆へのわかりやすさも考慮すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：1)石井厚, 2)十束支郎, 生地新, 森岡由紀子 教材名：1)新版 精神保健 第3版（医学出版社, 2016年）ISBN978-4-87055-134-3 本体2500円＋税 2)あたらしい精神保健（医学出版社, 2016年）ISBN978-4-87055-104-6 本体2000円＋税 1) または2) のどちらでも可。両者とも精神保健に関して、直接関りがない場合でも理解できるように、メンタルヘルス全般について記載されたテキスト
参考図書	松崎朝樹 『1分で精神症状が学べる304』KADOKAWA ISBN 9784046068606 本体1800円＋税 メンタルヘルスに関する言葉などわかりにくい場合、参考となる一冊
履修上のポイント	検討を維持するうえでの大きな要素であるメンタルヘルスを全般的に理解し、他者に対する教育もできることを目的とする。
レポート課題1	教材の内容にある疾患についてひとつ取り上げ、その疾患のしくみ・症状・周りからのサポート方法について大学生を対象とした講演会で発表を行うことを想定し、パワーポイントでスライドを作成するとともに読み原稿も作成する。 留意点：聴衆へのわかりやすさも考慮すること。
レポート課題2	自らの経験（留意点参照）に基づき、メンタルヘルスについて理解することの大切さを述べてください。 留意点：自らの経験とは、自ら感じたことや周りの家族・知人から聞いたこと、本などで知れたことでも構いません。

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材（疾患）の検討
第3回	基本教材1の学修：「健康」の定義について
第4回	基本教材1の学修：課題として取り上げた題材について（個体レベル）
第5回	基本教材1の学修：課題として取り上げた題材について（公衆衛生学的側面）
第6回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	ヒトの意識変容・行動変容に関する学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿（パワーポイントおよび原稿）の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1,2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材2の学修；テキストからメンタルヘルスの概要について理解
第4回	基本教材2の学修；テキストからメンタルヘルスの概要について理解
第5回	基本教材2の学修；テキストからメンタルヘルスの概要について理解
第6回	基本教材2の学修；レポート課題のテーマを選定
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	レポート課題1：レポートの構成を検討
第9回	レポート課題1：初稿（パワーポイントおよび原稿）の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題：最終稿の作成
第15回	レポート課題1,2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	健康科学特講	担当者	ニワ ヒデオ 丹羽 秀夫	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	--------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	人間が生きていく上で、いわゆる五感と言われる視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚（平衡感覚）は非常に重要な働きをしている。これらの一つでも欠落すれば、生活のquality of life は損なわれるのは、自明であり、生命の危機も随る危険性もある。感覚器は人間の臓器の中で、直接生命に関わる部位ではないが、人間の生命及び社会的生活に重要な役割を担っている。この科目では感覚器が人間の体で、どのように働きました生活にどのように影響を及ぼすかを科学的および社会的な視点から検討する		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>人間の感覚器を医学、生理学、心理学、社会学の視点から理解して、疾病、予防医学、社会医学はもちろん、社会生活の広い分野で、感覚器の有用性を確認し、活用できるようにする。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚器について基礎的知識を身につける。 2. 感覚器に由来する疾病を理解することができる。 3. 感覚器に起因する状態を理解することができる。 4. 感覚器から見た社会生活上の利益、不利益の状況を把握できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>医学、生理学、心理学、社会学等の幅広い分野から論文、参考図書をできるかぎり渉猟し、理解を深める（20時間）。学習を通して獲得した合理的意見、批判的意見をレポートとして作成する（25時間）。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書、参考図書を通して、基本的な項目や専門用語の知識を増やす。 2. 図書館、インターネットを通しての文献検索システムを利用して、論文を渉猟する。 3. 受講者が複数の場合、受講者同士での協働学習を行う（受講者同士の質疑応答、意見交換、レポートのピア・レスポンス等）。 		
スケジュール	<p>前期：教材1レポート課題1の草案を7月末までに作成、課題2の草案は8月末までに作成する。取り上げる題材については草案としてまとめる前にメール等で相談することが求められる。いずれの課題も学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2レポート課題1の草案を11月中旬、課題2は12月中旬を目標に提出する。取り上げる題材については草案としてまとめる前にメール等で相談することが求められる。いずれの課題も学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	テキストの理解度、問題提起の着眼点と妥当性、参考文献の適切な応用やレポートの適切な図、表の活用法などを評価する。	80%
	観察記録	メール等のやり取りやレポートの提出状況を通じて、学習に対する態度などを評価する。	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートを作成する前に、レポートのテーマや構成について、メール等で相談することが望ましいです。 ・ 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 ・ レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔な総説と何か一つ最新の知見を反映した上で、自分自身の考えを加えることが望ましいです。 ・ レポートは簡潔明瞭にまとめることが望ましいです。 ・ 教材、参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索をすることをこころがけて下さい。 ・ 引用した文献は必ず文末に文献リストを設けて記載して下さい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：太田信雄 監修 行場次朗 編集 教材名：『感覚・知覚心理学』（北大路書房、2018年）ISBN:978-4-7-7628-3042-6
	感覚器全体を、基本的な医学生理学から心理学まで幅広くカバーしており、実生活での応用も興味深く記載され、幅広い内容で解説されている。
参考図書	著者名：加我君孝、八木聡明、山下英俊、原晃ら 教材名：『感覚器〔視覚と聴覚〕と社会とのつながり ―見るよるこび・聞くよるこび―』（日本学術協力財団、2011年）ISBN:978-4-9-9049-8924
履修上のポイント	教材全体を一通り読んで、不明な点はメモをとりながら、他の参考図書、文献を参考にしながら理解に努めることが望ましい。
レポート課題1	感覚器の基礎と臨床を理解することに努める。興味がある章を一つ選択し、A4サイズに1枚に要約してまとめなさい。 留意点：わかりやすく要約すること
レポート課題2	レポート課題1で選択下以外の章で、聴覚、味覚、嗅覚に関する章をそれぞれ要約してまとめなさい。参考図書、参考文献も加えて検討することを求めます。 留意点：わかりやすく要約すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名：内川恵二 編集、近江政男 編集 教材名：『味覚・嗅覚（講座“感覚・知覚の科学”）』（朝倉書店、2008年）ISBN:978-4254106343
	味覚、嗅覚、聴覚、前庭感覚に関する基礎的内容から臨床応用までカバーされている。
参考図書	以下の書籍は手に入る場合に限る。 山本 隆著『脳と味覚―おいしく味わう脳のしくみ』（共立出版、1996年） 小野田法彦著『脳とニオイ―嗅覚の神経科学』（共立出版、2000年） 渡辺繁『本当は怖い めまい・耳鳴り』（幻冬舎メディアコンサルティング、2017年）
履修上のポイント	教材全体を一通り読んで、不明な点はメモをとりながら、他の参考図書、文献を参考にしながら理解に努めることと基本教材1で学修した内容を更に深く探究する事が望ましい。
レポート課題1	味覚、嗅覚に関する基礎的内容から臨床応用を理解した上で、何が問題点であるかを列挙して、現在まで解明されている事と対比した内容のレポートをまとめなさい。 留意点：簡潔にまとめること
レポート課題2	聴覚、前庭感覚に関する基礎的内容から臨床応用を理解した上で、何が問題点であるかを列挙して、現在まで解明されている事と対比した内容のレポートをまとめなさい。 留意点：簡潔にまとめること

基本教材1

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	基本教材1の学修：基本教材や参考図書を読み、内容の概要をつかむ
第3回	基本教材1の学修：基本教材や参考図書の様々な興味ある点を列挙
第4回	基本教材1の学修：課題1を念頭におきつつ教材の読解
第5回	基本教材1の学修：課題2を念頭におきつつ教材の読解
第6回	課題1のテーマを決定する
第7回	レポート課題1；初稿の作成
第8回	レポート課題1；添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1；最終稿の作成
第10回	課題2のテーマを決定
第11回	レポート課題2；初稿の作成
第12回	レポート課題2；添削指導に対する修正稿の作成
第13回	レポート課題2；最終稿の作成
第14回	レポート課題1, 2を通して本課題に対する全体的な理解の検証
第15回	最終まとめと今後の発展性について意見交換する

基本教材2

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	基本教材2の学修：基本教材や参考図書を読み、内容の概要をつかむ
第3回	基本教材2の学修：基本教材や参考図書の様々な興味ある点を列挙
第4回	基本教材2の学修：課題1を念頭におきつつ教材の読解
第5回	基本教材2の学修：課題2を念頭におきつつ教材の読解
第6回	課題1のテーマを決定
第7回	レポート課題1；初稿の作成
第8回	レポート課題1；添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1；最終稿の作成
第10回	課題2のテーマを決定
第11回	レポート課題2；初稿の作成
第12回	レポート課題2；添削指導に対する修正稿の作成
第13回	レポート課題1；最終稿の作成
第14回	レポート課題1, 2を通して本課題に対する全体的な理解の検証
第15回	最終まとめと今後の発展性について意見交換する

科目名	安全学特講	担当者	カワノ リュウタロウ 河野 龍太郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	-------	-----	----------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	安全学とは「安全に関する技術的側面（自然科学）、人間的側面（人文科学）、組織的側面（社会科学）、安全哲学などの理念的側面のもとで、合法的、合情的（＝人の理解と納得を得ること）に統一・統合化した学問体系のこと」と定義されている（向殿政男氏の定義）。さらに、「安全曼荼羅」という安全問題の構造を映す、共通のフレームワークを定義に加えている。本講座では、主に安全工学を元に、直接的、間接的に安全を脅かすと考えられる原因や、それらのもたらす結果について学習し、安全に関する考え方や安全確保の具体的方法を修得することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>社会に存在する、安全を脅かす様々な要因（組織的要因、技術的要因、人的要因など）を理解し、その上で、安全を確保するための知識や手法を理解・取得することを目的とする。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①すでに公開されている事故事例について、その事故の構造を理解することができる。</p> <p>②事故に含まれる問題となる背後要因を特定し、その背後要因を指摘することができる。</p> <p>③事故を生じさせないため、あるいは巻き込まれないための考え方や手法を提案できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>①指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30時間/1冊】</p> <p>②事故の構造を理解する。【SBO①&②】【30時間/1冊】</p> <p>③前期・後期に与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&③】【45時間/レポート 1件】</p> <p>※参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不明な点や疑問点は、悩まずmanaba folioやメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等などを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	安全に関する基本的な考え方を理解できたか。事故の構造について理解できたか。安全対策、特に、教育訓練の提案ができるか。	75%
	観察記録	安全に関する質問や疑問を解決できたか。安全に関する議論が行うことができるか。	25%
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい（manaba folioやhuman.f.kawano@gmail.com）。</p> <p>2) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>3) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>4) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：向殿政男・北條理恵子・清水尚憲 教材名：『安全四学』（日本規格協会、2021年） ISBN:978-4-542-30708-7 2,200円＋税</p> <p>本書は、安全を四つの分野に区分し、1基礎安全学、2社会安全学、3経営安全学、4構築安全学からなる「安全四学」として解説している。 基礎安全学では、安全のどんな分野でも、どんな立場の人でも知りたい安全の基本を紹介している。社会安全学では、一般の人々が知りたい社会を安全にしている様々な仕組みや制度などを紹介している。経営安全学では、企業や組織を経営する立場にある人が、役割上知っていてほしい経営における安全の位置付けや社会貢献の重要性などを組織的な観点から紹介している。そして、構築安全学では実際に安全を設計し、管理・運営する人のために安全技術を中心として紹介している。</p>
参考図書	<p>村上陽一郎著 『安全学』（青土社、1998年） ISBN:978-4-79-175679-7 1,800円＋税 勝俣良介著『世界一わかりやすい リスクマネジメント集中講座』（オーム社、2017年） ISBN:978-4-274-22138-5 2,200円＋税</p>
履修上のポイント	<p>あらゆる人間生活にとって重要な安全について、どのような考え方があるのかを理解し、安全の着眼点の持ち方、思考の過程を学ぶ。レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、自分自身の考察を加えることを基本とする。 また、安全の考え方は全ての国民にとって重要な課題であると理解し、教育の中に取り入れていくことが重要なので、必要な考え方を身に付けるための教育内容について検討する。</p>
レポート課題1	<p>一般成人が身に付けておくべき、あるいは、知っておく必要のある安全に関する知識カタログを作成してください。 留意点：可能な限り広い範囲で、要素に分解して考えてください。</p>
レポート課題2	<p>小学校低学年用の安全に関する教科書を作成するというイメージで、生徒の理解しておくべき安全の項目を列挙し、その中の1つの項目について例を作成してください。 留意点：新聞やテレビ、書籍等で報道された事故をできるだけ詳しく調べ、レポートを作成してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：ローナ・フィリン、ポール・オコンナー、マーガレット・クリチタウン著 小松原明哲、十亀洋、中西美和訳 教材名：『現場安全の技術—ノンテクニカルスキル・ガイドブック—』（海文堂、2013年） ISBN:978-4-30-372996-7 3,900円＋税</p> <p>ノンテクニカルスキルは、テクニカルスキル(業務に直結した専門知識や技量)に対する言葉であり、「状況認識」「コミュニケーション」「リーダーシップ」「疲労管理」など、ヒューマンエラーを避け、安全を確保していくための現場スタッフが持つべきスキルである。 本書は、「人に頼る」現場で、現場スタッフが持つべきノンテクニカルスキルについて安全管理の実務の立場から詳しく述べたものである。</p>
参考図書	<p>ジェームズ・リーズン著、佐相邦英監修『組織事故とレジリエンス』（日科技連、2012年） ISBN:978-4-81-719353-7 4,000円＋税 マシュー・サイド著、有枝 春訳『失敗の科学』（ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年） ISBN:978-4-7993-2023-5 1,900円＋税</p>
履修上のポイント	<p>事故は単なる技術的な問題だけで発生しているのではない、ということ、事例を通して理解すること。さらに、専門知識以外のこと、すなわちノンテクニカルスキルをどのように教育訓練すればよいかを理解してもらいたい。</p>
レポート課題1	<p>事故調査報告書、あるいは、ある事故について書かれた書籍を元に、何が、どのように、なぜ起こったのかの概要を説明し、当該事故に含まれるノンテクニカルスキルについて説明して下さい。 留意点：事故の背後要因を十分に探索して下さい。</p>
レポート課題2	<p>レポート課題1で分析したノンテクニカルスキルの教育・訓練手法についてカリキュラムと方法について考えてください。 留意点：教科書の内容を十分に理解してレポートを作成してください。</p>

基本教材1

第1回	安全とリスクについて理解する
第2回	安全の基本構造と価値観の理解
第3回	安全、安心、リスクコミュニケーションの理解
第4回	安全の制度の理解
第5回	事故調査の理解
第6回	一般市民の安全の理解
第7回	新しい時代の安全の理解
第8回	企業経営の安全の理解
第9回	安全性と経済性の理解
第10回	労働安全の理解
第11回	リスクマネジメントの理解
第12回	安全に関する設計の理解
第13回	レポート課題1：初稿の作成と添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：初稿の作成と添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	ノンテクニカルスキルと事故との関係の理解
第2回	事故における状況認識の理解
第3回	事故における意思決定の理解
第4回	事故におけるコミュニケーションの理解
第5回	事故におけるチーム作業の理解
第6回	事故におけるリーダーシップの理解
第7回	事故におけるストレスとストレスマネジメントの理解
第8回	事故における疲労と対処方法の理解
第9回	ノンテクニカルスキルの内容の理解
第10回	ノンテクニカルスキルの訓練方法の理解
第11回	レポート課題1：初稿の作成
第12回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	人間工学特講	担当者	カワノ リュウタロウ 河野 龍太郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	--------	-----	----------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>国際人間工学連合(IEA)による人間工学の定義によると、「人間工学とは、システムにおける人間と他の要素とのインタラクションを理解するための科学的学問であり、ウェルビーイングとシステム全体のパフォーマンスとの最適化を図るため、理論・原則・データおよび手法を設計に適用する専門分野である」と説明されている。この考え方は航空や原子力で応用されているヒューマンファクターズの考え方とほぼ同じである。</p> <p>本講座では、日常や産業現場における人間と人間を取り巻くシステムの安全と効率に関する考え方の具体的方法を修得することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 具体的には人間の行動、能力と限界を客観的に捉え、人間と道具や器械との関係をヒューマン・マシン・システムとして考えることにより、仕事場の環境改善、安全性の向上、疲労とストレスの減少、快適性の向上、さらに仕事の満足感と生活の質の向上により、人間工学が人間の活動や作業の有効性と能率を高めることに貢献している事を理解する。さらにヒューマンエラーが生じるメカニズムを人間の特性の観点から学修し、エラーを防ぐための方策を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①実際に身の回りの題材を取り上げることで、人間工学の考え方がどのようなものであるか、自分の経験を基に理解し記述する(知識)。 ②ヒューマンエラーに関し、人間の特性(個人と集団の両面)からその原因を考察し、対応策を考案する(知識・技能)。 ③ヒューマンエラーの関係した事故について事故の構造を理解する。</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>①指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】 【30時間/1冊】 ②システムと人間の関係を理解する。【SBO①&②】 【30時間/1冊】 ③前期・後期の課題についてレポートを提出する。【SBO②&③】 【45時間/レポート 1件】</p> <p>※)参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので遠慮なく質問してください。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、基本的に最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まずmanaba folioやメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	安全に関する基本的な考え方を理解できたか。事故の構造について理解できたか。安全対策、特に、教育訓練の提案ができるか。	75%
	観察記録	安全に関する質問や疑問を解決できたか。安全に関する議論が行うことができるか。	25%
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい(manaba folioやhuman.f.kawano@gmail.com)。</p> <p>2) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>3) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>4) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：横溝 克己，小松原 明哲 教材名：『エンジニアのための人間工学(改訂第5版)』（日本出版サービス，2013年） ISBN:978-4-88922-124-4 2,940円+税</p> <p>人間工学の基礎となる人体計測や作業姿勢の計測，手足と道具の関係，視覚・聴覚表示や音声伝達方法，安全性や環境などと人間工学の関わりを具体的な例から学ぶ。</p>
参考図書	<p>(1) 岡田有策『ヒューマンファクターズ概論』（慶應義塾大学出版会，2005年） ISBN:978-4-7664-1173-7 2,500円+税 (2) 小川 鑛一『イラストで学ぶ看護人間工学』（東京電機大学出版局，2008年） ISBN:978-4-501-41640-9 3,000円+税</p>
履修上のポイント	人間工学がカバーする領域を理解し，人間工学的思考の着眼点の持ち方，思考の過程を学ぶ。レポートの構成については，取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に，何か一点，最新の知見を反映した上で，自分自身の考察を加えることを基本とする。
レポート課題1	<p>日常生活において，人間工学的思考が配慮されていると考えられるものを例にあげ，ヒトの特性を考慮した上で理由を述べなさい。</p> <p>留意点：人体計測値，作業姿勢，手や足の機能，視覚表示など。選択した理由，客観的な観察，主観的な自分の主張を含めること。</p>
レポート課題2	<p>日常生活において，人間工学的思考が配慮されていないと考えられるものを例にあげ，ヒトの特性を考慮した上で理由を述べなさい。</p> <p>留意点：人体計測値，作業姿勢，手や足の機能，視覚表示など。選択した理由，客観的な観察，主観的な自分の主張を含めること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：河野 龍太郎 教材名：『医療におけるヒューマンエラー 第2版』（医学書院，2014年） ISBN:978-4260019378 2,800円+税</p> <p>著者は元々航空管制官であったが，その時に自分自身で体験したエラー事象を基に，その後，心理学を勉強し，原子炉の運転に関するヒューマンエラー対策の仕事や自治医科大学での医療安全等を経て，現在は安全推進研究所に所属している。人間の行動特性を基に，エラーが生ずるメカニズムやその対応策をどのように考えるべきかが，具体的に解説されている。</p>
参考図書	<p>(1) 篠原一光，中村隆宏（編）『心理学から考えるヒューマンファクターズ』（有斐閣，2013年） ISBN 978-4-641-18411-4 2,600円+税 (2) 佐藤幸光，佐藤久美子『医療安全に活かす医療人間工学』（医療科学社，2007年） ISBN 978-4-86003-376-7 2,500円+税</p>
履修上のポイント	具体的な事例を取り上げ，ヒューマンエラーの生じる原因を探求し，その予防・防止策を考案する。
レポート課題1	<p>医療に限らず，身近に経験したヒューマンエラーが原因と考えられる事故・トラブル，あるいはヒヤリ・ハット事象の一つを取り上げ，その事象に関連した人間工学（＝ヒューマンファクターズ）の観点から原因を考察し，対応策を考案しなさい。</p> <p>留意点：自分自身で経験した，または身近に生じた事象を取り上げること。交通事故でも可。</p>
レポート課題2	<p>医療に限らず，ヒューマンエラーが原因と考えられる事故・トラブル（実際の事例）の一つを取り上げ，その事象に関連する人間工学（＝ヒューマンファクターズ）の観点から，原因を考察し，対応策を考案しなさい。</p> <p>留意点：事故調査報告書や事故事例集などの実際に発生した事象を取り上げること。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材（事例）の検討
第3回	基本教材1の学修；「人間の特性」について
第4回	課題として取り上げた題材についての考察（ヒトの側からの考察）
第5回	課題として取り上げた題材についての考察（対象とする物の側からの考察）
第6回	人間工学的に配慮されている点に関する学修
第7回	人間工学的に配慮されていない点に関する学修
第8回	関連する文献の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	ヒューマンエラーに関する全般的な学修
第3回	課題として取り上げる事例の検討
第4回	取り上げた事例に対して、ヒト個人の観点から、要因としてのヒューマンエラーに関する考察
第5回	取り上げた事例に対して、ヒト個人の観点から、対応策の考察
第6回	取り上げた事例に対して、ヒト集団の観点から、要因としてのヒューマンエラーに関する考察
第7回	取り上げた事例に対して、ヒト集団の観点から、対応策の考察
第8回	関連する文献、法令・指針等の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	環境生理学特講	担当者	イズミ リュウタロウ 泉 龍太郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	---------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	環境や運動が生体に及ぼす影響について、身近で具体的な課題を通して、基礎的な人体生理・生化学的な側面から学修することを目的とする。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 3) あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 環境や運動が生体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、精神心理や社会生活の観点も含めて学修することを目的とする。応用問題として「宇宙環境」を取り上げ、このような特殊な環境が人体にどのような影響を及ぼすか、さらには宇宙を含めた特殊な条件下での作業に従事するためには、どのような身体的要件が求められるのかを理解する。 【行動目標(SBOs)】 1) 身体活動の様々な側面に対し、定量的に評価する手法を身に付ける。またある特定の身体活動について、多角的な側面から説明することができる(知識)。 2) 特殊な環境における人体生理の変化と適応、また特殊環境で生じる医学生理学的な問題に対処する方法論を形成する(知識・技能)。		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10時間)。manaba folioを通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15時間)。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学修を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和5年1月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。	75%
	観察記録	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。	25%
履修者への要望	1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい(izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp)。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします(基本教材1課題1を除く)。 4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 注：本レポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1)勝田茂・征矢英昭，他編、(2)厚生労働省 健康づくりのための身体活動基準・指針の改定に関する検討会 教材名：(1)『運動生理学20講(第3版)』(朝倉書店，2015年) ISBN 978-4254690460 3,200円+税 (2)『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』2023年(厚生労働省ホームページより入手可能) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/undou/index.html</p> <p>(1) スポーツ・運動生理学に関し，比較的最新の知見を基にまとめられたテキスト。 (2) 健康日本21(第三次)の推進に資するため，厚生労働省でまとめられた運動の指針。各年代における運動への取り組みの方針が，科学的な知見を基にバランス良くまとめられている。</p>
参考図書	<p>(1) 田中 喜代次，木塚 朝博，大藏 倫博 編著 『健康づくり・介護予防のための体力測定評価法(第2版)』(金芳堂，2013年) ISBN 978-4-7653-1554-8 2,600円+税 (2) 本間 研一 監 『標準生理学(第9版)』(医学書院，2019年) ISBN 978-4-260-03429-6 12,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>自分自身の生活パターンを通じて，生理学的な活動を定量的に評価する方法を学修する。その上で環境や運動が生体に及ぼす影響について，プラス面とマイナス面を含め，生理学的な側面はもとより，生化学・栄養学の基礎的な側面から，精神心理面や社会生活における位置付けを含め，自分自身の経験を基に，具体的な課題を取り上げて考察を行う。</p>
レポート課題1	<p>自分自身の1週間の行動記録(食事・睡眠パターンを含む)を付け，それを基に運動レベル(運動強度，消費エネルギー，運動の質等)，摂取した栄養素，及び生活パターンについて解析する。次に自分が理想とする運動習慣がどのようなものかを考察する。この運動には家事を含めた日常生活上の活動，及びデスク・ワーク以外の職場での身体活動を含む。 留意点：活動度計(アップルウォッチ等)を所有する場合は，そのデータも参照すること(その際，精度も考察に含めること)</p>
レポート課題2	<p>特定の運動の一つを取り上げ，その運動が身体に及ぼす影響について，プラス面とマイナス面を含め，生化学，身体生理学，バイオメカニクス，生体リズム，精神心理，及び社会の中における活動の観点から，考察を行う(運動の例：マラソン，登山，球技，あるいは日常生活上の行動を対象としても可)。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：立花正一監修 教材名：『宇宙飛行士はどんな夢をみるか?』(恒星社厚生閣，2016年) ISBN 978-4-7699-1587-4 3,000円+税</p> <p>国際宇宙ステーションでの経験を踏まえ，宇宙滞在が人体に及ぼす影響について，一般の方にも分かりやすく解説された書。</p>
参考図書	<p>(1) 藤田真敬監修 『宇宙航空医学入門』(鳳文書林，2015年) ISBN 978-4-89279-449-0 C3047 3,400円+税 (2) 石岡憲昭著 『宇宙生命科学入門』(共立出版，2017年) ISBN 978-4-320-04732-7 2,700円+税 (3) JAXAホームページより「宇宙医学」(https://humans-in-space.jaxa.jp/biz-lab/med-in-space/)、「きぼう利用戦略」(https://humans-in-space.jaxa.jp/kibouser/information/scheme/)、米国の宇宙医学研究の方向性を示すHuman Research Roadmap (https://humanresearchroadmap.nasa.gov/)</p>
履修上のポイント	<p>宇宙という特殊環境を題材として，そのような環境が人体に及ぼす影響，及び各種の職業・日常生活において，必要とされる身体要件について考察する。取り上げた教材・参考図書は，あくまで一つの参考資料に過ぎず，必要な文献は自分で調べること。</p>
レポート課題1	<p>長期宇宙滞在が人体に及ぼす影響(筋骨格系萎縮，体液シフト，放射線，精神心理等)の中から一つを取り上げ，その対策について述べる。 留意点：現在，国際宇宙ステーションで取り組まれている健康管理対策や医学的な研究活動は，JAXAやNASA(米航空宇宙局)のホームページから参照することが出来る(参考図書3)。</p>
レポート課題2	<p>宇宙飛行士，あるいはその他の職業(例えば航空機パイロット，公共機関の運転士)への従事に際し，特にその職業に求められる安全配慮の観点から，どのような身体的要件が求められるかを考察する。次に，その身体的要件を緩和するための医学生理学的な対応策も考案する(例：車の運転について，加齢に伴う身体機能の低下が問題となるなら，医学生理学的にどのように対処すれば，その問題点を克服出来るか)。 留意点：職業に関しては，必ずしも特殊な技能だけを取り上げる必要はなく，自動車の運転等の一般的な技能・業務でも構わない。なお，民間航空パイロットの身体要件については，(一財)航空医学研究センターの航空身体検査マニュアルが参照可能。(https://aeromedical.or.jp/manual/)</p>

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	自分自身の1週間の生活の記録
第3回	自分自身の1週間の生活記録の解析；摂取エネルギーと代謝量
第4回	自分自身の1週間の食生活内容の解析；栄養分析
第5回	自分自身の1週間の生活記録の解析；睡眠パターンと生活リズム
第6回	対象とする運動に関するテキスト・文献調査
第7回	対象とする運動に関する， 個体レベルでの運動生理学的側面に関する学修
第8回	対象とする運動に関する， 集団レベル， または社会科学的側面に関する学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた， 本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と， 本科目の課題の理解
第2回	極限環境と， ヒトの生存に必要とされる生理学的条件に関する学修
第3回	宇宙環境が人体に及ぼす影響に関する全般的な学修
第4回	宇宙環境が人体に及ぼす影響に関する， 取り上げた課題に関する学修
第5回	取り上げた課題に関し， 将来的な有人宇宙活動に向けての， 課題と展望に関する学修
第6回	取り上げた課題に関し， ヒトの能力の限界と， その判定方法に関する学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	関連する法令， 及び社会的な事例の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた， 本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	環境生理学特講	担当者	シャク フミオ 釋 文雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	---------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	環境がヒトの身体及び心理面に及ぼす影響について、身近で具体的な課題を通して、基礎的な人体生理・心理学的な側面から学修することを目的とする。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 3) 謙虚に自己をみつめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 環境がヒトに及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、精神心理や社会生活の観点も含めて学修することを目的とする。環境は、物理的環境に加えて、人間集団・社会集団としての環境も含めて考える。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1) 身体活動の様々な側面に対し、定量的に評価する手法を身につける。またある特定の身体活動について、多角的な側面から説明することができる(知識) 2) さまざまな環境における人体生理の変化と適応、またそれらの環境で生じる医学生理学的・心理学的な問題に対処する方法論を形成するとともに研究のプランを考える(知識・技能)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10時間)。manaba folioをとおしてレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿(初稿)は7月末、課題(2)は8月末までに提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿(初稿)は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和7年1月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適正性、考え方の科学性・妥当性・再診の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性を評価する。特に、自ら考えた内容を重視する。	90%
	観察記録	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。	10%
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正(目次案など)について、メールなどで連絡相談してください(shaku.fumio@nihon-u.ac.jp)。また、時間調整により、対面でのディスカッションも歓迎いたします。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想がユニーク、オリジナルな題材を歓迎いたします。</p> <p>3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛け、他者に発表する場合を想定し作成してください。</p> <p>4) 教材・参考図書をすべて読み込むよりも、題材に関連した文献は自分で検索し、引用してください。</p> <p>5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載してください。</p> <p>6) 独自の考えを充実させているレポートを期待します。</p> <p>注：本レポートは開示しませんが、個人情報にかかわる事項は記載せず、フィクションかなど工夫し記載してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：鈴木郁子 教材名：『やさしい環境生理学』（綿房，2019年3月） ISBN 978-4-9908843-3-8 本体 2000円＋税
	地球環境とヒトとの関わりや、ヒトの身体面・心理面への影響について、難解な生理学用語は避け、わかりやすい表現で記載されている。
参考図書	本間研一、彼末一之 編集 『環境生理学』（北海道大学出版会，2007年02月） ISBN 978-4-8329817-6-8 本体9000円＋税
履修上のポイント	環境がヒトに及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、生理学的な側面、心理学的な側面、さらには生化学・栄養学の基礎的な側面から、社会生活における位置づけを含め、自分自身の経験も元に、考察する。
レポート課題1	ヒトが生まれてからどのように環境に影響を受けて発達するかを身体面、感情情動面からまとめ、それに対して自らの意見を述べる。 留意点：単にまとめるだけでなく、まとめる過程で、自らどのように 環境とヒトとの関連を考えたかを十分に記載する。
レポート課題2	生活環境と健康および疾病との関連に関して、教材のみでなく、自ら興味のある文献も参考としまとめる。またそれに対しての自らの意見を述べる。 留意点：単にまとめるだけでなく、まとめる過程で、自らどのように 生活環境と健康および疾病の関連について考えたかを述べる。疾病は、特定の疾病に注目して深めて可。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：羽生 和紀 教材名：『環境心理学 第2版』（サイエンス社，2019年4月） ISBN 978-4-7819-1443-5 本体 1900円＋税
	人間と環境とのあらゆる関係を研究する領域である「環境心理学」に関して、心理学専攻の学生に限定せず、建築・都市計画、環境・空間デザイン、クリエイター志望の学生にも読んでもらうことを想定し、標準的な教科書として書かれている。
参考図書	MERAジャーナル（人間・環境学会発行） https://mera-web.jp/journal 「環境生理学」の各章末にも参考文献リストあり
履修上のポイント	人間が日常生活を送るうえで、置かれる環境は様々であるが、人間が環境にどのように左右され、社会活動を送っているか、改めてみつけ、それを自分の場合に当てはめ、研究テーマとしても考える。
レポート課題1	環境とヒトとの関わりに関して、特に興味のある環境を取り上げ、どのようにヒトと関わり、影響しているか、自らの場合も必ず例としていれ、考察する。 留意点：具体的な事象を取り上げ、教材に書かれている内容よりも、その内容を踏まえたうえでの、自分自身の考えを論じてください。
レポート課題2	環境のヒトへの影響について、教材にみられる多くの研究結果を参考とし、自分なりの研究計画を作成してください。 留意点：研究計画は実現可能な計画とし、既存の研究との違いも意識して作成してください。

基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	地球環境とヒトについての理解
第3回	ヒトの発達と環境との関わりについての理解
第4回	環境とヒトの生理機能についての理解
第5回	ストレスへの対応についての理解
第6回	生活環境と健康についての理解
第7回	環境問題とヒトについての理解
第8回	レポート課題に関連した文献調査
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1,2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	環境の知覚・認知に関する理解
第4回	環境の評価・査定、個人差と環境に関する理解
第5回	対人；・社会環境、住環境、教育・労働環境に関する理解
第6回	自然環境、犯罪と環境に関する理解
第7回	関連する文献の検索とその内容の理解
第8回	環境の人への影響に関する研究プランのテーマ検討
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1,2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	スポーツ運動学特講	担当者	モリナガ マサキ 森長 正樹	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	スポーツ運動学では、現象学的立場から人間の運動の構造と発生について学ぶことを目的とする。具体的には、運動モルフォロジーの方法を基に進められてきたスポーツ運動学研究のこれまでの文献やその研究方法などを精査し、その中で取り扱われる運動質や、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法といったいくつかのキーワードを基に、自身が対象とするスポーツにおけるスポーツ運動学的観点からの包括的な理解を深める。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 スポーツ運動学における運動質、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法がどのような事を意味し、どのように研究していくべきかについての方法論を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①スポーツ運動学における運動モルフォロジーを中心とした主要な研究課題が、どのような課題であるかを整理し説明することができる(知識・解釈) ②これまでの知見を基に、自身の対象とするスポーツでの課題についてその課題を発見し、解決するためのスポーツ運動学的観点からの方法論を示すことができる(知識・問題解決)。</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 (自習)【SBO①】基本教材を熟読し課題に取り組むにあたり、必要な用語や表現の理解を深める【25時間/レポート1本】。(自主研究)【SBO①&②】また、レポート課題で自身が対象とするスポーツにおける技術に関する課題の分析を行い、【10時間/レポート1本】レポートの素案を作成する(レポート作成)【SBO①&②】【5時間/レポート1本】。(ディベート)【SBO①&②】整理した内容をmanaba folioの掲示板機能を用いて教員および受講生と作成した素案を基にディスカッションを行い最終的なレポートの作成を行う【10時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioの機能を用いて、課題を進めていくうえで疑問点、不明な点は掲示板で情報を共有し、受講者同士で議論する。また、理解の難しい用語などについては担当教員に直接確認を行う</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)については7月末日、課題(2)は8月末日を目処に提出することが望ましい。最終的な課題は学事歴に定められた日までにまとめて提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)については11月下旬、課題(2)は12月下旬を目処に提出することが望ましい。最終的な学事歴に定められた日までにまとめて提出すること。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	内容については、課題に対する妥当性、これまでの文献精査からの知見の反映、研究対象とするスポーツに関する自身の考察がふくまれるか否か、その他レポートの構成を含めて評価する。	80%
	観察記録	ポータルシステムを用いたレポート作成に関する積極的な態度などを評価する。	20%
履修者への要望	<p>①レポートのテーマとして設定するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが対象とするスポーツに一定程度の理解がある種目を選択してください。</p> <p>②草稿提出後にレポートの構成については、参考文献の記載の仕方も含め別途指導する場合がありますので、その内容に従い加筆・修正してください。</p> <p>③スポーツ運動学に関する最新の知見を概観し、レポート作成に必要な文献は積極的に確認してください。</p> <p>④その他質問等がある場合はメール等で連絡してください。また、面接の必要がある場合は、必ず事前にメール等で相談してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	<p>著者名：金子明友・朝岡正雄編著 教材名：「運動学講義」 ISBN:978-4-469-26177-6 (大修館書店,1990)2,000円+税</p> <p>スポーツ運動学における学問としての成立過程から専門領域内容を簡潔に網羅した入門的なテキスト。</p>
参考図書	朝岡正雄 著「スポーツ運動学序説」(不昧堂出版,1999年)6,300円+税
履修上のポイント	スポーツ運動学は現実の運動指導に基礎を提供する実践的運動理論であることから、自身の運動を覚える体験や実践する体験、教える経験をもとにそれらの内容を踏まえながら学術的な知識として体系化して学修および考察を行っていく。まずは教材内容を熟読し、自身の経験と照らし合わせながら学修していくこと。
レポート課題1	教材の第1部(運動学講義)のLec.1からLec.7まで読み、自身が興味関心を持ったLecを3つ取り上げて、そのLec内容を要約しなさい。 留意点：各Lec(章)は1つにつき約1000文字程度で要約すること。テキストの丸写しではなく、自身の意見やコメントも含めて要約すること。
レポート課題2	教材の第1部(運動学講義)のLec.8からLec.15まで読み、自身が興味関心を持ったLecを3つ取り上げて、そのLec内容を要約しなさい。 留意点：各Lec(章)は1つにつき約1000文字程度で要約すること。テキストの丸写しではなく、自身の経験や体験談なども含めて要約すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：日本スポーツ運動学会編 教材名：「コツとカンの運動学 わざを身につけるための実践」 ISBN：978-4-469-26891-1（大修館書店，2020年）1,800円+税 スポーツ運動学の理論領域を実践的な視点から解説したテキスト
参考図書	ウルリヒ・ゲーナー著 佐野淳 朝岡正雄 監訳 「スポーツ運動学入門—スポーツの正しい動きとは何か—」（不昧堂出版，2003）3000円+税
履修上のポイント	理論的に学修されたスポーツ運動学の知識を実践的な現場で活用するための方法論やその方法論の知識的体系を理解し、考察していく。加えて、自身の経験や体験を得られた知識や言葉で表現して考察を深めていく。
レポート課題1	教材の第Ⅱ章を読み、コツやカンの世界がどのような世界観で、またどのような過程で成り上がっているのか要約を行い記述すること。 留意点：要約は約1200文字程度で行い、その後自身の経験や体験などを踏まえてコメントを300文字程度つけること。
レポート課題2	教材の第Ⅲ章を読み、「わざ」といわれるものがどのように発生して形成され、伝わっていくのか要約を行い記述すること。 留意点：要約は約1200文字程度で行い、その後自身の経験や体験などを踏まえてコメントを300文字程度つけること。

基本教材1

第1回	課題の理解のためのシラバスの確認および教材の学修
第2回	基本教材1のLec.1の内容に関する学修
第3回	基本教材1のLec.2・3の内容に関する学修
第4回	基本教材1のLec.4・5・6・7の内容に関する学修
第5回	基本教材1のLec.8・9の内容に関する学修
第6回	基本教材1のLec.10・11・12の内容に関する学修
第7回	基本教材1のLec.13の内容に関する学修
第8回	基本教材1のLec.14・15の内容に関する学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	課題の理解のためのシラバスの確認および教材の学修
第2回	課題となる自身の運動技術における重要な局面の整理と検討
第3回	基本教材2から「コツとカンの世界」について学修
第4回	自身の経験や体験を踏まえたコツとカンの世界について考察
第5回	第3回、4回の内容を理論的に体系化して学修
第6回	基本教材2から「わざの発生」について学修
第7回	自身の経験や体験を踏まえたわざの発生について考察
第8回	第6回、7回の内容を理論的に体系化して学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	スポーツ医学特講	担当者	ハタ ミツマサ 秦 光賢	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	----------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	本講座は、スポーツ医学の基礎的知識を習得し、スポーツ外傷や運動器損傷、疾病、突然死などの発生原因について理解し、これらの予防法や発症時の対処法などについて独創的な意見が持てるようになることを目的とする。また、近年における平均寿命と健康寿命の解離を原因とする介護医療のひっ迫に対し、スポーツや独自に提案した運動療法がいかに社会貢献できるかをサルコペディア・フレイルやロコモティブシンドローム、生活習慣病の予防と治療などの観点から、健康寿命の延長に寄与する方法を探求する。								
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 スポーツ医学の概念を理解し、スポーツ外傷・運動器損傷・疾病・突然死などに対する問題解決能力を身に着ける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 スポーツ医学の基礎的知識を身に着ける。 スポーツ外傷・疾病について理解し、その原因を列挙できる。 スポーツに関連した突然死の原因を列挙できる。 一次救命処置、心肺蘇生法についての手順を説明できる。 フレイル、ロコモティブシンドロームについて理解し、その対処法を説明できる。 生活習慣病について理解し、その予防・治療法について説明できる。</p>								
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 スポーツ医学・ロコモティブ症候群・生活習慣病などに関するテキストや参考文献を読み漁り、今後の展望やまだ明らかにされていない分野など、研究に興味を持てる分野を見出し(20時間)、その課題に関する文献を検索、参考文献としてレポートを作成する(25時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 参考書、図書館での文献検索やインターネットによる論文検索を利用したり、機会があればフィールドワーク(空手道、柔道、相撲道等)を体験しレポートを作成する。</p>								
スケジュール	<p>前期：教材1レポート課題1の草案を7月末までに作成、課題2の草案は8月末までに作成する。取り上げる題材については、草案としてまとめる前にメール等で相談することが望ましい。いずれの課題も学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2または1のレポート課題1の草案は11月中旬、課題2は12月中旬を目標に提出する取り上げる題材については、草案としてまとめる前にメール等で相談することが望ましい。いずれの課題も学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p>								
成績評価	種別	評価基準							割合
	レポート	テキストの理解度、問題提起の着眼点と妥当性、参考文献の適切な応用とレポートの起承転結、適切な図・表の活用法などを評価する。							80%
	観察記録	メール等によるやり取りや、Manaba-Folioへの提出状況を通じて、学習に対する積極性などを評価する。							20%
履修者への要望	<p>スポーツ医学の基礎と実践を学ぶことにより、関係各部署には幅広い領域のスペシャリストが存在することを理解して、そして興味を持っていただきたい。例えばスポーツを実践する職業(アスリート)、アスリートを育てるコーチングスタッフ、アスリートの栄養状態を管理する管理栄養士、心理状態を管理する臨床心理士や精神科医師、外傷や疾病・心肺停止などに適切に対処・予防する内科・外科医師やスポーツドクター、適切な薬剤投与やドーピングを管理する薬剤師などである。</p> <p>またスポーツや運動療法、運動リハビリテーションや心臓リハビリテーションなどが、超高齢化社会の日本にとってどれほど重要な役割を果たしているかを理解していただきたい。</p>								

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：藤本繁夫 他 教材名：新・スポーツ医学（改訂新版） 嵯峨野書院（2021年） 3850円 ISBN：978-4-7823-0597-3
	外科系・内科系の外傷・障害について、発生メカニズムから、症状、応急処置、医学的治療などを解説。
参考図書	令和版 基礎から学ぶ！スポーツ救急医学 著者；奥水健治 ベースボールマガジン社（2020年） 1600円 ISBN：978-4-583-11279-4
履修上のポイント	スポーツ医学の基礎を学び全体像を把握する。スポーツ外傷・疾病・突然死の発症機序や病態、それらに対する対処法を理解する。さらに、現場での問題点を考察する。
レポート課題1	スポーツ医学とは何かについてまとめ、スポーツで発生する様々な問題点（外傷、疾病、突然死、精神的問題、ドーピング等）について一つ取り上げ、その疫学、病態生理、対処法、リハビリテーション、競技復帰、再発予防について述べる。 留意点：それぞれ簡潔にまとめる
レポート課題2	レポート1で選択した課題以外で、その疫学、病態生理、対処法、リハビリテーション、競技復帰、再発予防などに関して、最新の知見や将来展望も踏まえて述べる。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にする（家族や知人の事例も可）

基本教材 2	
教材の概要	著者名：吉村芳弘 他 教材名：（1）最新知識 フレイルサルコペニア 吉村芳弘 日総研 2019年 2860円 ISBN：978-4-7760-1896-4 （2）ロコモティブシンドローム診療ガイド2021 日本運動器学会 文光堂 2021年 3850円 ISBN：978-4-8306-2748-4
	フレイルやサルコペニアの基本から対策、運動療法などを詳しく解説。 ロコモティブシンドロームの概念や評価、予防対策についてエビデンスに基づき解説。
参考図書	動脈硬化性疾患予防ガイドライン（2022年版） 一般社団法人 日本動脈硬化学会 5760円 ISBN：978-4-9071-3006-0
履修上のポイント	スポーツ医学で学んだ知識は広く社会に貢献できるものとなることを理解する。現在、長寿大国となった日本の問題点、すなわち平均寿命と健康寿命の解離、これによる介護のひっ迫、高齢者の動脈硬化の進行による医療費の高騰など、様々な問題点をスポーツ医学・運動療法と関連付けて考える。
レポート課題1	平均寿命と健康寿命、フレイルサルコペニアやロコモティブシンドロームの対処法と健康的に長生きすることに関するスポーツ・運動療法の役割について述べる。 留意点：それぞれ簡潔にまとめる
レポート課題2	平均寿命と健康寿命、動脈硬化の進行が社会にもたらす意義を若年者（現役世代）と高齢者に分けて問題点を抽出し、これらに対しスポーツ・運動療法がもたらす役割について述べる。 留意点：それぞれ簡潔にまとめる

基本教材1

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	教材1の学修；スポーツ医学の定義、内科的・外科的スポーツ外傷・運動器障害の概要について理解する
第3回	教材1の学修；成長期・中高年期に特有のスポーツ外傷・運動器障害について学修する
第4回	教材1の学修；スポーツ中の一次救命処置・心肺蘇生法・自動体外式除細動器(AED)について学修する
第5回	教材1の学修；スポーツ中の突然死・熱中症など緊急を要する疾患について学修する
第6回	課題1のテーマを決定する
第7回	レポート課題1；初稿の作成
第8回	レポート課題1；添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1；最終稿の作成
第10回	課題2のテーマを決定
第11回	レポート課題2；初稿の作成
第12回	レポート課題2；添削指導に対する修正稿の作成
第13回	レポート課題1；最終稿の作成
第14回	レポート課題1, 2を通して本課題に対する全体的な理解の検証
第15回	最終まとめと今後の発展性について意見交換する

基本教材2

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	教材2の学修：フレイル・サルコペディア・ロコモティブシンドロームの定義と疫学を学修する
第3回	教材2の学修；ロコモティブシンドロームの評価方法，対象疾患，予防・対策について学修する
第4回	教材2の学修；動脈硬化の定義と疫学を学修する
第5回	教材2の学修；動脈硬化の評価方法，対象疾患，予防・対策について学修する
第6回	課題1のテーマを決定
第7回	レポート課題1；初稿の作成
第8回	レポート課題1；添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1；最終稿の作成
第10回	課題2のテーマを決定
第11回	レポート課題2；初稿の作成
第12回	レポート課題2；添削指導に対する修正稿の作成
第13回	レポート課題1；最終稿の作成
第14回	レポート課題1，2を通して本課題に対する全体的な理解の検証
第15回	最終まとめと今後の発展性について意見交換する

科目名	スポーツ心理学特講	担当者	ハシグチ ヤスカズ 橋口 泰一	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	-----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座では、スポーツ心理学的諸課題について具体的な解決方法を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ、論理的整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。</p> <p>III. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決力 スポーツにおける諸問題の課題解決の為に、スポーツ心理学領域を理解し、具体的な解決方法の心理学的案出と課題解決の為に心理学的思考を修得することを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>①科目内で扱った事象をスポーツ心理学的視点から説明することができる。(知識・想起・態度)</p> <p>②科目内で扱った内容をベースに自分自身を表現することができる。(知識・解釈)</p> <p>③運動・スポーツの課題を心理学的視点から捉え、課題解決の方法を論理的に記述することができる。(知識・技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>与えられた課題に沿って教材を丹念に読み、参考文献も参照しながら、レポート作成を行う。(自習した内容を自主研究に繋げレポート作成し成果物としてまとめる)</p> <p>レポート課題1につき、完成までに以下を目安に最低 45時間の学修時間を要するものとする。学修項目 課題図書内に示されているキーワードを文献等を用いて調べる</p> <p>学修時間 1つのレポート作成にあたり、30 時間以上 (教材学修 20 時間/レポート1本, レポート執筆 10 時間/レポート1本), manaba folioへの提出・再提出のやりとりに 15 時間以上 (ディスカッション 15 時間/レポート1本) を目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。(SB0s①) ・manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換, レポートの推敲のためのピア・レスポンス等) (SB0s②③) ・図書館, インターネットを利用した参考文献を調査や、フィールドワークからレポートを作成する。(SB0s①②③) 		
スケジュール	<p>前期:教材1のレポート課題 1 草稿は 7 月 30 日に提出し, レポート課題 2 草稿は 8 月 30 日に提出する。両レポート課題の最終稿は 9 月 9 日に提出する。</p> <p>後期:教材2のレポート課題 1 草稿は 11 月 30 日に提出し, レポート課題 2 草稿は 12 月 25 日に提出する。両レポート課題の最終稿は年明け 1 月 5 日に提出する。</p>		
成績評価	種 別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に関係する重要な論点をおさえているか。 ・結論が明確であるか。 ・結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。 ・引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。 	60%
	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> ・活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。 ・レポートの提出期限を厳守したか。 ・明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。 	40%
履修者への要望	<p>教材の内容だけを取り入れるのではなく、受講者自身の考え方も取り入れ、論理的でオリジナルなレポートになるよう心がけて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：荒木雅信・山本裕二編著 教材名：『これから学ぶスポーツ心理学 三訂版』（大修館書店，2023年） ISBN-9784469269550 2,200円（本体2,000円＋税10%）
	スポーツ心理学に関して，基礎から実践まで網羅されたテキスト
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』（大修館書店，2008年） ISBN-9784469062175 6,270円（本体5,700円＋税10%）
履修上のポイント	スポーツの運動学習的課題や動機づけ的課題，社会心理学的課題（集団・リーダーシップ，ソーシャルスキルなど）について，教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
レポート課題1	教材の第Ⅰ部～第Ⅱ部までを読み，重要である点や興味を有した点，テキストの中から第Ⅰ部から1つ，第Ⅱ部から2つ計3つ取り上げ，その頁の要約を行い，それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点：留意点：要約は1つにつき平均 800 字を目安として，そのコメントを400字程度で行うこと
レポート課題2	教材の第Ⅲ部～第Ⅳ部までを読み，重要である点や興味を有した点をテキストの中から，第Ⅲ部から2つ，第Ⅳ部から1つ計3つ取り上げ，その頁の要約を行い，それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点：留意点：要約は1つにつき平均 800 字を目安として，そのコメントを 400 字程度で行うこと，また動機づけや社会心理的内容は自身の経験に照らして考察すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名：荒木雅信・山本裕二編著 教材名：『これから学ぶスポーツ心理学 三訂版』（大修館書店，2023年） ISBN-9784469269550 2,200円（本体2,000円＋税10%）
	スポーツの健康心理的課題や競技心理的課題，メンタルトレーニング的課題，臨床心理学的課題について，教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』（大修館書店，2008年） ISBN-9784469062175 6,270円（本体5,700円＋税10%）
履修上のポイント	スポーツの健康心理的課題や競技心理的課題，メンタルトレーニング的課題，臨床心理学的課題について，教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
レポート課題1	教材の第Ⅴ部～第Ⅵ部までを読み，重要である点や興味を有した点をテキストの中から，第Ⅴ部から2つ，第Ⅵ部から1つ計3つ取り上げ，その頁の要約を行い，それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点：留意点：要約は1つにつき平均 800 字を目安として，そのコメントを 400 字程度で行うこと，また教材の第Ⅴ部～第Ⅵ部までの重要点や興味を有する面に加え，パラスポーツの強化における心理学的見地から言及したレポートにすること。
レポート課題2	スポーツ心理学諸課題についてテーマを1つ設定し，その課題点の解決策について論述しなさい。 留意点：留意点：テーマを設定した理由を含め，課題解決の方法深く掘り下げ，実践的なレポートにすること。

基本教材1

第1回	教材の学修と，本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材の学修；「体育・スポーツ心理学の歴史」について
第4回	基本教材の学修；「運動制御」について
第5回	基本教材の学修：「運動学習と運動指導」について
第6回	レポート課題 1:初稿の作成
第7回	レポート課題 1:添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題 1:最終稿の作成
第9回	基本教材の学修；「スポーツと動機づけ」について
第10回	基本教材の学修；「スポーツにおける集団」について
第11回	基本教材の学修：「スポーツとライフスキル」について
第12回	レポート課題 2:初稿の作成
第13回	レポート課題 2:添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題 2:最終稿の作成
第15回	レポート課題 1・2 を通じた，本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	課題として取り上げる題材の検討
第2回	基本教材の学修；「スポーツメンタルトレーニング」について
第3回	基本教材の学修；「健康とスポーツ心理学」について
第4回	基本教材の学修：「スポーツ傷害の心理学」について
第5回	基本教材の学修：「パラスポーツと心理学」について
第6回	レポート課題 1:初稿の作成
第7回	レポート課題 1:添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題 1:最終稿の作成
第9回	「スポーツ心理学の諸問題」についての整理
第10回	整理された「スポーツ心理学の諸問題」の問題設定
第11回	問題設定された「スポーツ心理学の諸問題」についての調査とその内容の学修
第12回	レポート課題 2:初稿の作成
第13回	レポート課題 2:添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題 2:最終稿の作成
第15回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	コーチング学特講	担当者	ヤマモト ダイ 山本 大	開講期	通年	単位数	4	分野名	人間科学
-----	----------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	------

【科目概要】

目的	<p>本講座はスポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を修得することで、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. スポーツ科学の個別科学領域（運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ心理学等）の知見に立脚した「トレーニング理論」を説明することができる。</p> <p>II. 「トレーニング理論」に基づいた「実践的トレーニング方法」について、トレーニング計画立案やトレーニング効果（競技力）の評価方法を企画・立案することができる。</p> <p>III. 「実践的トレーニング方法」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を、コーチング学の理論（コーチングとコーチング学の定義、コーチの役割と使命、競技力を養成するための問題解決型思考やPDCAサイクル、コーチングにおけるマネジメント、医・科学情報によるコーチング支援等）に基づいて呈示することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 スポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」、及びスポーツ実践場面の問題や解決方法と自身のスポーツキャリアを照合し、「実践的コーチング」の手段と方法を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①スポーツ科学の個別学問領域で得られた知見を説明することができる。（知識・想起） ②「トレーニング理論」に基づく「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」を形成できる。（技能） ③自身が形成した「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」をコーチングの実践場面に適用できる。（技能）、（知識・問題解決）</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 「①基本教材及び参考図書等の熟読（自習）【SBOs①】」、「②レポート課題に沿った事例あるいはデータの収集と分析（自主研究）【SBOs②&③】」、「③レポートの作成（レポート作成）【SBOs②&③】」、「④manaba folioでの掲示板機能を利用した複数回に渡るレポート添削での教員と受講生とのディスカッション（ディベート）【SBOs②&③】」の学修方略により、「トレーニング理論」→「実践的トレーニング方法」→「体育・スポーツの指導実践へのコーチングの適用」について、自身が選択したスポーツ種目をモデルに段階的なレポートを作成する。 学修時間は、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要する。 ①（自習）：【10時間/レポート1本】 ②（自主研究）：【10時間/レポート1本】 ③（レポート作成）：【10時間/レポート1本】 ④（ディベート）：【15時間/レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 スポーツ実践場面における指導やトレーニング方法の調査・観察（フィールドワーク）、及び図書館を利用した先行研究に関わる文献検索を含めてレポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p><前期> 初稿は、レポート課題1が7月末、レポート課題2が8月末とし、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p> <p><後期> 初稿は、レポート課題1が11月下旬、レポート課題2が12月下旬とし、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題に対する妥当性、文献に基づく知見の反映、考察の論理性を中心に評価する。	80%
	観察記録	草稿段階から最終稿に至るプロセス（manaba folio等によるレポート作成に関わる技能や積極的態度等）を評価する。	20%
履修者への要望	<p>①草稿段階からレポートのテーマや構成について、メール等を中心に連絡相談して下さい。</p> <p>②レポートのテーマとして選択するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが、出来れば、自身が経験したスポーツ種目の方がまとめ易いと考えられます。</p> <p>③レポート作成に際し、基本教材や参考図書はもちろんですが、文献もオンラインによる検索方法の修得も含め、積極的に検索・確認して下さい。なお、引用文献の記載方法等については草稿段階で指示します。</p> <p>④その他、質問等はメール等で連絡して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：日本コーチング学会編 教材名：「コーチング学への招待」 ISBN：978-4-469-26819-5（大修館書店，2017年）2,700円+税</p> <p>コーチングとコーチング学、競技力とトレーニングの関係、競技力の養成、競技トレーニングの計画、コーチングにおけるマネジメントや医・科学情報による支援等に関わる知見を網羅した最新のテキストである。</p>
参考図書	<p>ジェリー・リンチ著 水谷豊・笈田欣治・野老稔訳 「クリエイティブ・コーチング」 ISBN-13：978-4469266160（大修館書店，2008年）1,980円</p>
履修上のポイント	<p>本課題においてはスポーツ科学の個別科学領域の知見に立脚した「トレーニング理論」について理解を深める。自身が選択したスポーツ種目をモデルとして、「トレーニング理論」に基づく「実践的トレーニング方法」を検討するが、指定した基本教材や参考図書に加え、必要な文献を自身で収集する。文献収集は特に、スポーツ科学の個別科学領域から得られた知見と「トレーニング理論」の対応を確認する上で重要となる。</p>
レポート課題1	<p>コーチング学の定義、競技力の概念、競技力を養成するためのトレーニングの考え方を踏まえ、自身が選択したスポーツ種目における「トレーニング方法」を指導実践に適用する「コーチング」について2000字程度で記述しなさい。 留意点：第1～4章の「コーチングとは何か」、「コーチング学とは何か」、「競技力とトレーニング」、「競技力の養成」と自身が選択したスポーツ種目との対応を図る。</p>
レポート課題2	<p>「コーチング」におけるトレーニング計画、トレーニング周期（トレーニング・ピリオダイゼーション）、試合に向けたコンディショニング等に関わる理論を自身が選択したスポーツ種目に適用する実践的方法について2000字程度で記述しなさい。 留意点：第5～6章の「競技トレーニングの計画」、「試合への準備」に示された理論（トレーニング計画論）を自身が選択したスポーツ種目に適用する観点（ポイント）を検討する。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：日本コーチング学会編 教材名：「コーチング学への招待」 ISBN：978-4-469-26819-5（大修館書店，2017年）2,700円+税</p> <p>コーチングとコーチング学、競技力とトレーニングの関係、競技力の養成、競技トレーニングの計画、コーチングにおけるマネジメントや医・科学情報による支援等に関わる知見を網羅した最新のテキストである。</p>
参考図書	<p>ジム・トンプソン（著），鈴木 佑依子（翻訳） 「ダブル・ゴール・コーチ―勝利と豊かな人生を手に入れるための指導法―」 ISBN-13：978-4491035901（東洋館出版社，2021年）2,200円</p>
履修上のポイント	<p>本課題においては自身が選択したスポーツ種目について、基本教材1で学修した「コーチング・トレーニング理論」、及び「トレーニング方法とトレーニングプラン」を体育・スポーツの指導実践に適用する「マネジメント」を検討する。基本教材1と同様、指定の基本教材や参考図書に加え、文献収集が必要となり、特にビジネスマネジメントやスポーツ医・科学の知見をスポーツ実践場面のマネジメントに適用する上で最新の情報を確認することが重要となる。</p>
レポート課題1	<p>コーチングにおけるマネジメント理論を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する実践的方法について2000字程度で記述しなさい。 留意点：第7章の「コーチングにおけるマネジメント」を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する観点（ポイント）や留意点を検討する。書籍や文献検索等により、ビジネスマネジメントに関わる知見を含め検討することが望ましい。</p>
レポート課題2	<p>スポーツ医・科学をアスリートの競技力向上に導入する方法は最早、常識といっても過言ではないが、スポーツ医・科学を自身が選択したスポーツ種目に導入（チームマネジメントに導入）する際、マネージャーの役割や留意点について2000字程度で記述しなさい。 留意点：第8章の「スポーツ医・科学、情報によるコーチング支援」を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する際、自身がマネージャーであると仮定し、マネージャーの役割や留意点を具体的に検討する。</p>

基本教材1

第1回	スポーツ・トレーニング理論全般からみた課題の理解
第2回	トレーニングシステムとトレーニング構造に対する学修と理解
第3回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング課題の抽出と整理
第4回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング課題と実践的トレーニング方法の対応に関する学修と理解
第5回	トレーニング負荷（量と強度）理論、およびトレーニング構成原理の学修と理解
第6回	トレーニング計画、トレーニング周期（ピリオダイゼーション）、試合への準備に関する学修と理解
第7回	トレーニング構成原理と実践的計画・管理の対応に関する学修と理解①
第8回	トレーニング構成原理と実践的計画・管理の対応に関する学修と理解②
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	コーチングにおけるマネジメント（チーム・組織・クラブのマネジメント）に係る学修と理解
第2回	コーチングにおけるマネジメント（発育・発達、タレント発掘・育成、トランスファー）に係る学修と理解
第3回	チームマネジメント理論をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解①
第4回	チームマネジメント理論をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解②
第5回	スポーツ医・科学によるコーチング支援（現状と課題）に係る学修と理解
第6回	スポーツ医・科学によるコーチング支援（トレーニングの提案と情報戦略）に係る学修と理解
第7回	スポーツ医・科学、情報をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解①
第8回	スポーツ医・科学、情報をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解②
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	共通
-----	--------	-----	----------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的克論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ・データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。</p> <p>・データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。</p> <p>・データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。</p> <p>・収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。 1つのレポート課題の完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <p>・基本教材および参考文献の読み込み：20時間 ・レポート課題の執筆：10時間 ・Manaba-Folioへのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q & A」を公開する。また、レポート課題2では分析すべきデータをアップロードする。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。</p>		
スケジュール	<p>前期： 基本教材1のレポート課題1：6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材1のレポート課題2：8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期： 基本教材2のレポート課題1：11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2026年1月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材2のレポート課題2：12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2026年1月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>・最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、（原則的に）0点となります。</p> <p>・レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたレポートは評価の対象としません）。教材の副書き写しは評価の対象外となります。</p>	79%
	観察記録	<p>・最終提出までにManaba-Folio上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。</p> <p>・草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。</p>	21%
履修者への要望	<p>・レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。</p> <p>・要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：鈴木淳子 教材名：教材1：『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税 教材2：『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p> <p>教材1は，主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 教材2は，研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p>
参考図書	<p>・大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税 ・高橋尚也他（編著）『心理調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで』（サイエンス社，2023年） ISBN 978-4-7819-1568-5 2,350円+税 ・三浦麻子（監修），米山直樹・佐藤 寛（編著）『なるほど！ 心理学面接法』（北大路書房，2018年） ISBN:978-4-7628-3051-3 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>レポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」，「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所」は，教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし，「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所」は，教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にする。</p>
レポート課題1	<p>以下に示す項目について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所</p> <p>留意点：各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。</p>
レポート課題2	<p>以下の2項目のうち，一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，実際に質問紙（アンケート）を作成する。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。</p> <p>留意点：教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては，調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：南風原朝和 教材名：『心理統計学の基礎 統合的理解のために』（有斐閣アルマ，2002年） ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p> <p>この教材は，統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>・村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年） ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税 ・松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年） ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税 ・繁樹算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q & Aで知る統計データ解析 Dos and DON'Ts』（サイエンス社，2008年） ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<p>・データ解析用ソフト（Excelアドインソフト）は教務課より無料提供されるが，もし受講者所有のPCがMackintoshの場合はインストールに不具合が生じることがある。その際には，担当講師（田中）まで相談すること。 ・（基本教材2に関しては）高等学校の数学Bを履修した程度の知識があることが望ましい。</p>
レポート課題1	<p>以下に示す用語について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性</p> <p>留意点：各用語あたり800字以内を目安に，3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし，その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
レポート課題2	<p>与えられたデータをもとに，統計解析ソフト（BellCurve Excel統計，(株)社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い，その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布，代表値，散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。</p> <p>留意点：分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（Manaba-Folio）にアップロードされる。PC統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし，掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。</p>

基本教材1

第1回	質問紙調査法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か、質問紙法の基礎（教材1；1章，2章）
第2回	質問紙法の調査プロセス，データ収集の技法（教材1；3章，4章）
第3回	サンプリングの技法，調査実施に向けての準備（教材1；5章，6章）
第4回	倫理的ガイドライン，質問紙デザインの基礎，質問紙の構成と体裁（教材1；7章，8章，9章）
第5回	質問の種類と順序，質問作成，ワーディング（教材1；10章，11章，12章）
第6回	選択回答法，自由回答法，予備調査（教材1；13章，14章，15章）
第7回	レポート課題1：①，②の草稿作成
第8回	調査的面接法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材2；第1章）
第9回	調査的面接法の分類，データ収集法の組み合わせ（教材2；第2章，第3章）
第10回	調査的面接法のデザイン（教材2；第4章）
第11回	調査的面接法のガイドライン（教材2；第5章）
第12回	レポート課題1：③，④の草稿を作成 ①②とともに提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第13回	レポート課題1の最終レポート作成
第14回	レポート課題2の草稿を提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

基本教材2

第1回	心理学研究における統計の役割について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第1章）
第2回	分布の記述的指標（第2章）
第3回	相関係数の理解と回帰係数（第3章），確率モデルと標本分布（第4章）
第4回	統計的推定・検定（第5章），平均値差と連関についての統計的推定（第6章）
第5回	線形モデルの基礎（第7章），偏相関と重回帰分析（第8章）
第6回	実験デザインと分散分析法（第9章）
第7回	因子分析法（第10章）
第8回	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第9回	レポート課題1の最終レポート作成
第10回	実習課題(1)：サンプルデータを確認し，Excelと統計解析ソフトの操作に慣れる。
第11回	実習課題(2)：①サンプルデータの全変数について度数分布，代表値，散布度を示す。 ②任意に2つの変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。
第12回	実習課題(3)：③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する。
第13回	実習課題(4)：④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。
第14回	レポート課題2の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

科目名	統計基礎 I	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	開講期	通年	単位数	2	分野名	共通
-----	--------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>最近の統計ソフトは大変に使い勝手が良く、統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、形の上では統計の計算結果を得られるが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見される。</p> <p>本科目では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、できるだけ数式を介さず、統計の基本概念を理解する。また、表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の基本的な考え方を理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれるものであり、比較的身近な数学であることを理解する。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ① 本科目では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指す。 ② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解する。 ③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得も目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書を熟読する。【SBO①】 【30時間/1冊】 ② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&③】 【45時間/レポート1件】 ※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に活用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</p>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているのので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。 ② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り1~2ヶ月前にはレポート初稿を1本は必ず提出をしていること】 ③ レポートの提出期限：最終稿は学事歴で定められた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種 別	評 価 基 準	割 合
	レポート	「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。	70%
	観察記録	「分散」や「検定、分散分析」についての疑問や質問が解決できたか。 「検定、分散分析」について、議論することができるか。	30%
履修者への要望	<p>数学、特に統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。指定教材をしっかり読むこと。また、実際にExcelを操作して分析までたどり着くには、継続的・反復的に学修する必要がある。本科目で学ぶ項目は基本的なことが主であり、数学や統計処理が得意な人は受講しても意味はないので注意すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1) 向後千春, 富永敦子 (2) 涌井貞美 名：(1) 『First Book 統計学がわかる』(技術評論社, 2007年), ISBN:978-4-7741-3190-0 1,680円+税</p> <p>または (2) 『意味がわかる統計解析』(ベレ出版, 2013年) ISBN:978-4-86064-345-4 2,000円+税</p> <p>(1)は, 数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明し, 初心者でも気軽に読めて統計を学習できる教科書。あるハンバーガーショップで起こる様々な疑問や問題を, 統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく。基本統計量, 区間推定, 検定など統計データ分析の基本を理解できる。統計が苦手と思っている人には最適な教科書である。 (2)は, (1)ほど易しくないが, 内容豊富で統計解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。</p> <p>菅民郎, 『Excelで学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016対応版』(オーム社, 2020年) ISBN:978-4-274-22641-0 2,800円+税 (やや辞書的な扱い) 小島寛之, 『完全独習 統計学入門』(ダイヤモンド社, 2006年), ISBN:978-4-478-82009-4 1,800円+税 (教科書同様の入門書だが, Excelとの対応が乏しい)</p>
履修上のポイント	<p>本科目は, とにかく数学が苦手な, 統計学が苦手な人のための科目である。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け, 表計算ソフトを使うことで数式による説明を介さずに, 統計データ処理を学ぶ。まずは, 基本教材を手元に置き, 手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また, データは総務省統計局の統計データ (https://www.stat.go.jp/data/) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題1	<p>(1) t検定とは, 何を説明するための統計処理なのかを, 自分の言葉で説明せよ。特に, 標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに, 身の回りのデータを1組用意してt検定を行い, その結果を考察せよ。</p> <p>留意点: 1. レポートでは統計処理の概要だけではなく, 具体例を挙げつつ, 自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは, インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は, 悩まずに連絡をすること。</p>
レポート課題2	<p>(1) 分散分析とは, 何を説明するための統計処理なのかを, 自分の言葉で説明せよ。特に, 標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに, 身の回りのデータを1組用意して分散分析を行い, その結果を考察せよ。</p> <p>留意点: 1. レポートでは統計処理の概要だけではなく, 具体例を挙げつつ, 自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは, インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は, 悩まずに連絡をすること。</p>

基本教材1

第1回	統計と確率の関係について理解する。特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解する。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンのExcelで「データ分析」が使えるようにするための設定手順を確認する。
第2回	平均と分散、特に分散についての重要性について学ぶ。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第3回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する。
第4回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができる。この信頼区間の考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第5回	有意差検定の考え方の基本を学ぶ。第4回内容の「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え、「帰無仮説」や「対立仮説」についても理解する。
第6回	カイ2乗の考え方を学ぶ。また、有意差検定の最も基本になる考えについて、カイ2乗検定を使った具体的な計算方法について理解する。
第7回	カイ2乗検定の実際の計算を学ぶ。特に、実際のデータを使って、カイ2乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第8回	有意差検定で、最も利用されている「t検定(対応なし)」の考え方を学ぶ。特に、正規分布とt分布、その信頼区間について理解する。
第9回	実際のデータを使った「t検定(対応なし)」の計算方法について学ぶ。計算の手順と、Excelにおける「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も学ぶ。また、「t検定(対応なし)」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第10回	実際のデータを使った「t検定(対応あり)」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第9回内容の「t検定(対応なし)」との違いについても理解する。 →【レポート1への取り組み(目安)】
第11回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「t検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特にF分布とF値の考えを理解することを目的とする。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第12回	実際のデータを使った「分散分析(1要因)」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第13回	「分散分析(2要因)」について「分散分析(1要因)」との違いについて理解する。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第14回	実際のデータを使った「分散分析(2要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。 →【レポート2への取り組み(目安)】
第15回	半年間の学修内容について、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	開講期	通年	単位数	2	分野名	共通
-----	-------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	<p>最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトも自由に利用できるようになり、その結果、今までは難しかった多変量解析などが簡単に利用できるようになった。しかし、統計処理が簡単に利用できる一方、その基本にある数理的背景を理解しないままデータ処理を行っているケースが多く見られるようになってきた。</p> <p>本科目では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解する。また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを旨とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>本科目では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学ぶ。特に、「相関」、「(重)回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の修得を目指す。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」だが、その理論的背景を理解することを目指す。</p> <p>② 多変量解析が単純な数学的仮定(線形関係)の上に成り立っていることを理解する。</p> <p>③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小2乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを理解する。その上で、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が理解できることを目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30時間/1冊】</p> <p>② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&③】【45時間/レポート1件】</p> <p>※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。 		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際でのレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り1~2ヶ月前にはレポート初稿を1本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事歴で定められていた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。	70%
	観察記録	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。	30%
履修者への要望	<p>統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。ただし、数学が特に苦手な人は、「統計基礎Ⅰ」の後に受講することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：(1) 向後千春, 富永敦子 (2) 石井俊全 教材名：(1) 『FirstBook「統計学がわかる」一回帰分析・因子分析編一』(技術評論社, 2009年) ISBN:978-4-7741-3707-0 1,680円+税</p> <p>または (2) 『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版, 2014年), ISBN:978-4-86064-398-0 1,900円+税</p> <p>理数系以外の学生で統計を知っている人でも、「回帰分析」や「因子分析」など、データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くない。 (1)は、極力数式を使わず、データの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組みを解説している。アイスクリームショップを舞台に登場人物のアルバイトと一緒に悩みながら、気温とアイスクリームの売り上げの関係など、あなたの研究・調査に応用できるような話題を取り上げる。比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解できるようになる。 (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で多変量解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。 上田太郎, 小林真紀, 瀧上美喜, 『Excelで学ぶ回帰分析入門』(オーム社, 2004年) ISBN:978-4-274-06556-9 2,800円+税(回帰分析・多変量解析におけるExcelの操作説明が豊富)</p>
履修上のポイント	<p>本科目では、多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とする。ここでは数式による説明をできるだけ避け、表計算ソフトExcelを使って、直接データを統計処理する。数学が苦手な人でも「相関」や「(重)回帰分析」, 「因子分析」の基本的な仕組みを理解することを目標としている。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (https://www.stat.go.jp/data/) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題1	<p>(1) 「相関」と「回帰分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「相関」と「回帰分析」を計算し、それぞれの結果を考察せよ。 留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>
レポート課題2	<p>(1) 「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「因子分析」を計算し、その結果を考察せよ。なお、PC環境により因子分析の計算が困難な場合は、「重回帰分析」を行い、その結果を考察せよ。 留意点：1. レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。2. 分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。3. データの準備が困難な場合は、悩まずに連絡をすること。</p>

基本教材1

第1回	本科目で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本科目で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第2回	教科書の例題を参考に、データの構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間の関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第3回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第4回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎Iで学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第5回	「回帰分析」の考え方を学ぶ。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第6回	実際のデータを使った「単回帰分析」について具体的な計算方法を理解する。また、単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。 →【レポート1への取り組み(目安)】
第7回	「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第8回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは1ステップずつの計算方法を説明し、Excelの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第9回	多変量解析における「相関行列」について理解する①。第3回の「相関」との関係を理解する。
第10回	多変量解析における「相関行列」について理解する②。「相関行列」の利用方法を理解する。
第11回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し、主成分分析では何が分るのかを理解する。
第12回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、主成分分析の計算方法を理解する。
第13回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第14回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。 →【レポート2への取り組み(目安)】
第15回	半年間の学修内容について多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	ゲーム理論	担当者	ヨネダ ヒロヤス 米田 紘康	開講期	通年	単位数	2	分野名	共通
-----	-------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	----

【科目概要】

目的	ゲーム理論は20世紀の大数学者フォン・ノイマンと経済学者モルゲンシュテルンが共著で記した「ゲームの理論と経済行動」として創設され、現在では経営学、法学、経済学、社会学、心理学、生物学、工学、コンピュータ科学など様々な分野で利用されている。なぜなら複数人で構成される集団の中で意思決定する際に、他者行動が重要な役割を果たすからである。本講座では、ゲーム理論の基本的考え方を習得することを目的とする。ただ、これまでゲーム理論に全く触れてこなかった受講生がいることを想定される。そこで、比較的易しい入門書から始めていき、理論的背景を理解し、最後に現実社会でどれほど適応できるのかを理解する。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 ゲーム理論では特有の専門用語と考え方である「利得」や「ナッシュ均衡」などの考え方について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 身の回りの様々なプロセスをゲーム理論的思考で考察できること 2. それによって合理的意思決定とは何かを理解できること		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 1. 基本教材・副教材を学修する(自習、SB01, 2) 【20時間/レポート1本】 2. レポートの諸侯を作成する(自習・レポート作成、SB01, 2) 【10時間/レポート1本】 3. 教員との複数回による添削を通じて、最終的にレポートを完成させる(自主研究・レポート作成・ディスカッション、SB01, 2) 【15時間/レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio の掲示板機能やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書にかかれていない疑問などは、その他書籍やインターネットなどを積極的に活用し各自解決することを希望する。ただし、それでも解決できない場合は、担当教員に質問すること。		
スケジュール	・レポート課題1については草稿を7月末、レポート課題2については草稿を8月末(目安)に提出すること。その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じて指導・対応する。 ・最終稿は、レポート1&2ともに学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1. 設問内容に答えているか 2. 適切な日本語で書かれているか	70%
	観察記録	1. 提出期限が厳守されているか 2. 担当教員との対応	30%
履修者への要望	特になし		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：鎌田 雄一郎 教材名：『16歳からはじめてのゲーム理論 “世の中の意思決定”を解き明かす6.5個の物語』、ダイヤモンド社 1,760円(税込) ISBN-13:978-4478110713</p> <p>ゲーム理論を知らない人でも理解できるように、全体像を捉えるための書籍です。</p> <p>または、同氏の『ゲーム理論入門の入門』、岩波新書 880円(税込) ISBN-13:978-4004317753でも構いません。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・川越 敏司(著) 『はじめのゲーム理論 2つのキーワードで本質がわかる』、ブルーバックス 1,012円(税込) ISBN-13:978-4062577823 ・松井 彰彦(著) 『高校生からのゲーム理論』、ちくまプリマー新書 858円(税込) ISBN-13:978-4480688385 ・岡田 章(著) 『ゲーム理論・入門 新版--人間社会の理解のために』、有斐閣アルマ 2,090円(税込) ISBN-13:978-4641220287
履修上のポイント	<p>数学を用いる内容も部分的にあるので、戸惑う人もいるでしょう。そのような場合はスキップしてもよいので、ひとまず最後まで読み切ってください。一度で理解しようとするのではなく、何度も刷り込むように読むことで、全体像が見えてきます。ゲーム理論の基礎知識を持ち合わせていない受講生を想定し、基本教材はあえて躓かないような易しいものを選んでいきます。少し物足りなく感じるかもしれません。そのような場合は、積極的に参考図書を利用してください。</p>
レポート課題1	<p>ゲーム理論の歴史的背景をまとめた上で、ゲーム理論の目的をまとめなさい。(3000字程度から) 留意点：教材からの抜粋ではなく、自分自身の言葉で説明するように心がけること。また提出されたレポートはコピペチェックをかけますので、検出された場合は減点します。</p>
レポート課題2	<p>レポート1の内容を踏まえた上で次の2点について述べなさい。(1) ナッシュ均衡について説明し、(2) 繰り返しゲームの特徴と均衡を説明しなさい。(3000字程度から) 留意点：教材からの抜粋ではなく、自分自身の言葉で説明するように心がけること。また提出されたレポートはコピペチェックをかけますので、検出された場合は減点します。</p>

基本教材1

第1回	教材の学修（ゲーム理論とは）
第2回	教材の学修（合理性とは）
第3回	教材の学修（意思決定モデルの理解）
第4回	教材の学修（戦略ゲームの理解）
第5回	教材の学修（ナッシュ均衡の理解）
第6回	教材の学修（支配戦略の理解）
第7回	教材の学修（囚人のジレンマ）
第8回	教材の学修（混合戦略）
第9回	教材の学修（展開ゲームの理解）
第10回	初稿提出
第11回	添削指導により加筆修正
第12回	添削指導により加筆修正
第13回	添削指導により加筆修正
第14回	添削指導により加筆修正
第15回	最終稿提出

特別研究

特別研究の研究領域

哲学的な考察が要求される問題をテーマとし、西洋哲学、とくに 20 世紀以後の西洋現代哲学の古典的な文献を題材とした研究が望ましい。

特別研究の指導及び研究上のポイント

テーマを選択した動機や問題意識を整理し、その研究にとってどのような文献への参照が必要となるか検討し、基本文献を選択することが必要となる。基本文献の適切な読解を踏まえ、それについて独自に解釈、批判・検討を加えてゆくことが具体的な作業となる。こうして、先行研究との比較・検討を通じて、そのテーマについて独自の見解を論理的に説得力ある仕方で提示できるように指導してゆく。

特別研究の進め方

インターネットでの指導・対話を基本とするが、適宜、状況に応じてオンライン面接等の機会を設けてゆく。

- ・ 1 年次の夏休み前までを目途にテーマを決定し、必要な文献を検討、収集してゆく。
- ・ 1 年次夏休み中にテーマと文献について研究計画を作成する。
- ・ 2 年次前半を目途に研究計画の再確認を兼ねて中間報告を行う。
- ・ 進捗状況に応じ、適宜、対応を重ねてゆく。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の面接形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

メルロ＝ポンティの現象学、あるいはフェミニズム理論を主軸とした身体、経験に関する研究が望ましいが、身体、経験が主題ではなくてもできるだけ対応する。

特別研究の指導及び研究上のポイント

論文には、問題、主張、そして主張を支える論拠がある。つまり論文とは、問題提起があり、提起された問題に対して主張が提示され、主張を支える論拠が明確な文章のことである。研究においては、選択したテーマをもとにまずは関連文献の調査から始める。文献調査を行う中で論文の問題設定を行い、その問題を通してどのような主張を、どのような論拠にもとづいて展開するのかについて明確にしていく。関連文献の読解、整理、批判的検討は論文執筆の上で中心的な作業になる。

特別研究の進め方

- ・修士論文のテーマをもとに先行研究調査を行いながら、夏休み前までに論文で扱う問題、主張を絞り込んでいく。
- ・引き続き先行研究調査を行い、アウトラインを年末にかけて作り込んでいく。
- ・アウトラインをもとに執筆を行う。
- ・指導はメール、およびオンライン会議システムを使用する。進捗状況に応じて、適宜行う。

特別研究の研究領域

1. 「教育」・「学習」に関する研究。とてつもなく広い領域ではあるが、その考察・調査の対象における「“学習”のもつ意味」を問うもの。（例：PISA 型学力と新しい学力観，etc）
2. 制度的な研究。歴史的な研究。比較考察の視点を含む考察。（例：近代日本における教員養成課程の変遷，インターナショナルバカロレアに関する比較研究，etc）
3. 方法・評価に関する研究。（例：ヴィゴツキーの活動学習理論，etc）
4. 地域における特色のある教育。（例：横浜市における教育型青少年ボランティア活動，ヘルシンキのデイケア・スクールのカリキュラム変容について，etc）

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマの設定と、その考察により“何を明らかにしたいのか”を固めていくことが大事です。“（期間内に）どこまで明らかにできるのか”“どのような方法ならば導き出せるのか”という方法論・評価の視点や、先行研究の探索が重要です。すぐれた先行研究、テーマは異なっても視点の重なる研究（ヒントになる研究）を見極めるのも「研究」でつく力だと考えています。自分が明らかにすべきテーマは何か？ 資料の読解力，論理の展開と構成（文章），調査の方法に慣れるために，研究書（文献）を読むことをおすすめします。

特別研究の進め方

- ・オンラインゼミで話し合いながら，研究の視点や方法論と修士論文作成のスケジュールについて指導していきます。（昨年からは「自主ゼミ」（卒業生も参加）も活発に開かれています）
- ・夏期に通いもしくは合宿形式でゼミ内研究発表会を開催し，“自分の研究テーマ”について他者に説明・報告する機会をもちます。OB等も参加してくれますので、アドバイスや多様な意見をいただける貴重な機会となります。
- ・研究室への来室はいつでも歓迎いたします。時間を調整して個別にオンラインでの面談も実施することができます。

特別研究の研究領域

研究領域は，学校教育学，教育方法（評価）論，教育制度論，比較教育学，ジェンダーと教育等である。

1. 日本および各国・地域の学校教育の課題（例：日本の英語教育の課題，米国の高校改革）
2. 教育制度・政策，教育方法や評価（例：米国のテスト政策，カナダの教員評価など）
3. ジェンダー／セクシュアリティと教育（女性管理職研究・セクシュアルマイノリティと学校など）

特別研究の指導及び研究上のポイント

自分の研究したいテーマや題材について，まずは，これまでに行われてきた研究（先行研究）を徹底的に収集し，検討することが重要である。修士論文で「何を（どこまで）」「どのように」明らかにするかを明確にし，自分の主張を論理的かつ説得的に展開することができるように指導を行う。

特別研究の進め方

1年次前期は，研究テーマを検討・確定するために，先行研究・関連資料等の収集と検討を行う。後期は，面接やインターネットを利用して相談しながら，研究テーマの確定と具体的な研究計画の作成を行い，論文執筆を進める。
2年次の夏を目安に，中間報告の機会を設け，内容の検討と今後の計画の確認を行う。夏以降は，進捗に応じて適宜メールかインターネットでの相談を行い，修士論文提出まで指導を行う。

夏期・冬期・春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施する。

特別研究の研究領域

「人間の行動」を対象とした「心理学的」な研究であることと、何らかの形で「人間のデータ」を用いて考察する要素があることが望ましいと考えます。この場合の「データ」とは比較的広範囲に考えていただいて構いませんので、何らかの形で数量的に処理が可能であればよいと考えます。人間関わる様々なことを理解する方略としての心理学を考えていただくことが、肝要と考えます。

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究課題は基本的に心理学的課題に関連する部分を考究することが多くなると考えられますが、どんな研究課題を選択されたとしても、論文（科学的論文）を執筆・完成することが最終的な目標になります。そのためには、自らの研究する研究課題を大切に吟味することが必要になります。吟味するためには、設定した課題について、関連すると考えられる資料を十分に集めることは勿論のこと、その資料を基に改めて研究課題について詳細に検討することは必要不可欠なこととなります。それらの資料は書籍にとどまらず、その分野の専門的な論文を読みこなすことも求められます。またその研究課題の解明のためには、現実世界の中で課題解決に適切なデータを収集し、収集されたデータを基に解析し、結果を研究課題と検討し、解釈することができなくてはなりません。そのためには、心理学の各分野の知識はもちろん、統計的な知識も重要となると考えます。そこで通信制大学院ではありますが、メールのやり取りだけでなく、リアルなフィールドの中で様々な場面を設定し、必要な研究指導を実施致しますので、予定の調節など必要な調整をお願いします。実際に場所と時間を設定して、面接・サブゼミナール（基礎学習のため学部ゼミナールへの出席）・合同ゼミナール・合宿を実施致しますので履修者の皆様の積極的な参加を求めます。

特別研究の進め方

- ① 1年次前期 研究課題の設定に必要な展望的研究、先行研究・関連資料等の資料収集、研究方法の検討。
- ② 1年次夏期 面接・ゼミナール合宿等で、研究課題についての具体的実施計画の発表と検討。
- ③ 1年次後期 必要な調査・実験などの計画と予備調査などの実施、資料収集継続。
- ④ 2年次前期 研究課題・研究計画の最終調整と調査・実験などのデータ収集。
- ⑤ 2年次夏期 データ分析とゼミナール合宿での中間発表。可能であれば論文執筆。
- ⑥ 2年次後期 分析された結果についての検討と論文執筆、原稿チェック、最終稿作成、論文提出。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

人間の運動の中でもスポーツにおける運動を研究対象とし、実際に行っている運動について直接観察を通して捉えられる運動の特性や構造を明らかにすることに力点を置きます。スポーツ運動学研究の中核領域である運動質や運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法などについて、運動研究の発展の歴史を踏まえながら理解を深め、理論化することができるかが課題となります。

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究課題を設定する上で、どのような運動を対象として、どのような現象について、スポーツ運動学研究領域内のどのような方法論で研究していくのかについて自身で精査しておく必要があります。スポーツ運動学における研究方法論は多岐にわたることから、関連する知識を事前に学修しておく必要もあります。さらに、その方法論がヒトを対象とする場合、倫理審査が必要になる場合もあるので周知な準備が必要です。

特別研究の進め方

基本的にはレポート形式やインターネットを介したオンライン形式、研究室などでの対面形式での講義や対話形式で研究を進めていきます。大まかな予定として、1年次前半(8月程度まで)は研究テーマの精査や文献調査、スポーツ運動学の研究領域内の知識整理、1年次後半から2年次前半までは研究テーマの精査ならびに検討、実行を行い、残りの期間で論文執筆を行っていくことを想定しています。

夏期・冬期・春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

特別研究の研究領域

スポーツ競技者及び指導者におけるパフォーマンス向上に対する心理が及ぼす影響に関する研究，アダプテッドスポーツ科学についての検討など。

- 1) スポーツ競技者の心理的コンディショニングに関する研究
- 2) スポーツメンタルトレーニングにおける研究
- 3) アダプテッドスポーツにおける心理学
- 4) パラスポーツにおける心理学的アプローチ
- 5) スポーツコーチの成長に関する研究

特別研究の指導及び研究上のポイント

特別研究の指導及び研究上のポイント

どのような研究テーマにするか，自分の興味・関心，探求したいテーマを見つけていきましょう。

そのためには心理学の基礎知識や研究法が必須となります。特別研究は，文献の探し方，データ分析の行い方，論文の書き方を中心に指導します。研究指導の前半は，心理学の研究法について習得し，テーマに関する論文の収集し先行研究をまとめましょう。後半は，実験・調査等のデータ収集及び分析し論文を完成させます。

特別研究の進め方

特別研究の進め方

受講生の学修環境に応じて，面談やネットワークを使っての相談を1年次から開始します。夏季・冬期・春期休暇を利用して，面接指導を適時実施します。

1年次：研究テーマの決定。研究計画作成。研究方法の習得。関連文献収集。先行研究まとめ。

2年次：研究計画再検討。実験・調査研究スタート。ゼミ合宿(予定)。中間発表。データ分析。論文執筆（論文指導）。修士論文提出。

夏季・冬期，春期休暇等の期間を活用して，研究室において，面接指導やゼミナールを実施します。年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

コーチング学とは「体育・スポーツの指導実践に関する研究」を行う学問分野であり、個別科学の研究成果を評価し統合して、実践指導に活かす役割が求められます。そのため、まず自身の研究テーマに関する先行研究を精査した上で体力面、技術面、心理面等、実践指導に関わる問題を提起し、研究の仮説を立てます。その後、その問題を解決するための研究方法を運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ心理学等の個別科学領域から選択・実践し、得られた研究成果を実践指導に適用する方法について、さらに検討を進めるのがコーチング学の研究領域、および研究の進め方になります。

特別研究の指導及び研究上のポイント

コーチング学研究のポイントは「研究成果を実践指導に適用」するところまで、検討を進めることです。例えば研究成果をアスリートやコーチに解り易く（運動イメージとの照合が容易な方法で）フィードバックするまで研究を継続することが求められます。

特別研究の進め方

ゼミ生間の研究発表やプレゼンテーション等によるディスカッション、レポート提出・面接による指導を通して、研究を進めます。また可能な範疇で、夏季、冬季、春季休暇期間を利用し、個別科学領域における研究方法の演習も実施したいと考えています。

1年次前期は研究テーマの決定、先行研究の収集、研究方法の検討を行い、夏季は研究方法の演習、基本的な統計処理方法の学修、研究計画の発表を行います。1年次後期から2年次前期は実験、測定、調査等、研究の実施（データ収集）、およびデータ分析を行い、夏季の中間発表を経て、2年次後期に論文執筆（修士論文提出）といった研究の進め方を想定しています。

夏期・冬期・春季休暇等の期間を活用して、研究室において、面接指導やゼミナールを実施し、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

特別研究の研究領域

メンタルヘルスをベースとした、行動科学、心身医学のほかに、緩和ケア、プライマリ・ケア、医学教育、そして禅の効果を科学的に検証する研究も対象にします。また、医療・福祉の他にもヒトに関わる内容で、在籍期間にまとめることが出来るようなテーマを歓迎します。

特別研究の指導及び研究上のポイント

興味のある分野で研究を進めることが第一ですが、それが、実現可能かも考えながら研究プランを組むことも大切です。具体的なプランをともに考え、指導というよりも進めていくうえでのサポートを行う方針です。教科書や文献を読んで、自ら考えるとともに、ディスカッションを重ねていくと、その中で新たなアイデアや突破口が見えてくる場合も多くあります。研究上ではディスカッションをできるだけ行いたいと思います。

特別研究の進め方

テーマ選びと、それに関連する文献の収集から始め、仮説を立て、研究計画書を作成するとともに、必要があれば倫理審査委員会へ申請します。そののち研究の実施、結果の解析を行います。最終的には論文作成になりますが、すべての期間においてできるだけコミュニケーションをとりながら、小さな疑問点でも早めに解決しつつ進めることが大切です。誰かに研究内容をわかりやすくプレゼンテーションすることを常に考えながら進めていきましょう。